



TA/リモートルータ **RTA52i**

スタートマニュアル

本機を使い始めるときにお読みください

本機お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を行ってください。
本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

マニュアルのご案内

RTA52i の機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。🌀マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください。(ユーザーズマニュアル 付録)



スタートマニュアル (本書)

RTA52i を使い始めるときに読むマニュアルです。

設置のしかたや設定のしかた、基本的な使いかたについて説明しています。



ユーザーズマニュアル

RTA52i の機能をもっと活用したくなるときに読むマニュアルです。

電話、FAX、ルータとしての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。また、困ったときの対処方法についてもまとめて説明しています。



設定例集 (PDF 形式)

RTシリーズルータを使ってWAN やリモートアクセス環境を構築したいときに読むマニュアルです。RTシリーズのルータ機能を使ってできるさまざまな設定例が収録されています。



コマンドリファレンス (PDF 形式)

コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。RTA52i のコンソールコマンドについて解説しています。

重要なお知らせ

通信料金について

RTA52iをダイヤルアップルータとしてご使用になる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。ダイヤルアップルータをパソコンやLANに接続した場合、ダイヤルアップルータはパソコンのアプリケーション（メールソフト、ブラウザなど）が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、LAN外の宛先があると本体に設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。そのため設定間違い、回線切断忘れ、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダ接続料金がかかる場合があります。ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかにご注意ください。また設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、ときどき NetVolante シリーズのホームページ（<http://NetVolante.rpro.yamaha.co.jp/>）を見ることを強く推奨します。

次のようなケースでは、予想外の通信料金がかかっている場合があります。

本機を使い始めた時

本機のプロバイダ接続設定を変更した時

パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時

MP 接続を設定した時

LAN 接続と TA 接続を併用または切り替えた時

パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時

ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時

本機のファームウェアをリビジョンアップした時

その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など



注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

MP 接続に対応していないプロバイダに対して、MP 接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。

電波障害規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

- ・ 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- ・ 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

目次

マニュアルのご案内	表紙裏
重要なお知らせ	1
本書の表記について	4
商標について	4
安全にお使いいただくために	5
第 1 章 準備しよう	
1-1 回線の契約について	8
1-2 プロバイダとの契約について	10
1-3 LAN ポートについて	11
第 2 章 ルータを設置しよう	
2-1 バックアップ電池をセットする	14
2-2 ISDN 回線を接続する	16
本機の DSU を使う場合	17
他の ISDN 機器の DSU を使う場合	18
2-3 電話機や FAX を接続する	19
2-4 電源を接続する	20
2-5 動作を確認する	21
2-6 LAN ポートに接続する	24
2-7 シリアルポートに接続する	28
2-8 専用線を接続する	30
回線を接続する (本機の DSU を使う場合)	31
回線を接続する (他の DSU を使う場合)	32
パソコンを接続する	33
電源を接続する	35
動作を確認する	36

第 3 章 パソコンを設定しよう

3-1 ソフトウェアをインストールする	4 0
Windows 95/98 の場合	4 0
Macintosh の場合	4 1
3-2 ダイヤルアップ接続で設定する	4 2
Windows 95/98 の設定	4 2
Macintosh の設定	5 0
3-3 専用線接続で設定する	5 8
Windows 95/98 の設定	5 8
Macintosh の設定	6 7
3-4 擬似 LAN 接続で設定する	7 5
Windows95/98 の設定	7 5
Macintosh の設定	8 5
3-5 TA 接続で設定する	9 4
Windows 95/98 の設定	9 4
Macintosh の設定	1 0 0
3-6 手動でネットワーク機能を設定する	1 0 5
Windows 95/98 のネットワーク設定	1 0 5
Macintosh (TCP/IP) のネットワーク設定	1 0 7
3-7 手動で TA 接続を設定する	1 0 8
Windows95/98 の TA 接続設定	1 0 8
Macintosh の TA 接続設定	1 1 4

第 4 章 ルータを使ってみよう

4-1 インターネット接続を開始する	1 1 8
自動で接続する	1 1 8
ボタンで接続する	1 1 9
4-2 インターネット接続を終了する	1 2 0
自動で切断する	1 2 0
ボタンで切断する	1 2 0
4-3 ルータの動作状態を確認する	1 2 1
ランプで確認する	1 2 1
ディスプレイで確認する	1 2 2
かんたん設定ページで確認する	1 2 3
4-4 料金情報をリセットする	1 2 6
4-5 プロバイダ接続を制限する	1 2 9
4-6 不審な自動接続が見つかったときは	1 3 4
通信記録の見かた	1 3 5
原因になりやすい設定項目	1 3 7

付録

索引	1 4 2
----------	-------

本書の表記について

マークの意味

本書では、安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示しています。必ずお読みください。

 **警告** 人体に危険を及ぼしたり、装置に大きなダメージを与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。

 **注意** 機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

MEMO

- 操作や運用上に関連した情報です。
- 参考にお読みください。

略称について

本書では、YAMAHA RTA52iのことを本機、Microsoft® Windows® 98をWindows98、Microsoft® Windows® 95をWindows95、INS ネット64のことをISDN、10BASE-TケーブルのことをLANケーブルと記述しています。

設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URLアドレスなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

商標について

- ・イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- ・Apple、Macintosh、MacOSは米国Apple社の登録商標および商標です。
- ・Microsoft、Windowsは米国Microsoft社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・Adobe、Acrobatは米国AdobeSystems社の登録商標です。
- ・INS ネット64は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- ・Stac LZSは米国Hi/fn社の登録商標です。

安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために下記をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。



警告

- ・本機は一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するようには設計されていません。誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、および電源ケーブルが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電の恐れがあります。
- ・濡れた手で電源ケーブルを触らないでください。感電や故障の恐れがあります。
- ・電源ケーブルを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ・本機は日本国内用 AC100V(50/60Hz) の電源専用です。他の電源で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- ・本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機の換気口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・電源を入れたままケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- ・乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショートさせたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。

 注意

- ・直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないください。故障や動作不良の原因となります。
- ・極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、電源コードを抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ・ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないください。故障や動作不良の原因となります。
- ・本機を他の機器と重ねて置かないください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- ・近くに雷が発生したときは、電源コードやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機のアースは必ずとってください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。

第 1 章

準備しよう

この章では、RTA52i を使う上で必要な契約や準備について説明しています。設置を始める前にお読みになり、必要なものや情報を揃えてください。

1 - 1 回線の契約について	8
1 - 2 プロバイダとの契約について	1 0
1 - 3 LAN ポートについて	1 1

1 - 1 回線の契約について

本機をお使いになるには、ISDN回線または専用線の契約が必要です。

ISDN回線

電話機のみで使う場合やインターネットへダイヤルアップで接続する場合は、ISDN回線が必要です。これからISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。申込票の各項目は、下記を参考にご記入ください。

お取付工事

・通信機器の名称	RTA52i
・メーカー	YAMAHA
・認証番号	CD99-1212JP L99-1293
・DSU	DSU内蔵型 TA お客さま工事、またはNTT工事

コンサルティング項目

・インタフェース形態	およびレイヤ1起動種別	P-MP常時またはP-MP呼毎
・発信者番号通知サービス		通常通知(通話ごと非通知)*
・ユーザ間情報通知サービス		着信許可
・通信中着信通知サービス		許可
・グローバル着信		有
・i・ナンバーサービス		2つ電話番号を取得したい場合
・ダイヤルインサービス		3つ以上の電話番号を取得したい場合

*「通常非通知(回線ごと非通知)」を選択した場合は、番号通知を利用した一部のサービスが受けられない場合があります。

- MEMO
- コンサルティング項目の無料項目については、なるべく許可で申し込むこととお勧めします。実際に使うときの動作は、本機の機能で使わないように設定することができます。

専用線

専用線を利用する場合は、いずれかのプロバイダに専用線接続サービスをお申し込みください。OCNエコノミーやデジタルアクセス64などの申し込みも一緒に手配されます。専用線では使用頻度に関らず毎月定額の回線料金で利用でき、ISDN回線のように使い過ぎる心配はありません。ただし、一般の電話やFAXと発着信することはできません。詳しくは、各プロバイダへご相談ください。申込票の各項目には、下記を参考にご記入ください。

・通信機器の名称	RTA52i
・メーカー	YAMAHA
・認証番号	CD99-1212JP L99-1293

ISDN の付加サービスについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。この他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知：	発信者の番号を相手に通知できます。
サブアドレス通知：	ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続した機器を指定して着信させることができます。
i・ナンバー（有料）：	電話番号を1つ増設し、アナログ回線からの通話でも2つの電話番号を使い分けて着信させることができます。
ダイヤルイン（有料）：	電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。
料金情報通知：	通話にかかった料金が通知されるサービスです。
ユーザ間情報通知：	通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。
通信中着信通知サービス：	通話中に着信を知らせるサービスです。

[フレックスホン]

コールウェイティング（有料）：	通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答するキャッチホンに相当するサービスです。
三者通話（有料）：	通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。
通信中転送（有料）：	通話中の通信を第三者へ転送できます。
着信転送（有料）：	着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

- MEMO
- 本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現することができます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似コールウェイティング、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。
 - NTTのフレックスホンでは交換機がサービスを行うので、回線の状態にかかわらず利用することができます。
 - 擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2本同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。したがって、擬似フレックスホン機能が働いている時は、2回線共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。

1-2 プロバイダとの契約について

インターネットへ接続するためには、いずれかのプロバイダとの接続契約が必要です。

端末型ダイヤルアップ接続契約

必要なときだけ電話をかけてインターネットへ接続する場合は、いずれかのプロバイダに"端末型ダイヤルアップ接続"の契約でお申し込みください。すでにモデムを使ってインターネットへ接続していた場合は、その契約のまま使用することができます。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

ドメイン名

ISDN 対応アクセスポイントの電話番号

回線速度

ユーザID (アカウント名)

パスワード

専用線接続契約

専用線で接続する場合は、いずれかのプロバイダに"専用線接続"の契約でお申し込みください。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

ドメイン名

ネームサーバアドレス (DNS アドレス)

IP アドレス番号 (例: 192.168.0.112)

ネットマスク (例: 225.225.225.240)

回線速度



注意

プロバイダを変更したり、解約したときは、必ず本機から不要な設定を削除してください。回線業者やプロバイダから意図しない課金を請求される場合があります。

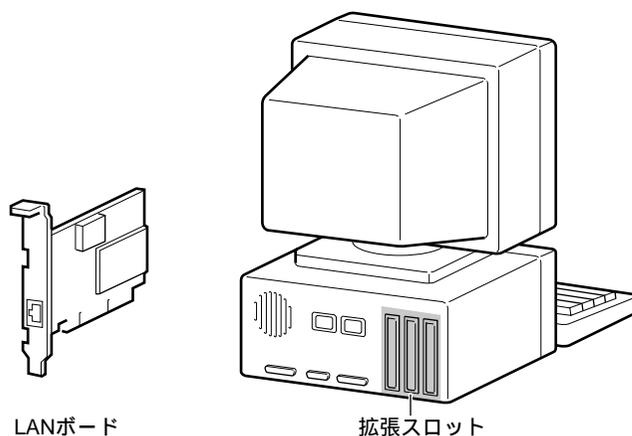
1-3 LANポートについて

本機をLAN接続で使う場合は、LANポート（10BASE-Tポート）が必要です。お使いのパソコンにLANポートがない場合は、本機の設置を始める前に、10BASE-T対応LANボードまたは10BASE-T対応LANカード（PCカード）を取り付けて、LANポートを増設してください。

取り付け後は、LANボード（またはLANカード）のマニュアルにしたがって、正常に動作することを確認してください。もし、正常に動作していない場合は、先にLANボード（またはLANカード）の問題を解決してから、本機の設置を行ってください。

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合は、拡張スロットにLANボードを取り付けます。スロットには、PCIやISAなどの種類があるので、お使いのパソコンで空いているスロットの種類を調べてから、対応したLANボードを取り付けてください。

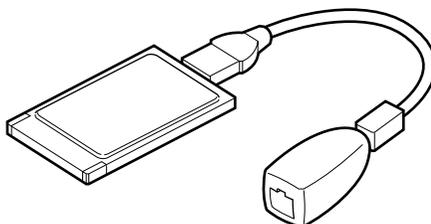


購入時のチェックポイント

- ・対応パソコン（Windows、Macintosh など）
- ・スロットの種類（PCI、ISA、Cバス、Nubus など）
- ・コネクタの種類（10BASE-T、10BASE-T/100BASE-TX）

ノート型パソコンの場合

ノート型パソコンの場合は、PCカードスロットにLANカードを取り付けます。PCスロットの規格や添付ソフトに種類があるので、お使いのパソコンに対応したPCカード型LANカードを取り付けてください。



LANカード

購入時のチェックポイント

- ・ PC カードスロットの種類 (PCMCIA Type I、 Type II、 Type III)
- ・ OS の種類 (Windows98/95、 MacOS など)
- ・ コネクタの種類 (10BASE-T、 10BASE-T/100BASE-TX)

LAN ポートが増設できない場合

拡張スロットやPCカードスロットがない場合や空きスロットがない場合は、本機の擬似 LAN 機能により、1台のパソコンを本機経由でLANに接続することができます。

2-2 「シリアルポートに接続する」(P.28)

3-3 「擬似 LAN 接続で設定する」(P.75)

第2章

ルータを設置しよう

この章では、RTA52i を設置の方法について説明しています。ISDN 回線の場合は、2-1 ~ 2-5 の手順に従って設置を行い、電話機が使えることを確認します。インターネットに接続する場合は、接続方法に応じて 2-6 または 2-7 の手順でパソコンと接続します。専用線の場合は、2-8 の手順に従って接続および動作確認を行います。本機各部の名称と機能についてはユーザズマニュアル序章をご覧ください。

2-1	バックアップ電池をセットする	1 4
2-2	ISDN 回線を接続する	1 6
	本機の DSU を使う場合	1 7
	他の ISDN 機器の DSU を使う場合	1 8
2-3	電話機や FAX を接続する	1 9
2-4	電源を接続する	2 0
2-5	動作を確認する	2 1
2-6	LAN ポートに接続する	2 4
2-7	シリアルポートに接続する	2 8
2-8	専用線を接続する	3 0
	回線を接続する (本機の DSU を使う場合)	3 1
	回線を接続する (他の DSU を使う場合)	3 2
	パソコンを接続する	3 3
	電源を接続する	3 5
	動作を確認する	3 6

2-1 バックアップ電池をセットする

ISDN回線では、通常停電時に回線が使えなくなってしまうますが、バックアップ電池を入れることにより、停電でも約4時間TEL1ポートに接続したアナログ電話機で通話できるようになります。

- MEMO
- 停電以外の時は、乾電池を入れなくても本機を使用できます。
 - 本機を専用線で使用する場合は、乾電池は不要です。

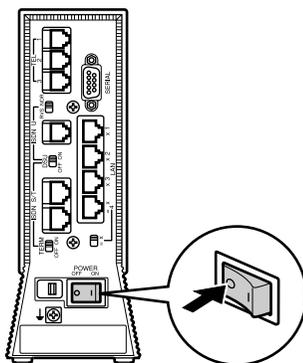
必要なもの

乾電池

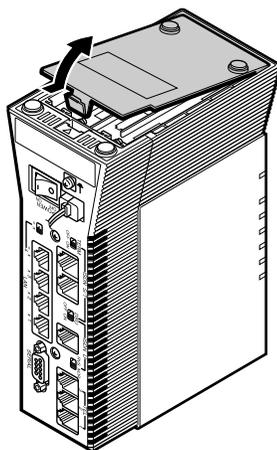
同一銘柄で新品の単3形アルカリ乾電池を8本ご用意ください。

接続のしかた

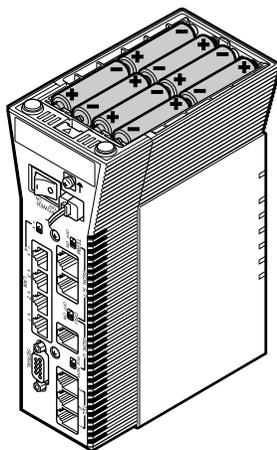
- 1 POWER スイッチの「」側を押して、本機の電源をオフにします。



- 2 本機底面の電池カバーのレバーを押して、電池カバーを開きます。

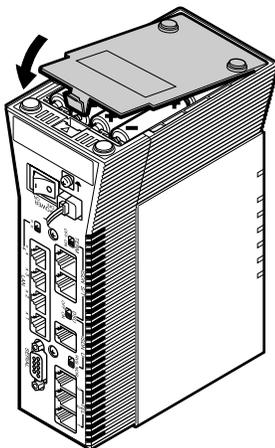


3 乾電池を図の方向にセットします。



警告 乾電池を入れるときには、電池のプラス(+)マイナス(-)を本体の表示に合わせてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・化学やけどや周囲を汚損する原因となることがあります。

4 電池カバーを閉じます。

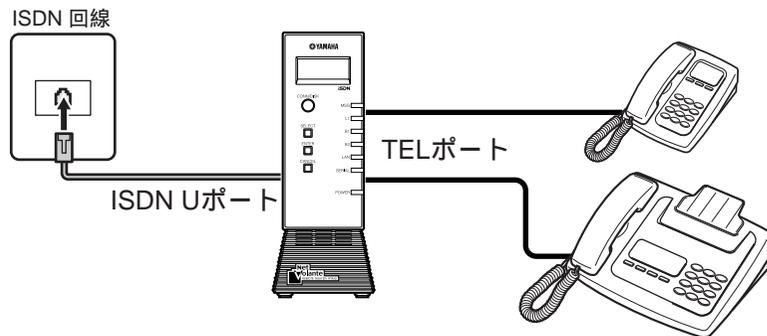


2-2 ISDN 回線を接続する

本機に ISDN 回線を接続する場合、2つの方法があります。ISDN 回線の申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

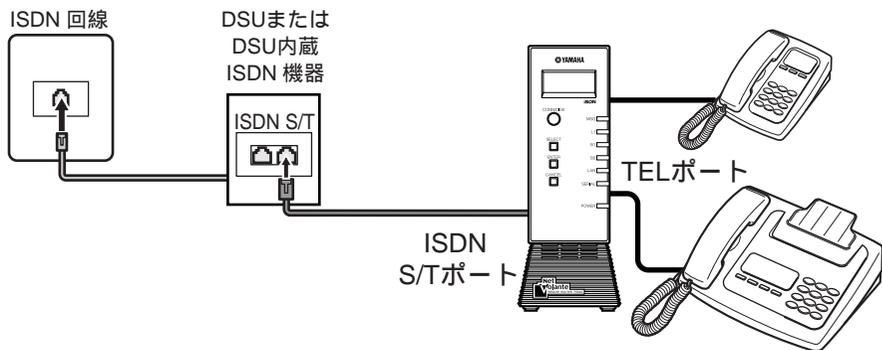
本機の DSU を使う場合

- ・ 申込票の「DSU」項目で、「DSU 内蔵 TA」を選択したとき
- ・ 工事後の ISDN 回線が、通常のモジュージャックと同じ形（6 極端子）をしているとき



他の ISDN 機器の DSU を使う場合

- ・ 申込票の「DSU」項目で、「NTT 工事」を選択したとき
- ・ 工事後の ISDN 回線が、通常のモジュージャックより幅の広い形（8 極端子）をしているとき
- ・ 他の ISDN 機器や DSU と接続するとき



■ 本機のDSUを使う場合

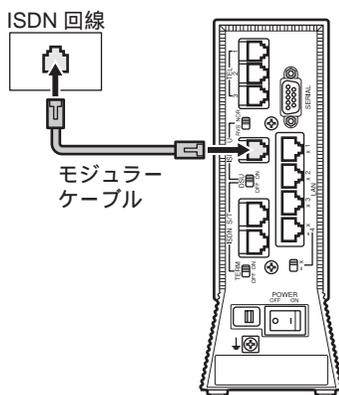
必要なもの

モジュラーケーブル

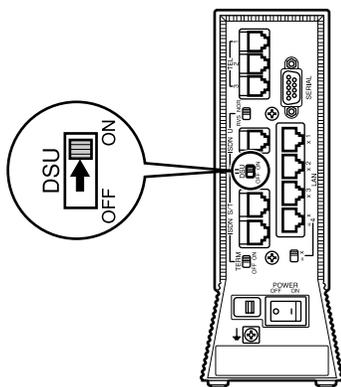
一般に市販の電話用ケーブル(2極用、4、6極用のいずれでも可、ただし特殊な結線のもの除く)が使用できます。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本(3m)付属しています。

接続のしかた

- 1 回線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートをモジュラーケーブル(灰色)で接続します。



- 2 DSUスイッチを「ON」側にします。



■ 他の ISDN 機器の DSU を使う場合

必要なもの

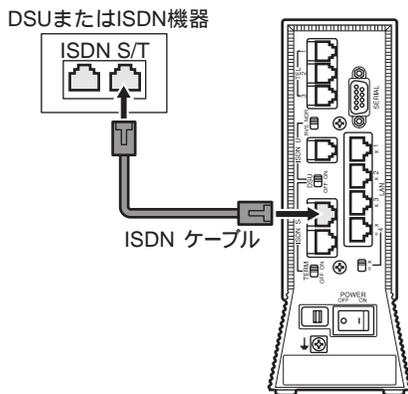
ISDN ケーブル

市販の ISDN ケーブルをご用意ください。ただし、DSU や各 ISDN 機器間の総延長が 150m 以内になるようにします。また、接続できる DSU や ISDN 機器は最大 8 台です。

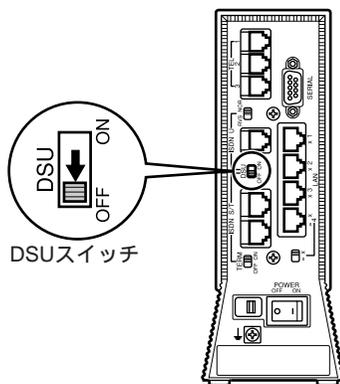
- MEMO ● ISDN ケーブルは、LAN ケーブルのコネクタと同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

接続のしかた

- 1 DSU (または ISDN 機器の S/T 点ポート) と本機の ISDN S/T ポートを ISDN ケーブルで接続します。
本機の ISDN S/T ポートはどちらに接続しても同じです。



- 2 DSU スイッチを「OFF」側にします。



2 - 3 電話機やFAXを接続する

ISDN回線の場合は、本機のTELポートに電話機やFAX、モデム、電気/ガス遠隔検針装置などのアナログ機器を3台まで接続できます。TEL1ポートは、停電時のバックアップ機能があるので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

- MEMO
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。
 - アナログ機器は3台まで接続できますが、同時に使えるのはルータやTAと合わせて2通話までです。

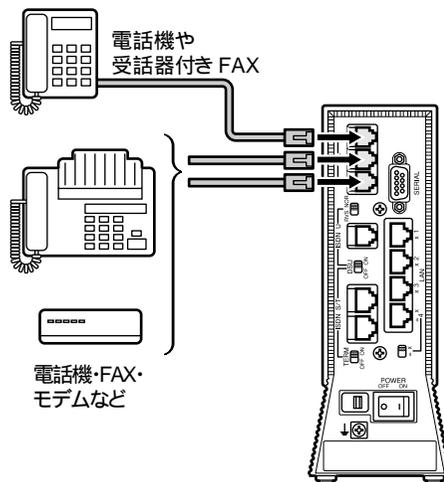
必要なもの

モジュラーケーブル

一般に市販の電話用ケーブル(2極用、4、6極用のいずれでも可、ただし特殊な結線の場合は除く)が使用できます。アナログ機器の数や距離に合わせてご用意ください。

接続のしかた

- 1 電話機と本機のTELポートをモジュラーケーブルで接続します。



2 - 4 電源を接続する

本機を使用するときは、アースコードと電源コードをコンセントに接続します。

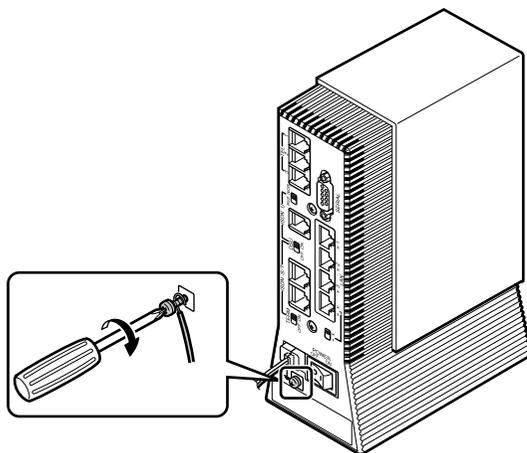
- ⚠注意** 本機のアースコードは必ずを接続してください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。
アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

必要なもの

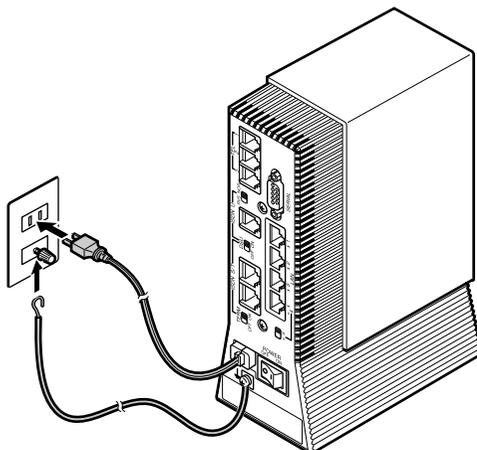
アースコード 設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。

接続のしかた

- 1 アース端子のネジを⊕ドライバーで緩め、アースコードをアース端子に接続して固定します。



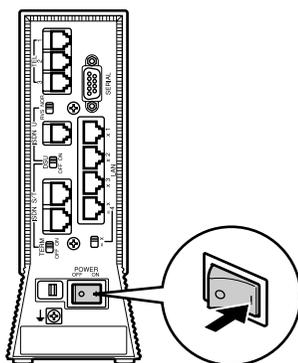
- 2 アースコードと電源コードをコンセントに接続します。



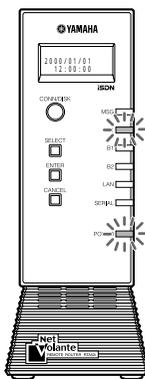
2-5 動作を確認する

回線や電話機の接続が終わったら、ルータの動作を確認します。

- 1 POWER スイッチの「|」側を押して、本機の電源をオンにします。
電源をオンにすると、ランプが数回点滅します。



- 2 POWER ランプとL1 ランプが点灯していることを確認します。
両方のランプが点灯していれば正常です。手順 6 へ進んでください。
点灯していないときは次の手順へ進み、順に確認してください。



- MEMO
- ISDN 回線で何も発着信していないときは、ディスプレイに日付と時刻が表示されます。

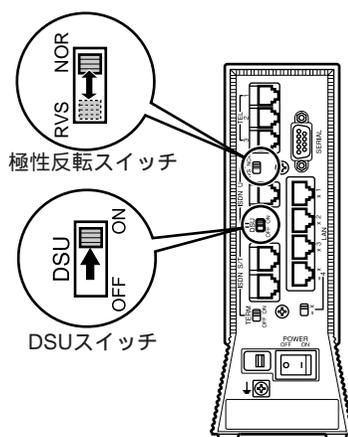
2

ルータを設置しよう

- 3** POWER ランプが消灯している場合は、一旦 POWER スイッチの「 **|** 」側を押して電源をオフにし、電源コードの接続状態やコンセントに電気が来ているかを確認します。コンセントに他の電気製品を接続し、電源が入るかを確認してください。
- 4** ISDN L1 ランプが消灯している場合は、一旦 POWER スイッチの「 **|** 」側を押して電源をオフにし、各スイッチの設定を確認します。

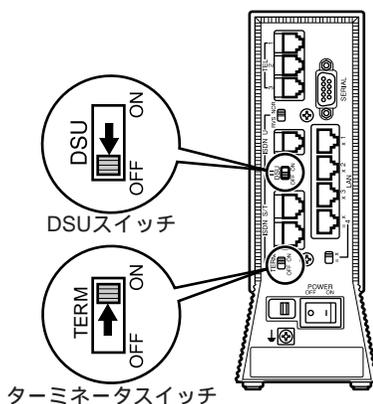
本機の DSU を使う場合

DSU スイッチが「ON」側になっていることを確認します。「ON」側になっている場合は、極性反転スイッチを逆側にします。



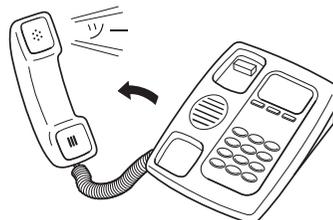
他の ISDN 機器の DSU を使う場合

DSU スイッチが「OFF」側になっていることを確認します。「OFF」側になっている場合は、ターミネータスイッチを「ON」側にします。

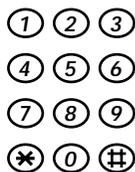


- 5** POWER スイッチの「 **|** 」側を押して本機の電源をオンにし、ランプやディスプレイの表示を確認します。

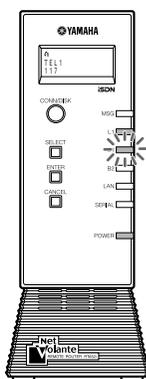
6 電話機を受話器を上げて、ツーという発信音を確認します。



7 117 など、試しに電話をかけます。



電話がつながると、ISDN B1またはB2ランプが点灯します。



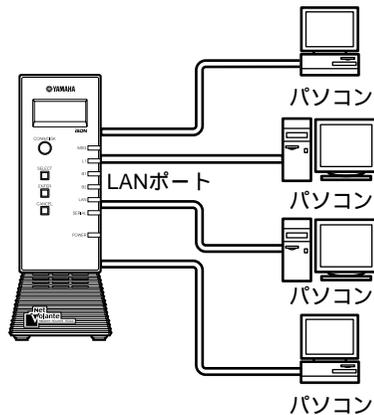
8 受話器を置いて、電話を切ります。



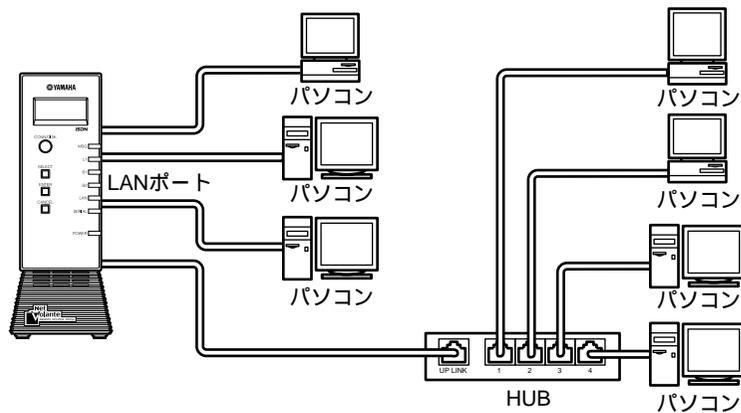
2-6 LANポートに接続する

複数のパソコンに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで接続できます。また、HUBを追加することにより、パソコンを5台以上を接続することも可能です。パソコンの台数に合わせてHUBをご用意ください。

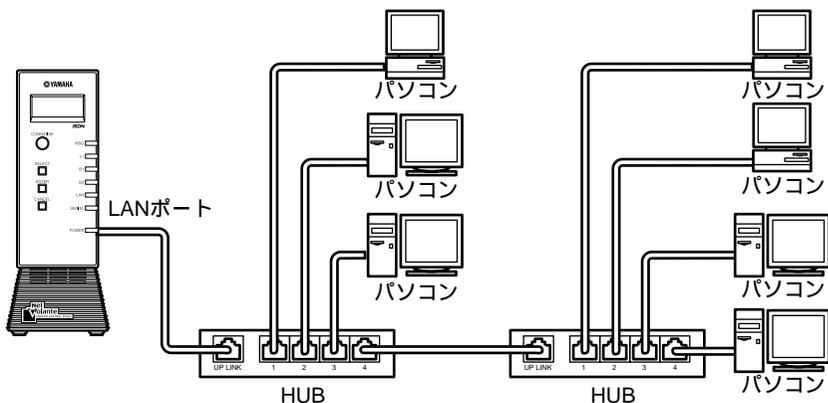
4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



既存のLANに接続する場合の例



必要なもの

LAN ケーブル

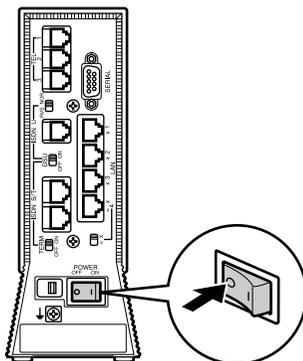
パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T対応のLAN ケーブル(ストレートタイプ)をご用意ください。(本機に1本付属)

HUB

パソコンの台数に合ったポート数を備えた10BASE-T対応のHUBをご用意ください。

接続のしかた

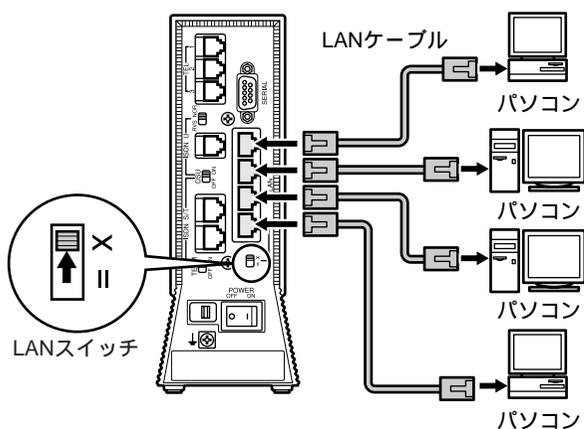
- 1 POWER スイッチの「**↑**」側を押して、本機の電源をオフにします。



- 2 パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートをLANケーブルで接続します。

4台までのパソコンを接続する例

本機のLANポートに接続します。LAN4ポートに接続した場合は、LANスイッチを「**×**」側にしてください。



2

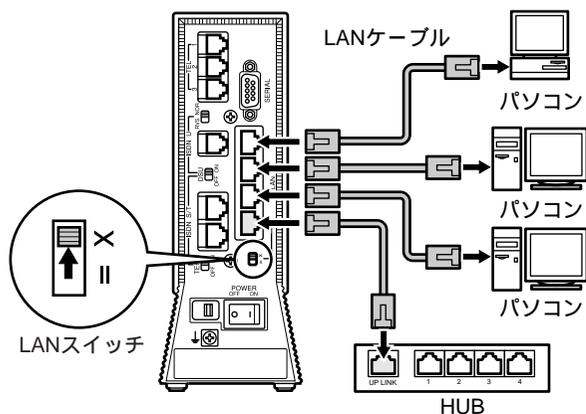
ルータを設置しよう

Win

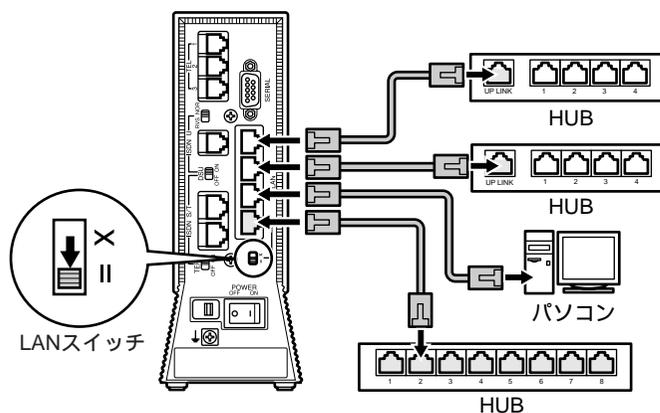
Mac

5台以上のパソコンを接続する例

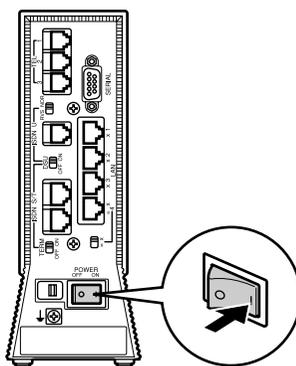
HUBの場合は、UPLINKポートを接続します。LAN4ポートに接続した場合は、LANスイッチを「×」側にしてください。



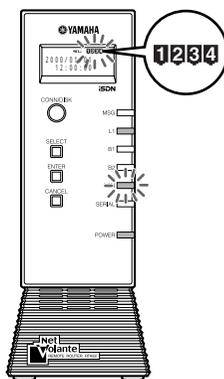
HUBにUPLINKポートがない場合や空いていない場合は、HUBのポートと本機のLAN4ポートを接続し、LANスイッチを「=」側にしてください。



- 3** POWER スイッチの「|」側を押して、本機の電源をオンにします。
ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプが点灯します。



- 4** パソコンやHUBの電源をオンにし、LANランプが点灯または点滅することを確認します。
ディスプレイには接続したLANポートの表示が点灯し、LANランプが点灯または点滅すれば、正常です。



- MEMO
- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべてオフの状態では、LANランプは点灯または点滅しません。
 - ディスプレイのLANポート表示は接続されているポートのみ点灯します。
 - 通信中も点滅することはありません。

- 5** LANランプが点灯または点滅しない場合は、LANケーブルの接続状態および、パソコンやHUBの電源を確認します。

- MEMO
- HUBを4台（4段）以上つなげて利用することはできません。そのような場合はスイッチングハブやポート数の多いHUBなどを使用して3段以内になるようにしてください。

2-7 シリアルポートに接続する

本機を TA として使う場合や擬似 LAN 機能を使う場合は、パソコンを本機のシリアルポートに接続します。シリアルポートには1台のパソコンを接続できます。

必要なもの

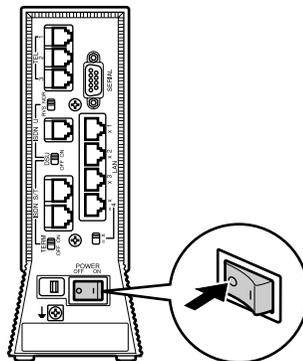
シリアルケーブル D-sub9Pinのモデムケーブルが使用できます。(本機に1本付属)

Macintosh 変換ケーブル Macintosh のモデムポートまたはプリンタポートに接続する場合に使います。(本機に1本付属)

MEMO ● シリアルポート (モデムポート) が D-sub25Pin のパソコンに接続する場合は、市販の 9Pin-25Pin 変換アダプタをご用意ください。

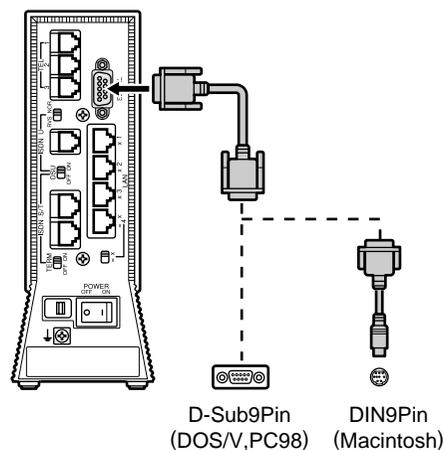
接続のしかた

- 1 POWER スイッチの「」側を押して、本機の電源をオフにします。

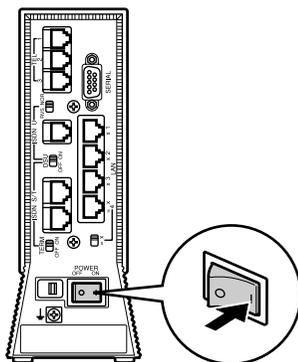


- 2 パソコンのシリアルポートと本機のシリアルポートをシリアルケーブルで接続し、固定ネジを締めて固定します。

Macintosh の場合は、Macintosh 変換ケーブルを使って接続してください。



- 3 POWER スイッチの「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。
ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプが点灯します。



- MEMO
- パソコンからターミナルソフトやダイヤルアップソフトで通信しているときは、SERIAL ランプが断続的に点滅します。通信しようとしたときに SERIAL ランプが点滅しないときは、シリアルケーブルの接続を確認してください。
 - Windows95 の場合は、接続したシリアルポートが有効になっているかパソコンの BIOS 設定や Windows の設定を確認してください。詳しくはお使いのパソコンに添付の取扱説明書をご覧ください。
 -
 - Macintosh では、パソコンの電源をオフにすると SERIAL ランプが点灯する機種がありますが、正常な動作です。

2

ルータを設置しよう

Win

Mac

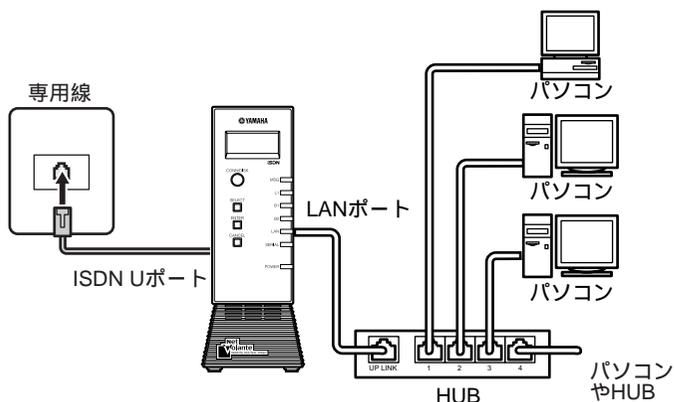
2-8 専用線を接続する

本機を専用線に接続して使用する場合は、回線の接続とパソコンの接続、電源の接続を行います。回線の接続は、専用線の工事内容により、2つの方法があります。またパソコンの接続は、台数に合わせて必要なLANケーブルやHUBをご用意ください。

- MEMO ● 専用線の場合は、TELポート間の内線通話以外でTELポートにアナログ機器（電話機、FAX、モデムなど）を接続して使うことはできません。

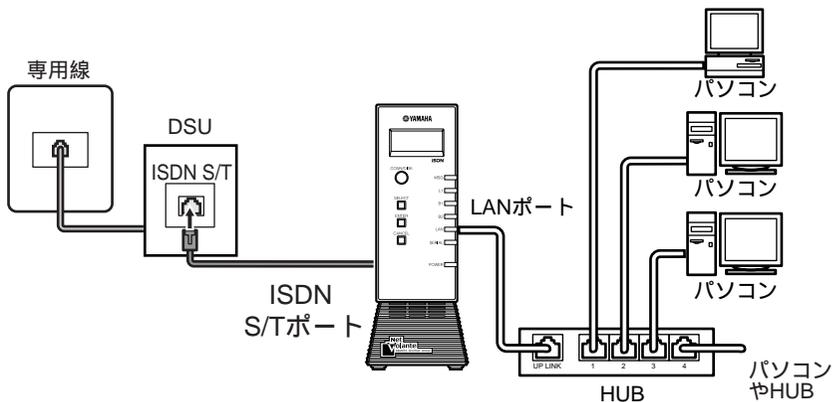
本機のDSUを使う場合

- ・ 専用線申込票の「DSU」項目で、本機内蔵のDSU使用で申し込んだとき
- ・ 工事後の専用線が、通常のもジュラーjackと同じ形（6極端子）をしているとき



他のDSUを使う場合

- ・ 専用線申込票の「DSU」項目で、回線業者のDSU使用で申し込んだとき
- ・ 工事後の専用線が、通常のもジュラーjackより幅の広い形（8極端子）をしているとき



■ 回線を接続する（本機のDSUを使う場合）

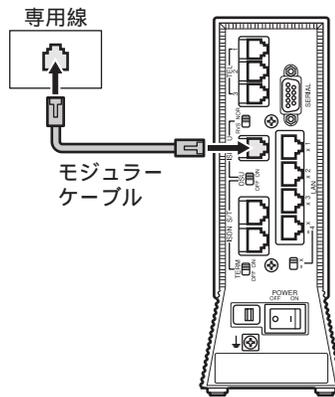
必要なもの

モジュラーケーブル

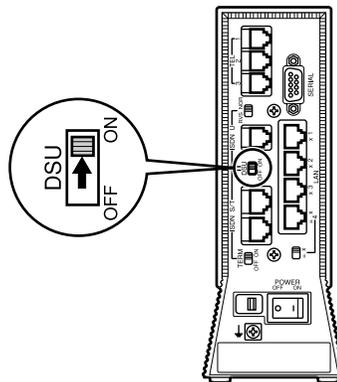
一般に市販の電話用ケーブル（2極用、4、6極用のいずれでも可、ただし特殊な結線のものとは除く）が使用できます。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本（3m）付属しています。

接続のしかた

- 1 専用線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートをモジュラーケーブル（灰色）で接続します。



- 2 DSUスイッチを「ON」側にします。



注意 専用線の場合は、S/Tポートには絶対に機器を接続しないでください。S/Tポートに機器を接続して使うことはできません。

■ 回線を接続する（他の DSU を使う場合）

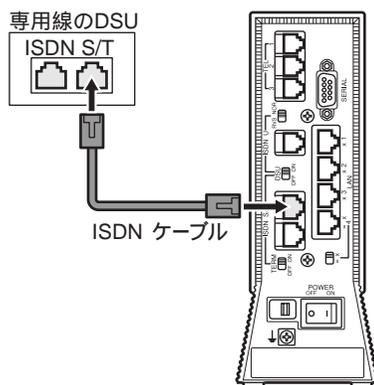
必要なもの

ISDN ケーブル 市販の ISDN ケーブルをご用意ください。ただし、DSU まで総延長が 150m 以内になるようにしてください。

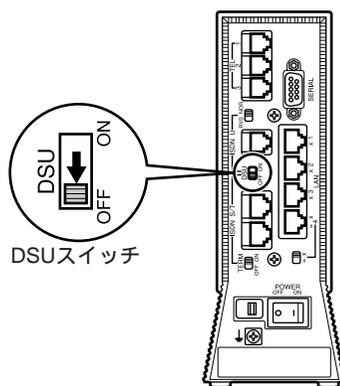
- MEMO ● ISDN ケーブルは、LAN ケーブルのコネクタと同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

接続のしかた

- 1 専用線の DSU と本機の ISDN S/T ポートを ISDN ケーブルで接続します。本機の ISDN S/T ポートはどちらに接続しても同じです。



- 2 DSU スイッチを「OFF」側にします。



⚠ 注意 専用線の場合は、空いている S/T ポートには絶対に機器を接続しないでください。空いている S/T ポートに機器を接続して使うことはできません。

■ パソコンを接続する

パソコンに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで接続できます。また、既存のLANのHUBに接続することにより、LAN上のパソコンを接続できます。パソコンの台数に合わせてHUBやLANケーブルをご用意ください。

必要なもの

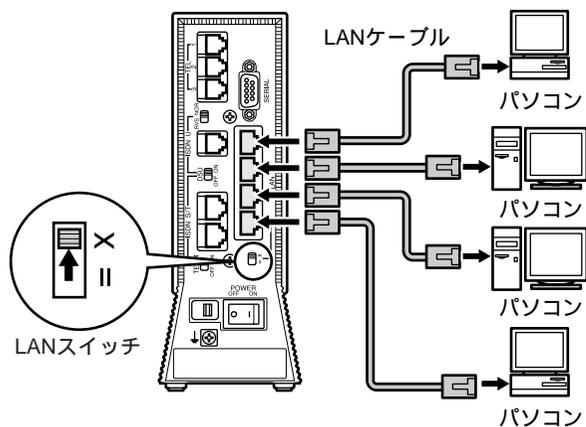
LANケーブル	パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T対応のLANケーブル(ストレートタイプ)をご用意ください。本機には1本付属しています。
HUB	パソコンの台数に合ったポート数を備えた10BASE-T対応のHUBをご用意ください。

接続のしかた

- 1 パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートをLANケーブルで接続します。

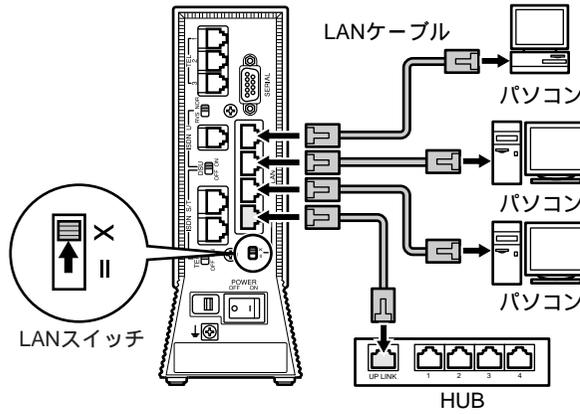
4台までのパソコンを接続する例

本機のLANポートに接続します。LAN4ポートに接続した場合は、LANスイッチを「×」側にしてください。

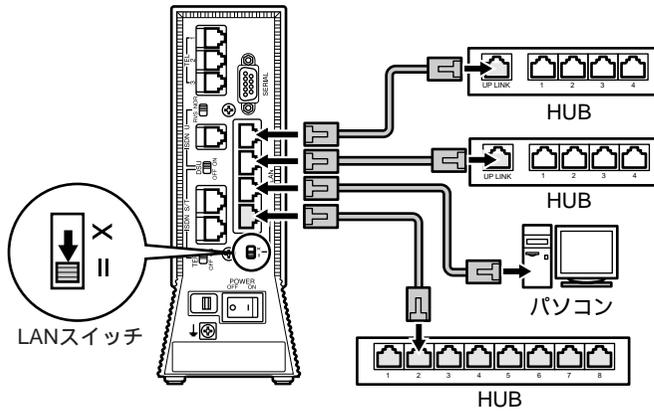


5台以上のパソコンを接続する例

HUBの場合は、UPLINKポートを接続します。LAN4ポートに接続した場合は、LANスイッチを「×」側にしてください。



HUBにUPLINKポートがない場合や空いていない場合は、HUBのポートと本機のLAN4ポートを接続し、LANスイッチを「=」側にしてください。



2

ルータを設置しよう

Win

Mac

■電源を接続する

本機を使用するときは、アースコードと電源コードをコンセントに接続します。



注意

本機のアースコードは必ずを接続してください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。

アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

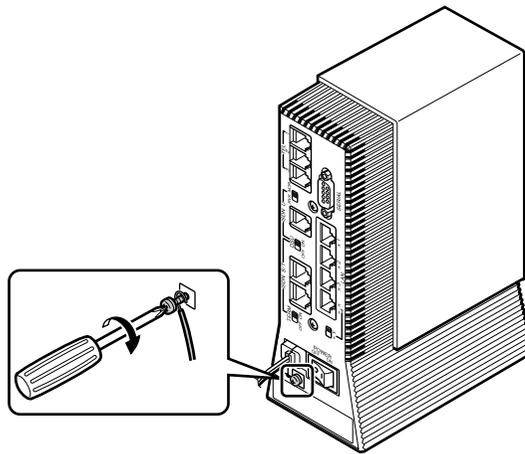
必要なもの

アースコード

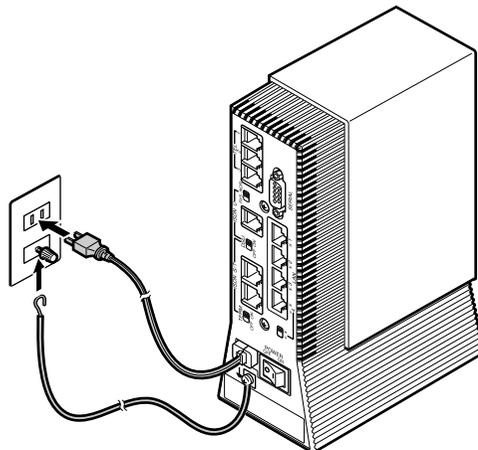
設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。

接続のしかた

- 1 アース端子のネジを⊕ドライバで緩め、アースコードをアース端子に接続して固定します。



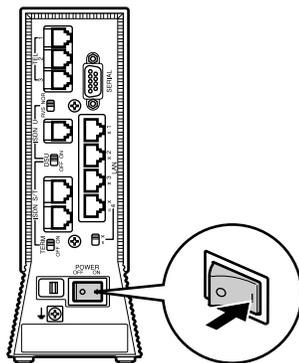
- 2 アースコードと電源コードをコンセントに接続します。



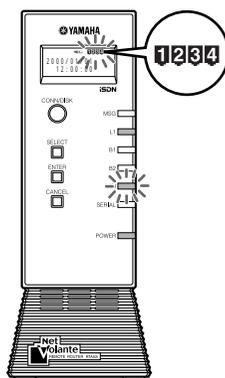
■動作を確認する

回線やパソコンの接続が終わったら、本機の電源をオンにして動作を確認します。

- 1 POWER スイッチの「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。
電源をオンにすると、ランプが数回点滅します。



- 2 POWER ランプ、L1 ランプ、LAN ランプが点灯していることを確認します。
点灯していないときは次の手順へ進み、順に確認してください。

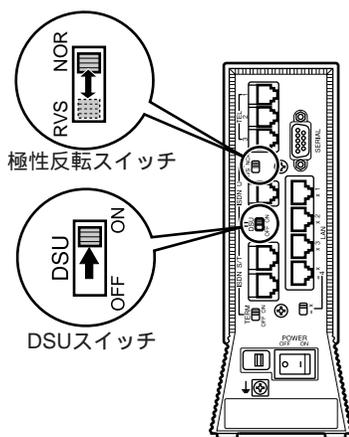


- 3 POWER ランプが消灯している場合は、一旦 POWER スイッチの「 | 」側を押して電源をオフにし、電源コードの接続状態やコンセントに電気が来ているかを確認します。
コンセントに他の電気製品を接続し、電源が入るかを確認してください。

- 4 ISDN L1 ランプが消灯している場合は、一旦 POWER スイッチの「 | 」側を押して電源をオフにし、各スイッチの設定を確認します。

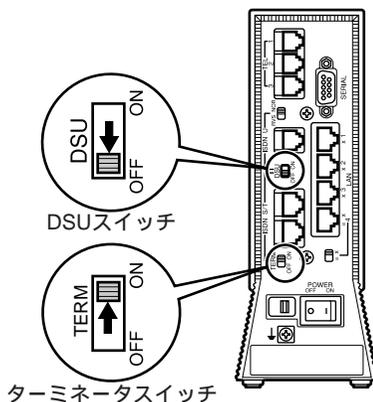
本機の DSU を使う場合

DSU スイッチが「ON」側になっていることを確認します。「ON」側になっている場合は、極性反転スイッチを逆側にします。



他の ISDN 機器の DSU を使う場合

DSU スイッチが「OFF」側になっていることを確認します。「OFF」側になっている場合は、ターミネータスイッチを「ON」側にします。



- 5 LAN ランプが点滅しない場合は、LAN ケーブルの接続状態および、パソコンや HUB の電源を確認します。

MEMO ● 本機に接続したパソコンや HUB の電源がすべてオフの状態では、LAN ランプは点滅しません。

- 6 POWER スイッチの「 | 」側を押して本機の電源をオンにし、ランプの表示を確認します。

第 3 章

パソコンを設定しよう

この章では、インターネットに接続するためのパソコンの設定方法について説明しています。接続方法や OS に合わせてソフトウェアのインストールと設定を行ってください。

3 - 1	ソフトウェアをインストールする	4 0
	Windows 95/98 の場合	4 0
	Macintosh の場合	4 1
3 - 2	ダイヤルアップ接続で設定する	4 2
	Windows 95/98 の設定	4 2
	Macintosh の設定	5 0
3 - 3	専用線接続で設定する	5 8
	Windows 95/98 の設定	5 8
	Macintosh の設定	6 7
3 - 4	擬似 LAN 接続で設定する	7 5
	Windows95/98 の設定	7 5
	Macintosh の設定	8 5
3 - 5	TA 接続で設定する	9 4
	Windows 95/98 の設定	9 4
	Macintosh の設定	1 0 0
3 - 6	手動でネットワーク機能を設定する	1 0 5
	Windows 95/98 のネットワーク設定	1 0 5
	Macintosh (TCP/IP) のネットワーク設定	1 0 7
3 - 7	手動で TA 接続を設定する	1 0 8
	Windows95/98 の TA 接続設定	1 0 8
	Macintosh の TA 接続設定	1 1 4

3-1 ソフトウェアをインストールする

インターネットに接続するには、パソコンのネットワーク機能および本機の設定を行います。パソコンの設定は、本機に付属のユーティリティソフト「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」を使うと、簡単に行えます。本機の設定は、ブラウザで行います。ブラウザはOSに標準インストールされているものが使えます。もし、ブラウザがインストールされていない場合は、設定作業を始める前にインストールしてください。

注意 インストールを始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。インストールの途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

- ここでは、Windows 95/98 および MacOS8.0 以降を例に説明しています。それ以外のOSの場合は、OSに合ったソフトウェアをインストールし、手で同等の設定を行ってください。(P.105、P.107)

■ Windows 95/98 の場合

ブラウザのインストール

本機の設定を行うには、Internet Explorer 3.0J以降またはNetscape Navigator 2.0J以降が必要です。Windows95以降には、標準でインストールされており、追加インストール作業は不要です。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

ユーティリティソフトのインストール

本機に付属のCD-ROMからユーティリティソフト「RTA52i ユーティリティ」はWindows 95/98用のソフトウェアです。設定の前にインストールを行います。

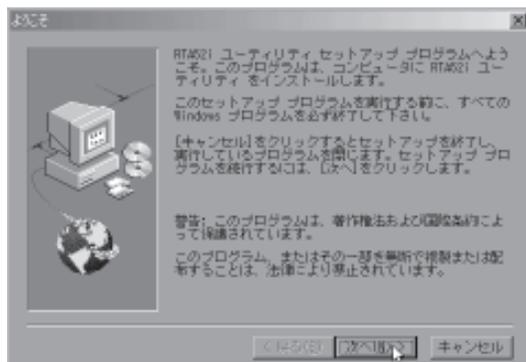
MEMO

- すでに古いバージョンの「RTA52i ユーティリティ」がインストールされている場合は、先に[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]でアンインストールしてください。

1 付属のCD-ROMをパソコンにセットし、[Install.exe]アイコンを開きます。



- 2 メッセージを確認して、[次へ] ボタンを押します。
ユーティリティソフト「RTA52i パソコンセットアップ」がインストールされます。



- 3 インストールが終わったら、[終了] ボタンを押します。
インストーラのウィンドウが閉じます。



■ Macintosh の場合

ブラウザのインストール

本機の設定を行うには、Internet Explorer 3.0J以降またはNetscape Navigator 2.0J以降が必要です。MacOS8.0以降には、標準でインストールされており、追加インストール作業は不要です。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

ユーティリティソフトについて

PowerMacintosh用のユーティリティソフト「RTA52iパソコンセットアップ」は、MacOS8.0&OpenTransport1.2以降に対応したソフトウェアです。「RTA52iパソコンセットアップ」は、付属のCD-ROMから直接開いて使うことができるので、ソフトのインストール作業は不要です。

- MEMO ● 本機を TA 接続で使うときは、MacOS8.0、8.1 の場合は「Open Transport PPP 1.0.1」と「リモートアクセス 2.1.1」、MacOS8.5以降の場合は「リモートアクセス 3.1」が必要です。

3-2 ダイアルアップ接続で設定する

本機のダイアルアップルータ機能を使って、インターネットに端末型ダイアルアップで接続するときは、パソコンのネットワーク機能の設定と本機のプロバイダ登録を行う必要があります。ユーティリティソフトのメッセージに従って、必要な情報を入力してください。

2台目以降のパソコンは、パソコンのネットワーク機能だけ設定すれば、使えます。ユーティリティソフトを使うと簡単です。

 **注意** 設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

- ダイアルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。

■ Windows 95/98 の設定

Windows95/98の設定は、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」を使って行います。2台目以降のパソコンは、手順 1 から 10 までを行ってください。ここでは Windows98 と Internet Explorer 5.0J の画面を例に説明しています。Windows95 の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

 **注意** プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイアルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

設定を始める前に LAN ボードまたは LAN カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先に LAN ボードまたは LAN カードの問題を解決してから設定を行ってください。

MEMO

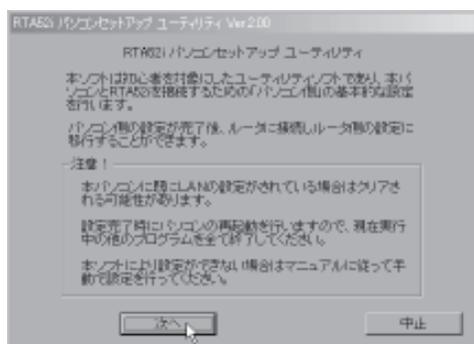
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。
- その場合は、ネットワークの設定を手動で設定してください。(P.105)
- その後ブラウザで " <http://192.168.0.1/> " にアクセスし、手順 11 (P.46) に進んでください。

1 POWER スイッチの「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。

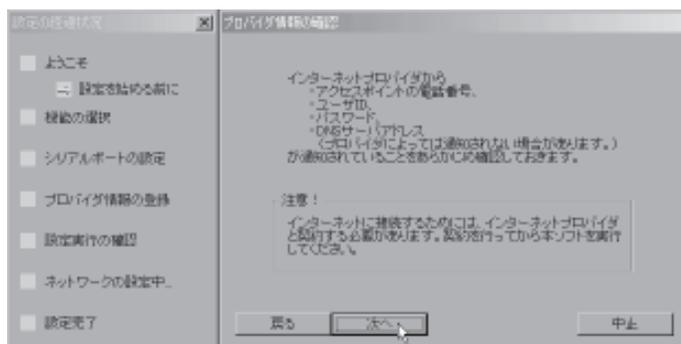
- 2 [スタート] ボタンを押し、[プログラム]-[RTA52i ユーティリティ]-[RTA52i パソコンセットアップ]を開きます。



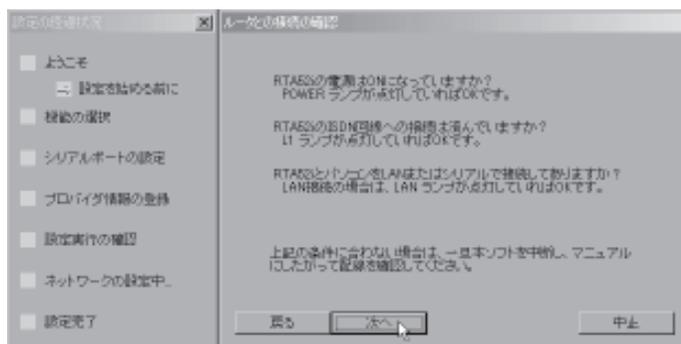
- 3 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



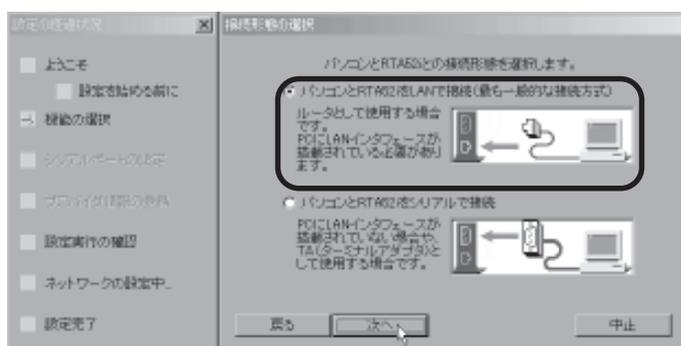
- 4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



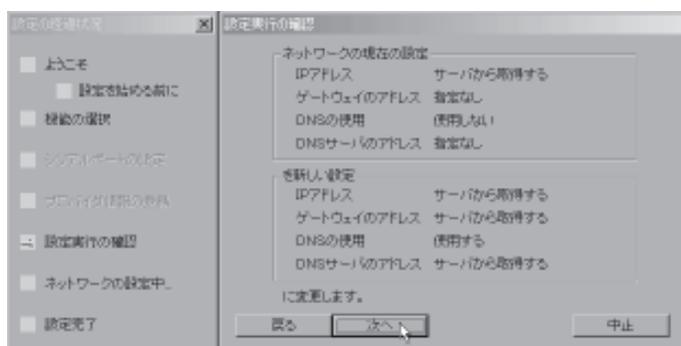
- 5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



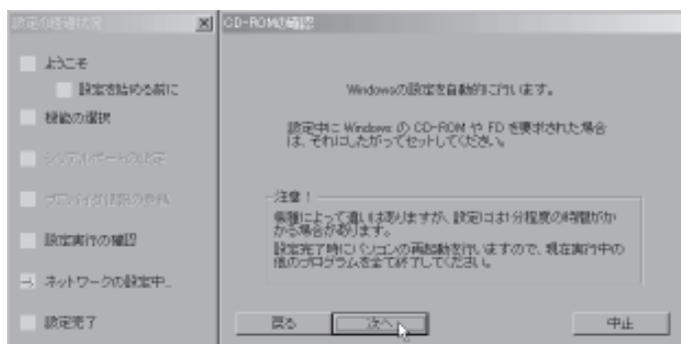
- 6 [パソコンとRTA52i を LAN で接続] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



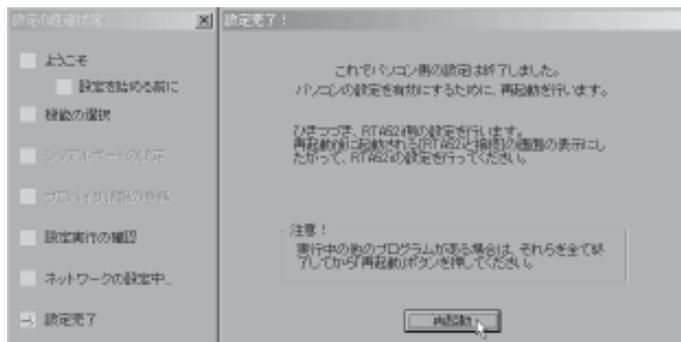
- 7 設定内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。



- 8 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。Windows95 の場合は Windows のインストール CD-ROM をご用意ください。



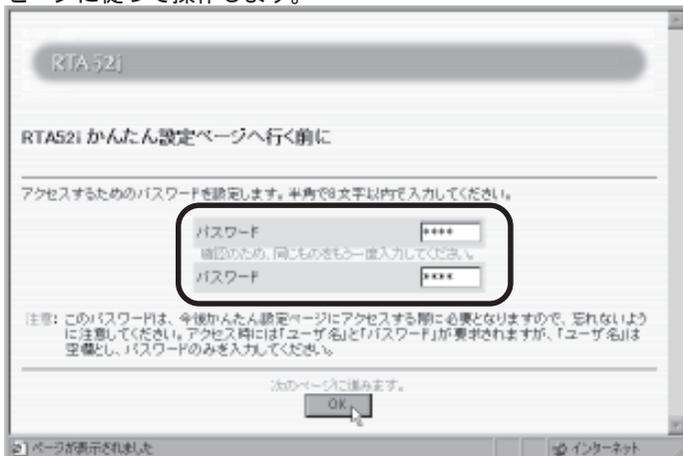
- 9 パソコンの設定が終わったら、[再起動] ボタンを押します。
パソコンが再起動されます。



- 10 パソコンが再起動して「RTA52i と接続」が表示されたら、[接続] ボタンを押します。
ブラウザが開き、「RTA52i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。
2 台目以降のパソコンの場合は、ここまでで設定完了です。[中止] ボタンを押して、終了してください。

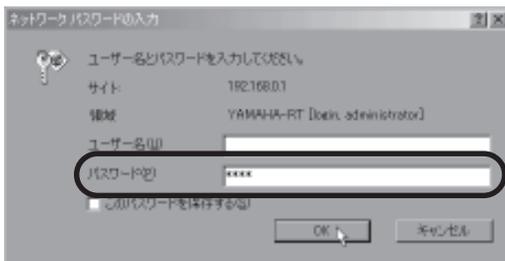


- 11 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。

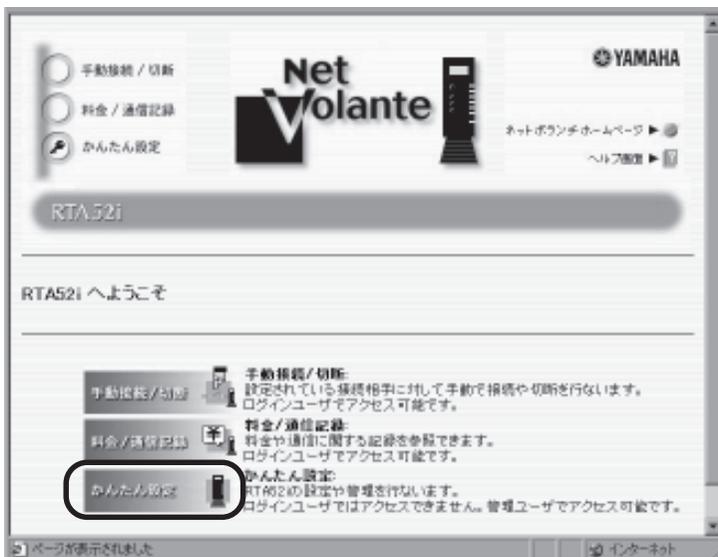


- MEMO ● ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

- 12 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。「RTA52i へようこそ」ページが表示されます。

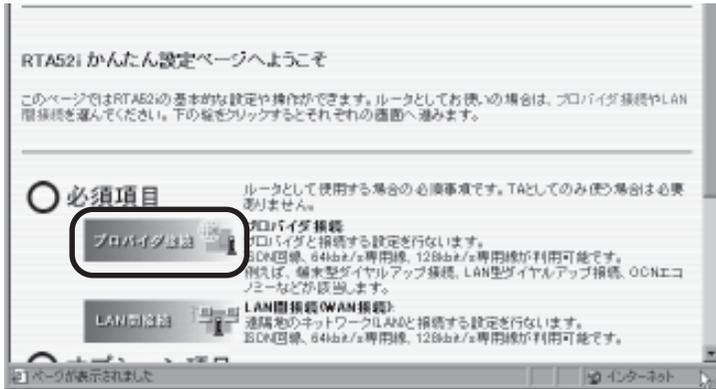


- 13 [かんたん設定] を押します。「RTA52i かんたん設定ページ」が表示されます。



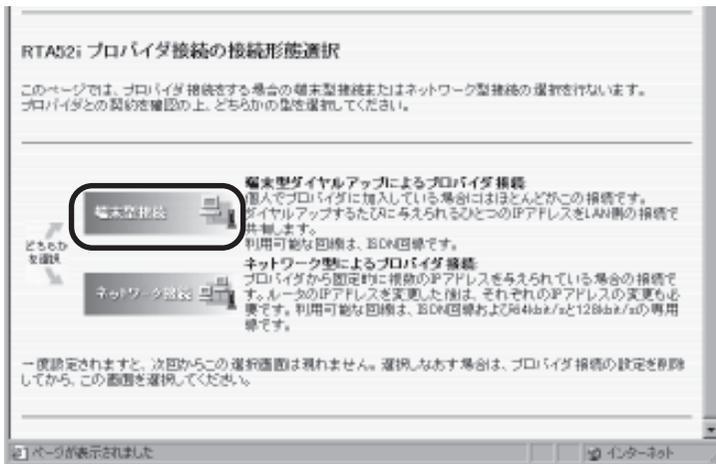
14 [プロバイダ接続] を押します。

「RTA52i プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。



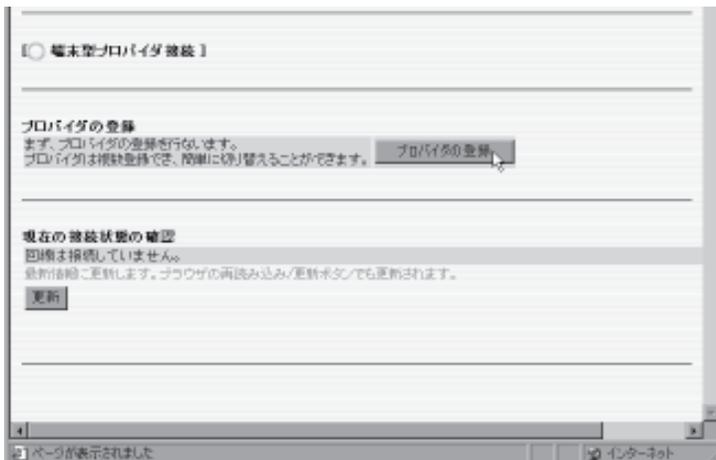
15 [端末型接続] を押します。

「端末型プロバイダ接続」ページが表示されます。



16 [プロバイダの登録] ボタンを押します。

「新規登録」ページが表示されます。



3

パソコンを設定しよう

Win

- 17** プロバイダ名、ISDN対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバのIPアドレスを入力し、[登録]ボタンを押します。
 アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバのIPアドレスは、プロバイダから通知されたものを入力してください。
 メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「端末型プロバイダ接続」ページへ戻ります。

【端末型プロバイダ接続設定】- [○ 新規登録]

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。(同じプロバイダを複数登録しないで下さい)
 DNSサーバアドレスの登録前項は、プロバイダが対応している必要があります。
 意図しない課金や接続が断たれるため、登録後(口)は設定した際の接続/切断が行なわれる事を確認してください。
 課金制度やユーザID/パスワードは、こより自動的に接続を中止する場合がありますので、接続ができなく
 なる可能性があります。

プロバイダ名	Provider1	半角32文字以内
プロバイダの電話番号 1	0000000000	半角入力32桁以内
2		<空欄可能>
3		<空欄可能>
ユーザID	username	半角入力32文字以内
パスワード	*****	半角入力32文字以内
DNSサーバアドレス	Fアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	10.40.3.22	指定の場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	10.40.3.23	<空欄可能>

上記の項目を設定した後、登録ボタン/削除ボタンをクリックしてください。

[登録] [設定値に引き]

- MEMO
- DNSサーバのアドレス情報がない場合は、空欄のままでかまいません。
 - 自動的に [接続時に自動取得する] が選択されます。

- 18** [自動接続設定]が[する]になっていることを確認します。
 これでルータのダイヤルアップ設定は完了です。

【端末型プロバイダ接続】

プロバイダの登録
 接続状態: プロバイダ名: Provider1 手動操作: 最後の通信: なし
 選択中: [登録] [接続] [解除]

プロバイダの追加

プロバイダの削除
 1 Provider1 [プロバイダの削除]

自動接続設定
 自動接続を しない する [自動接続設定]

コンピュータからインターネットへアクセス(ブラウザやメールなど)が発生した時に自動接続が実行されます。コンピュータの設定/運用によっては、意図しない接続や長時間の接続による異常課金となる場合がありますので、ご注意ください。

- 注意** 自動接続を設定すると、パソコンやソフトウェアの設定により、意図しない接続や課金が発生することがあります。自動接続したくないときは、[しない]を押して[自動接続設定]ボタンを押し、設定を解除してください。

- 19 ページ右上の [ネットボランチホームページ] を押します。
自動的にインターネットへ接続されて、NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。インターネットへ接続中は、ISDN B1 または B2 ランプが点灯します。



一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

- MEMO ● プロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。(P.129)

インターネットにつながらないときは

「端末型プロバイダ接続」ページに戻り、ブラウザの [更新] (再読み込み) ボタンを押すと、[最後の通信] のメッセージ欄に原因が表示されます。メッセージの内容を確認し、[登録の修正] ボタンを押して設定内容を確認してください。

- MEMO ● プロバイダによっては、ダイヤルアップ用とメール用でユーザIDとパスワードが異なる場合があります。プロバイダの接続情報書類をよくお読みください。
● DNS サーバのアドレス情報が [接続時に自動取得する] に設定されていてプロバイダから自動取得できなかった場合には、最後の通信欄に赤字で [DNS サーバアドレスが取得できませんでした] と表示されます。

Macintosh の設定

Macintosh の設定は、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」を使って行います。2 台目以降のパソコンは、手順 1 から 9 までを行ってください。ここでは MacOS 8.6 と Internet Explorer 4.5J の画面を例に説明しています。

注意 プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

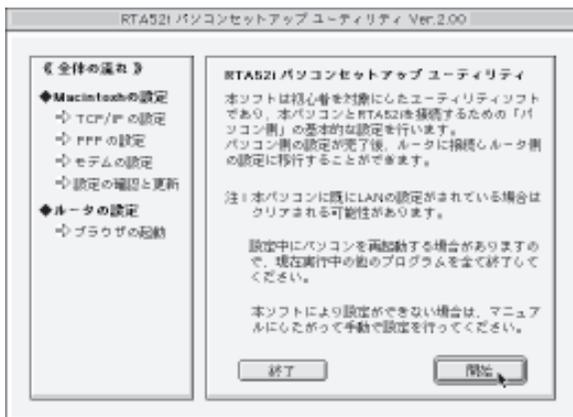
MEMO

- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定を行ってください。(P.107)
- その後ブラウザで " http://192.168.0.1/ " にアクセスし、手順 10 (P.53) に進んでください。

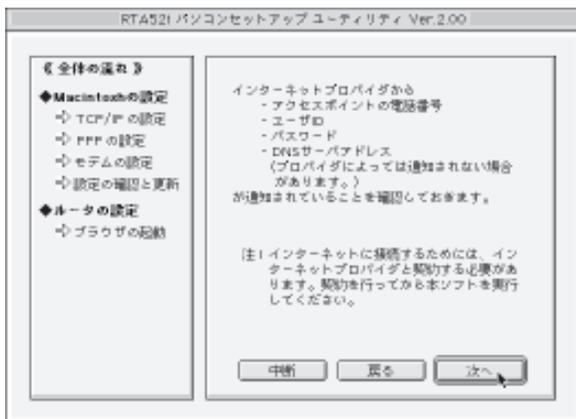
- 1 POWER スwitch の「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。
- 2 付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[RTA52i パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。



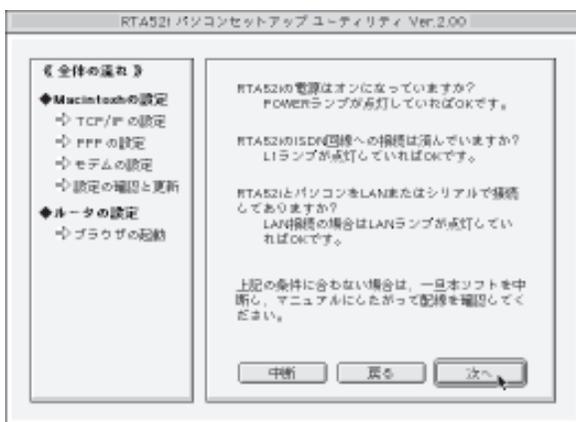
- 3 メッセージの内容を確認し、[開始] ボタンを押します。
問題がある場合は、[終了] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



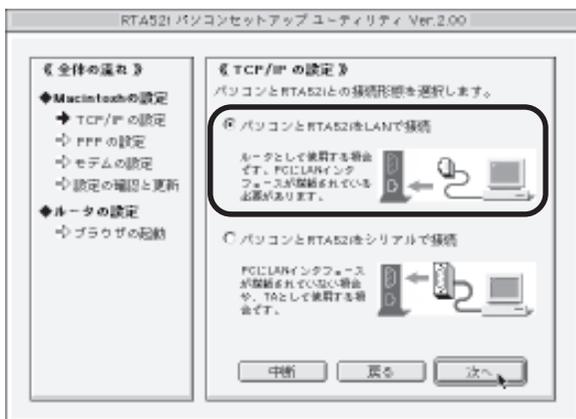
4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ]ボタンを押します。



5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ]ボタンを押します。
問題がある場合は、[中断]ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



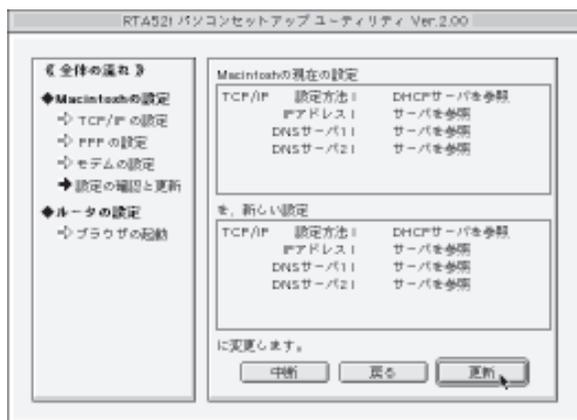
6 [パソコンとRTA52iをLANで接続]を選択し、[次へ]ボタンを押します。



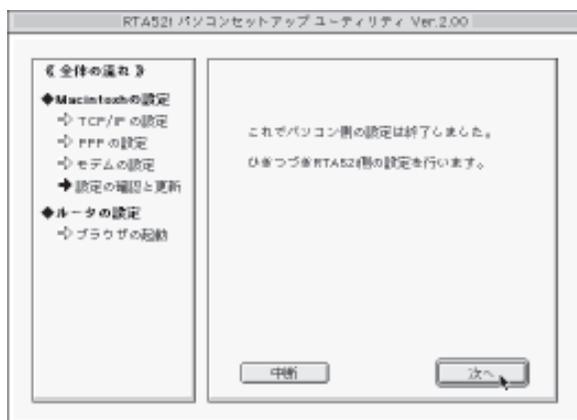
3
パソコンを設定しよう

Mac

- 7 設定内容を確認し、[更新] ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。



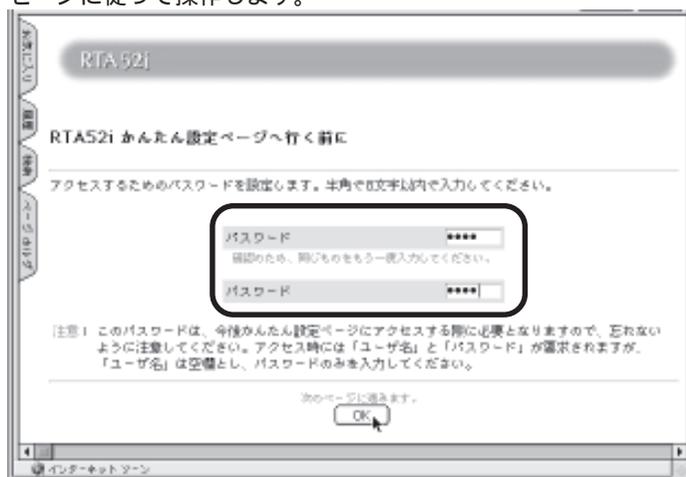
- 8 [次へ] ボタンを押します。
パソコンの状態によっては再起動する場合があります。



- 9 [起動] ボタンを押します。
ブラウザが開き、「RTA52i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。
2台目以降のパソコンの場合は、ここまでで設定完了です。[中断] ボタンを押して、終了してください。

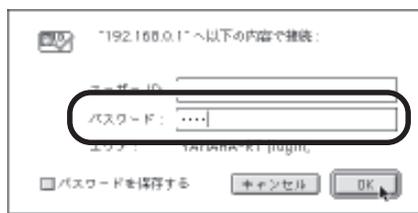


- 10 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



MEMO ● ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

- 11 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。「RTA52i へようこそ」ページが表示されます。



- 12 [かんたん設定] を押します。「RTA52i かんたん設定ページ」が表示されます。

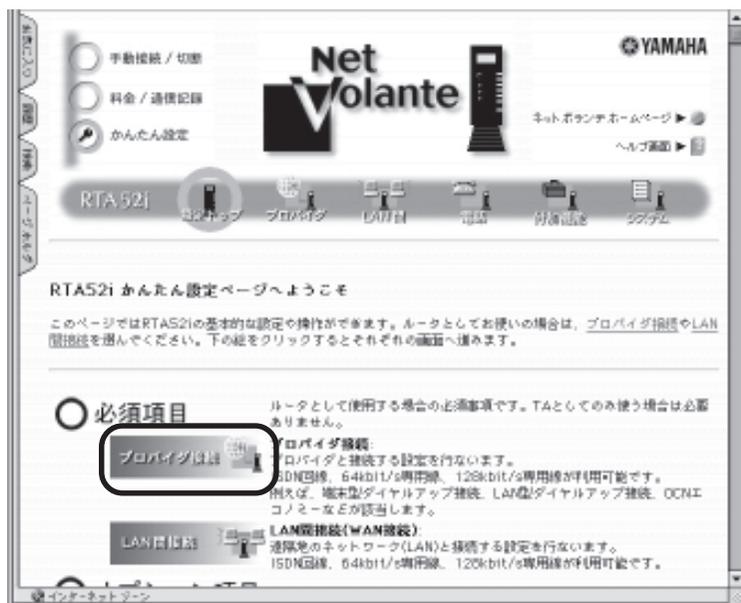


3
パソコンを設定しよう

Mac

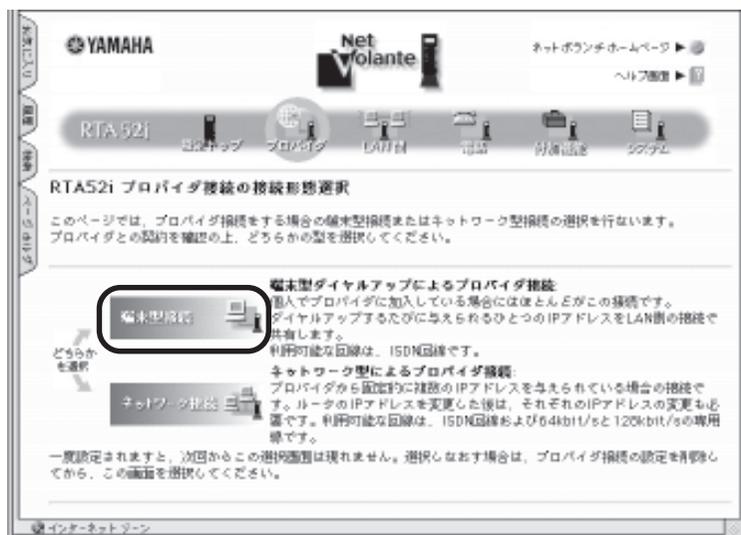
13 [プロバイダ接続] を押します。

「RTA52i プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。

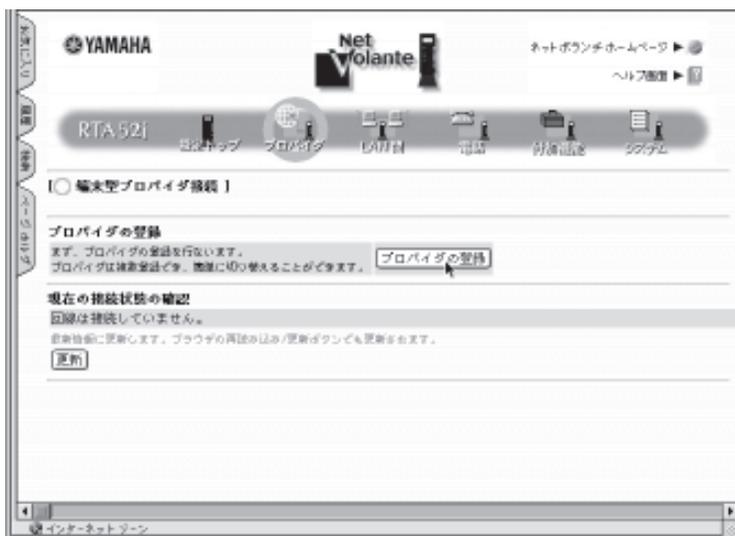


14 [端末型接続] を押します。

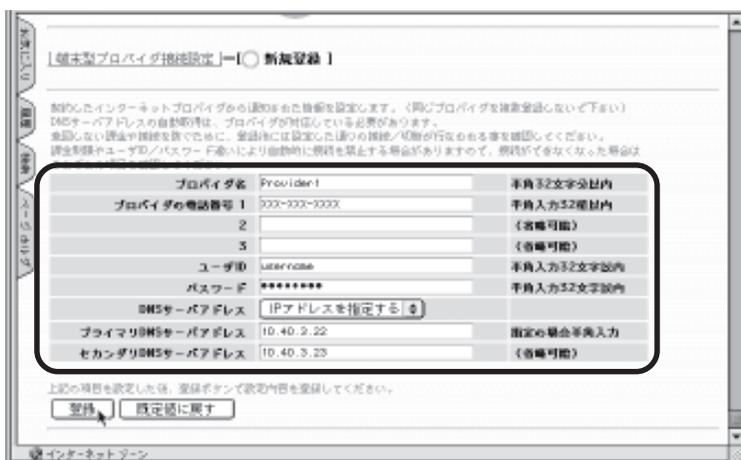
「端末型プロバイダ接続」ページが表示されます。



- 15 [プロバイダの登録] ボタンを押します。
「新規登録」ページが表示されます。



- 16 プロバイダ名、ISDN 対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバの IP アドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。
アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバの IP アドレスは、プロバイダから通知されたものを入力してください。
メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「端末型プロバイダ接続」ページへ戻ります。



- MEMO ● DNS サーバのアドレス情報がない場合は、空欄のままでもかまいません。
● 自動的に [接続時に自動取得する] が選択されます。

- 17 [自動接続設定]が[する]になっていることを確認します。
これでルータのダイヤルアップ設定は完了です。



注意 自動接続を設定すると、パソコンやソフトウェアの設定により、意図しない接続や課金が発生することがあります。自動接続したくないときは、[しない]を押して[自動接続設定]ボタンを押し、設定を解除してください。

18 ページ右上の [ネットボランチホームページ] を押します。

自動的にインターネットへ接続されて、NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。インターネットへ接続中は、ISDN B1 または B2 ランプが点灯します。



一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

- MEMO
- プロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。(P.129)

インターネットにつながらないときは

「端末型プロバイダ接続」ページに戻り、ブラウザの [更新 (再読み込み)] ボタンを押すと、[最後の通信] のメッセージ欄に原因が表示されます。メッセージの内容を確認し、[登録の修正] ボタンを押して設定内容を確認してください。

- MEMO
- プロバイダによっては、ダイヤルアップ用とメール用でユーザID とパスワードが異なる場合があります。プロバイダの接続情報書類をよくお読みください。
 - DNS サーバのアドレス情報が [接続時に自動取得する] に設定されていてプロバイダから自動取得できなかった場合には、最後の通信欄に赤字で [DNS サーバアドレスが取得できませんでした] と表示されます。

3-3 専用線接続で設定する

本機のルータ機能を使って、インターネットへ専用線接続するときは、パソコンのネットワーク機能と本機の専用線接続の設定を行います。

2台目以降のパソコンは、パソコンのネットワーク機能だけ設定すれば、使えます。ユーティリティソフトを使うと簡単です。



注意

設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

- MEMO
- 本機の工場出荷設定は、外部からのアクセスを禁止するフィルタが設定されています。また専用線接続の設定を行うと、外部からアクセスしにくくなるよう基本的なフィルタが自動的に設定されます。公開サーバを設置する場合は、そのサーバにアクセスを許可する設定を行う必要があります。
 - (ユーザーズマニュアル 第6章「6-7 外部にサーバを公開する」)

■ Windows 95/98 の設定

Windows95/98の設定は、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」を使って行います。2台目以降のパソコンは、手順1から10までを行ってください。ここではWindows98とInternet Explorer 5.0Jの画面を例に説明しています。Windows95の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。



注意

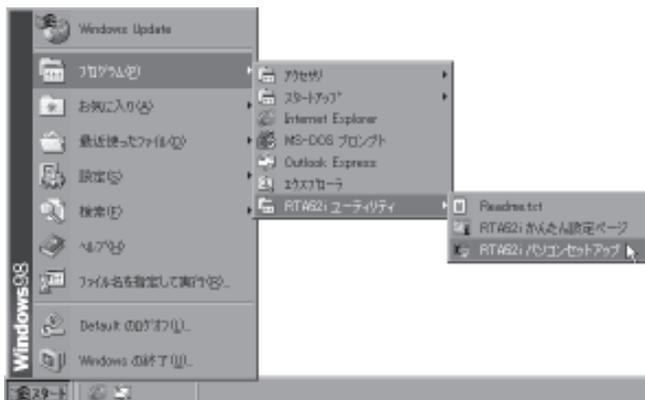
設定を始める前にLANボードまたはLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にLANボードまたはLANカードの問題を解決してから設定を行ってください。

- MEMO
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定を行ってください。(P.105)
 - その後ブラウザで " <http://192.168.0.1/> " にアクセスし、手順11
 - (P.62) に進んでください。

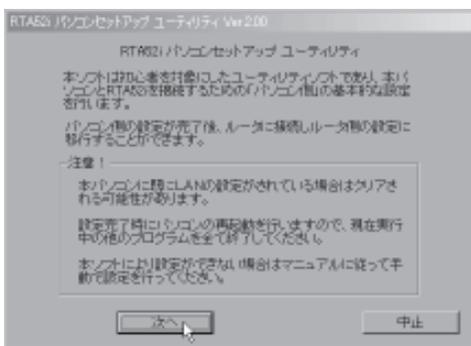
1 本機と設定を行うパソコンだけ電源を入れて、他のパソコンを終了します。

- MEMO
- 他のすべてのパソコンを終了できない場合は、本機に1台のパソコンだけ接続している状態にして、設定を行います。本機に接続されているLANケーブルを一旦すべて外し、LAN1ポートと設定を行うパソコンのLANポートを付属のLANケーブルで接続してください。

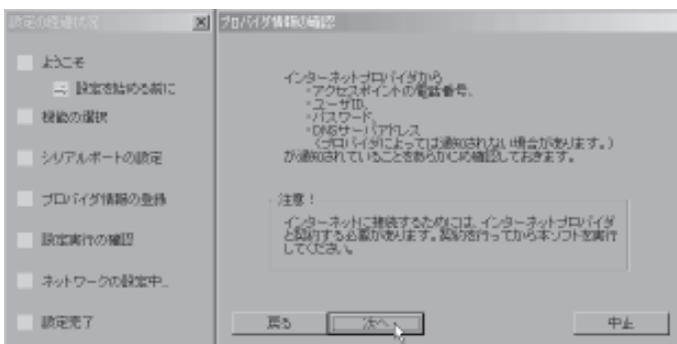
- 2 [スタート] ボタンを押し、[プログラム]-[RTA52i ユーティリティ]-[RTA52i パソコンセットアップ]を開きます。



- 3 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



- 4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



3

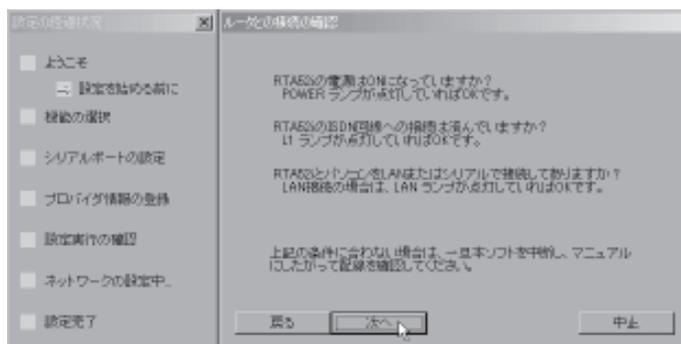
パソコンを設定しよう



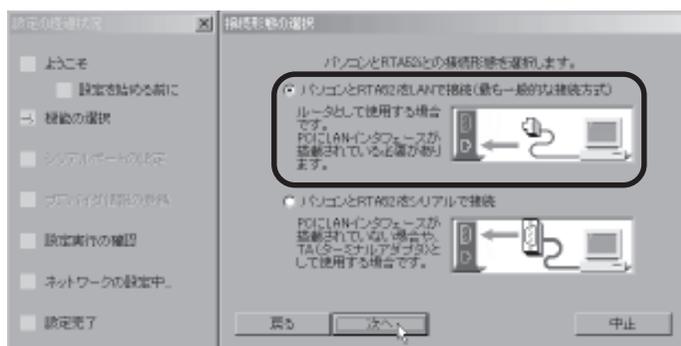
Win



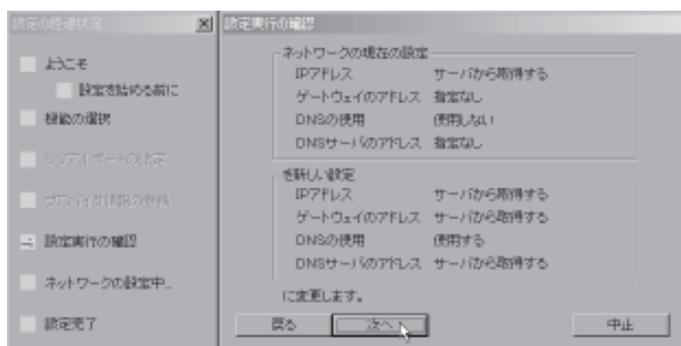
- 5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



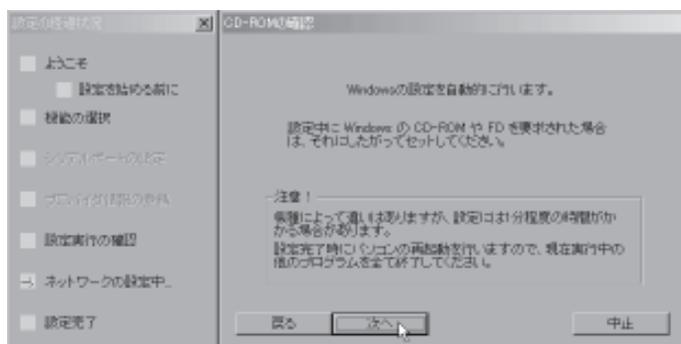
- 6 [パソコンとRTA52iをLANで接続] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



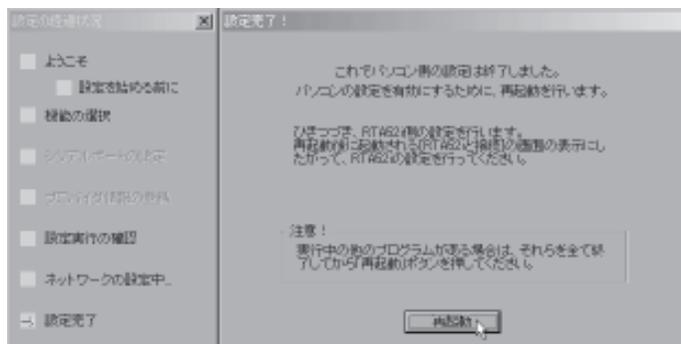
- 7 設定内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。



- 8 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。Windows95の場合はWindowsのインストールCD-ROMをご用意ください。



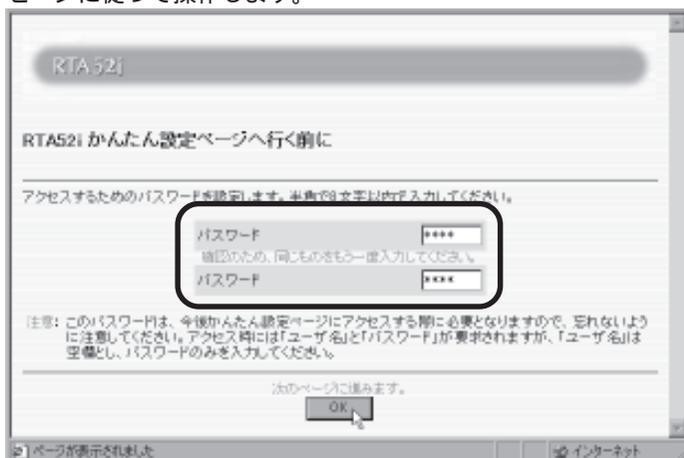
- 9 パソコンの設定が終わったら、[再起動] ボタンを押します。
パソコンが再起動されます。



- 10 パソコンが再起動して「RTA52iと接続」が表示されたら、[接続] ボタンを押します。
ブラウザが開き、「RTA52iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。
2台目以降のパソコンの場合は、ここまでで設定完了です。[中止] ボタンを押して、終了してください。

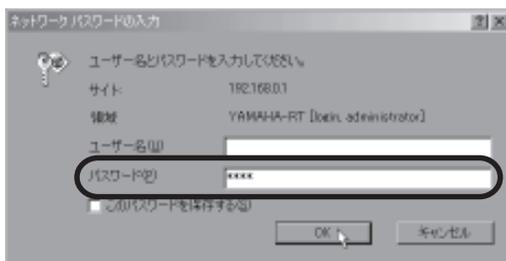


- 11 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



- MEMO ● ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

- 12 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。「RTA52i へようこそ」ページが表示されます。

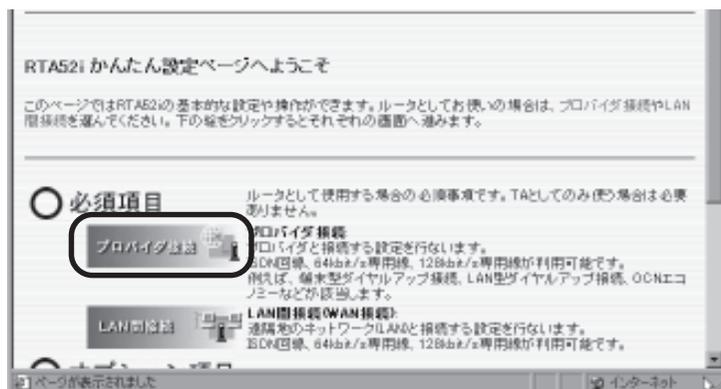


- 13 [かんたん設定] を押します。「RTA52i かんたん設定ページ」が表示されます。



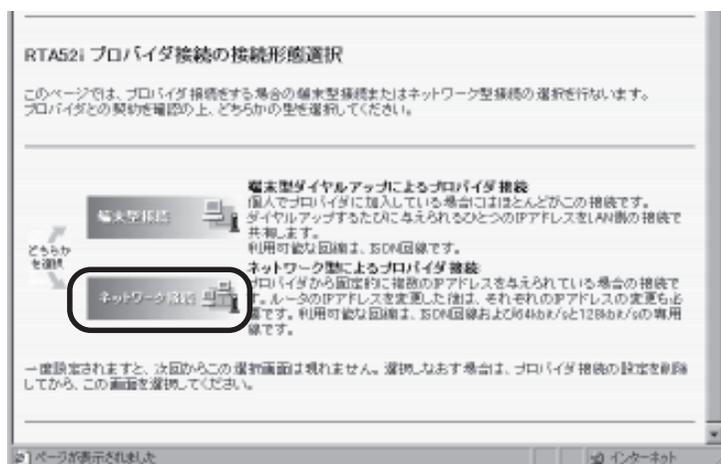
14 [プロバイダ接続] を押します。

「RTA52i プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。



15 [ネットワーク型接続] を押します。

「ネットワーク型プロバイダ接続設定」ページが表示されます。



3

パソコンを設定しよう

Win

16 [IPアドレス] にプロバイダから割り当てられた IP アドレスの中からルータに設定する IP アドレス、ネットマスク、専用線の回線速度、DNS サーバアドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと設定が変更され、本機が再起動されます。

使用可能なグローバル IP アドレスの数が足りている場合の設定例

ネットワーク型プロバイダ接続設定

既定のインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。既定プロバイダを選択していないで下側の DNS サーバアドレスの登録情報は、プロバイダが対応している必要があります。
登録しない、修正や接続をためる、登録済みに追加した際の接続/切断が行われる事を確認してください。
誤な操作やユーザID/パスワード違いにより自動的に接続を停止する場合がありますので、接続ができなくなった場合はそれぞれの項目を確認してください。

IPアドレス

ルータのIPアドレス	10.40.33.113	IPアドレス半角入力
ネットマスク	28	マスクビット数

回線の種類

ISDN

プロバイダの電話番号 1

2

3

ユーザID

パスワード

DNS 関連

64 [bit/s] (HSD4, D464など)

128 [bit/s] (OCNエコノミー, HSD128, DA128など)

DNSサーバアドレス

IPアドレスを指定する

プライマリDNSサーバアドレス

10.40.3.22

指定の機会半角入力

セカンダリDNSサーバアドレス

10.40.3.23

省略可能

ドメイン名

userdomain.co.jp

半角入力255文字以内

NAT 関連

NAT	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない	
IP Masquerade	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない	NAT使用時のみ有効
NATグローバルアドレス範囲始点		IPアドレス半角入力
NATグローバルアドレス範囲終点		IPアドレス半角入力

上記の項目を設定した後、登録ボタン/既定値に戻すボタンを押してください。

登録 既定値に戻す

2ページが表示されました インターネット

使用可能なグローバル IP アドレスの数が足りない場合の設定例

IP マスカレード機能を使用すると、グローバル IP アドレスの数以上のパソコンを接続することができます。

NAT 関連

NAT	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない	
IP Masquerade	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない	NAT使用時のみ有効
NATグローバルアドレス範囲始点	10.40.33.126	IPアドレス半角入力
NATグローバルアドレス範囲終点	10.40.33.126	IPアドレス半角入力

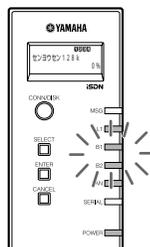
上記の項目を設定した後、登録ボタン/既定値に戻すボタンを押してください。

登録 既定値に戻す

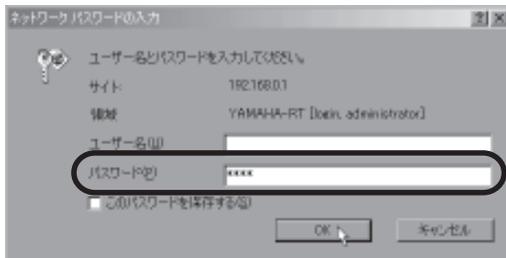
2ページが表示されました インターネット

- MEMO
- IP マスカレードでは、複数のプライベート IP アドレスを 1 つのグローバル IP アドレスに変換します。2 つ以上のグローバル IP アドレスを使い分けて変換することはできません。

- 17** 本機の再起動が終わったら、ランプの表示を確認します。
64k 回線の場合は B1 ランプ、128k 回線の場合は B1 と B2 ランプが点灯します。
正しく表示点灯しないときは、「かんたん設定ページ」を開いて手順 15 の登録をやり直してください。



- 18** パソコンを再起動します。
- 19** ブラウザを開き、アドレス入力欄に “ http://(ルータの IP アドレス)/ ” を入力し、[enter] キーを押します。
- 20** [パスワード] 入力欄に管理ルータのパスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。「RTA52i へようこそ」ページが表示されることを確認してください。



- 21** ページ右上の [ネットボランチホームページ] を押します。
NetVolante のホームページが表示されることを確認してください。



- 22** インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動します。
LANケーブルを付け替えたときは、元にもどしてから他のパソコンを起動してください。
これで、専用線接続の設定は完了です。

- MEMO
- ルータを正しく認識しないときは、パソコンのIPアドレスをリセットして
 - ください。(ユーザーズマニュアル 第7章「7-6 パソコンのIPアド
 - レスをリセットするには」)

使用できるIPアドレスについて

プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、始めの番号はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当てられるきまりになっていて、使うことができません。

例えば、"172.16.128.112/28"のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は"172.16.128.112" ~ "172.16.128.127"の16個ですが、

172.16.128.112 = ネットワークアドレス
172.16.128.113
:
172.16.128.126
172.16.128.127 = ブロードキャストアドレス

となり、実際にルータやパソコンなどに使える番号は、"172.16.128.113" ~ "172.16.128.126"の14個となります。

■ Macintosh の設定

Macintoshの設定は、「RTA52i パソコンセットアップユーティリティ」を使って行います。2台目以降のパソコンは、手順1から9までを行ってください。ここではMacOS 8.6とInternet Explorer 4.5Jの画面を例に説明しています。

- MEMO
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA52i パソコンセットアップユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定を行ってください。(P.107)
 - その後ブラウザで " http://192.168.0.1/ " にアクセスし、手順10 (P.70) に進んでください。

1 本機と設定を行うパソコンだけ電源を入れて、他のパソコンを終了します。

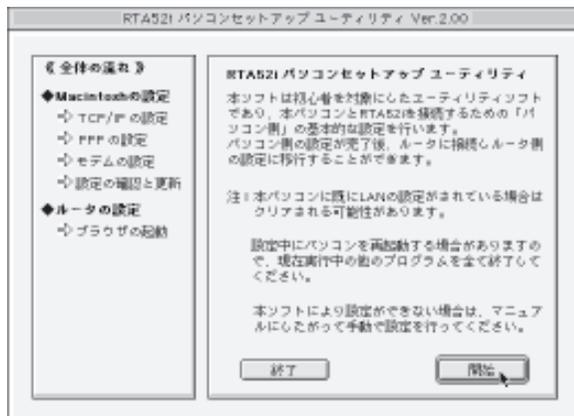
- MEMO
- 他のすべてのパソコンを終了できない場合は、本機に1台のパソコンだけ接続している状態にして、設定を行います。本機に接続されているLANケーブルを一旦すべて外し、LAN1ポートと設定を行うパソコンのLANポートを付属のLANケーブルで接続してください。

2 付属のCD-ROMをパソコンにセットし、[RTA52i パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。



3 メッセージの内容を確認し、[開始] ボタンを押します。

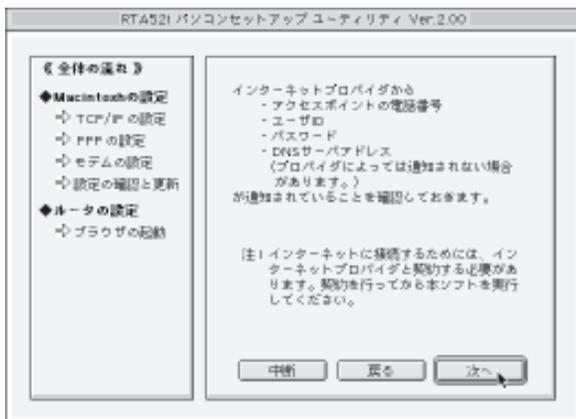
問題がある場合は、[終了] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



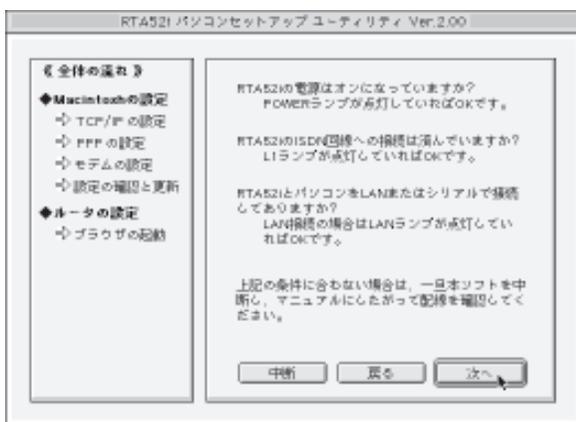
3
パソコンを設定しよう

Mac

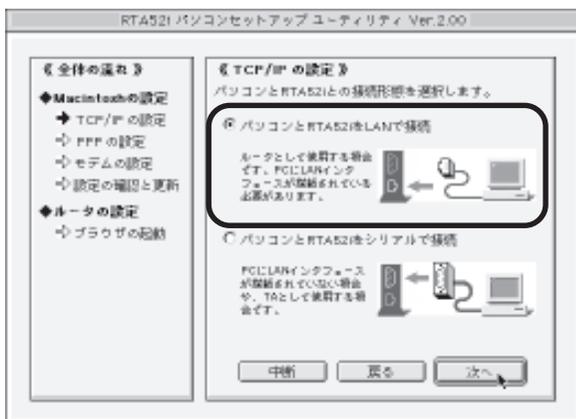
4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ]ボタンを押します。



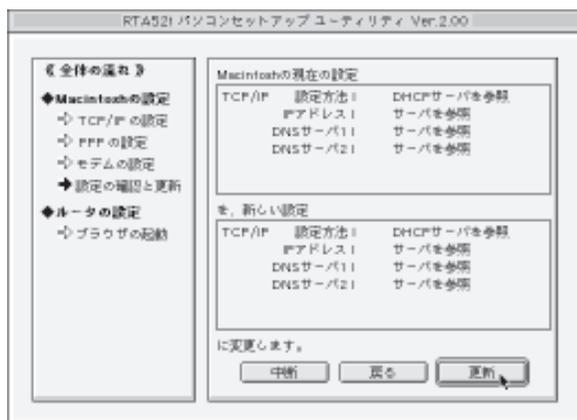
5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ]ボタンを押します。
問題がある場合は、[中断]ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



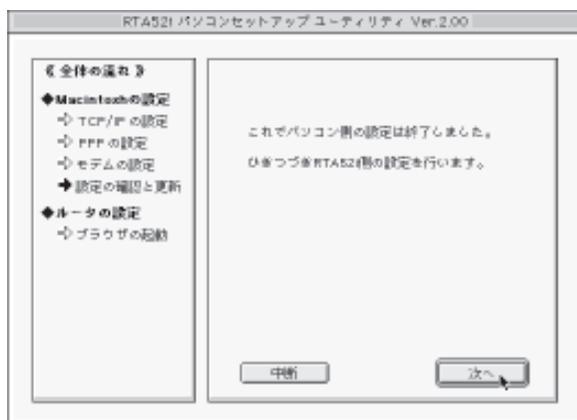
6 [パソコンとRTA52iをLANで接続]を選択し、[次へ]ボタンを押します。



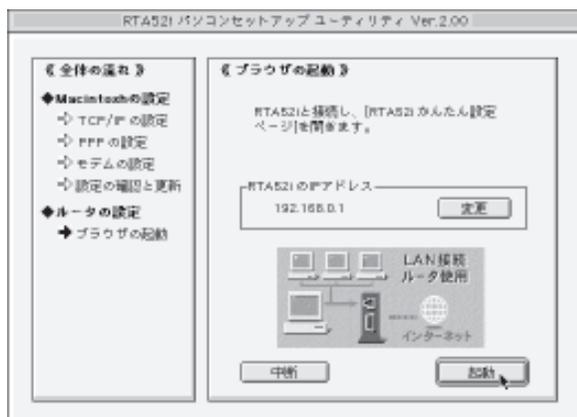
- 7 設定内容を確認し、[更新] ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。



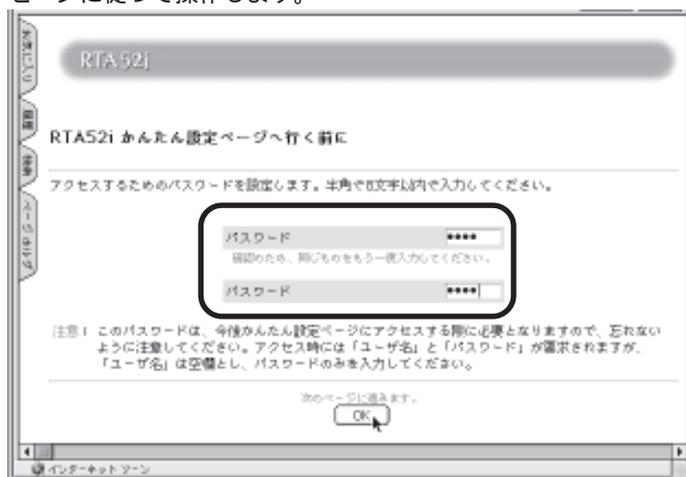
- 8 [次へ] ボタンを押します。
パソコンの状態によっては再起動する場合があります。



- 9 [起動] ボタンを押します。
ブラウザが開き、「RTA52i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。
2台目以降のパソコンの場合は、ここまでで設定完了です。[中断] ボタンを押して、終了してください。

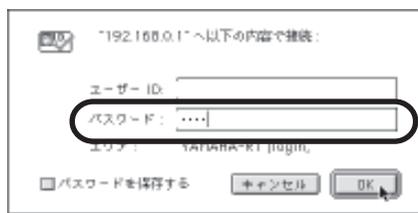


- 10 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



MEMO ● ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

- 11 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。「RTA52i へようこそ」ページが表示されます。

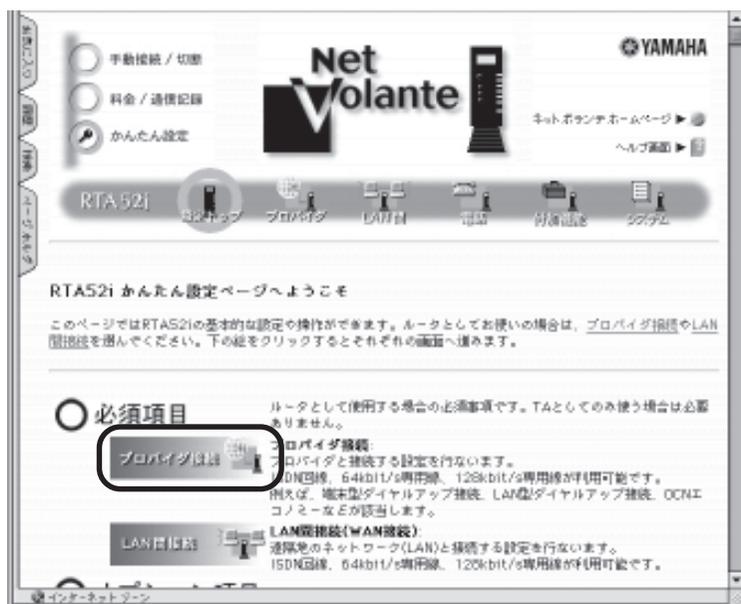


- 12 [かんたん設定] を押します。「RTA52i かんたん設定ページ」が表示されます。



13 [プロバイダ接続] を押します。

「RTA52i プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。



14 [ネットワーク型接続] を押します。

「ネットワーク型プロバイダ接続」ページが表示されます。



3
パソコンを設定して

Mac

15 [IPアドレス] にプロバイダから割り当てられた IP アドレスの中からルータに設定する IP アドレス、ネットマスク、専用線の回線速度、DNS サーバアドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと設定が変更され、本機が再起動されます。

グローバル IP アドレスの数が足りている場合の設定例

ネットワーク型プロバイダ接続設定

特定のインターネットプロバイダから追加の接続を設定します。(同じプロバイダを複数登録しないで下さい)
 DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。
 変更しない設定や接続先が変更された場合、登録時には設定した通りの接続/取替が行われる事を確認してください。
 課金制限やユーザID/パスワード/ユーザIDにより自動的に接続を禁止する場合があります。接続がなくなった場合はそれぞれの項目を確認してください。

IPアドレス

ルータのIPアドレス	10.40.33.113	IPアドレス半角入力
ネットマスク	28	マスクビット数

回線の種類

ISDN

プロバイダの電話番号 1		半角入力32桁以内
2		《省略可能》
3		《省略可能》
ユーザID		半角入力32文字以内
パスワード		半角入力32文字以内

64 [bit/s] (HDSL4、Dsl4など)
 128 [Kbit/s] (OONエコノミー、HSD128、Dsl28など)

DNS関連

DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	10.40.3.22	指定の機会半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	10.40.3.23	《省略可能》
ドメイン名	userdomain.co.jp	半角入力255文字以内

NAT関連

NAT	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない	
IP Masquerade	<input type="checkbox"/> 使用する <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	NAT使用時の本有値
NATグローバルアドレス範囲始点		IPアドレス半角入力
NATグローバルアドレス範囲終点		IPアドレス半角入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

グローバル IP アドレスの数が足りない場合の設定例

IP マスカレード機能を使用すると、グローバル IP アドレスの数以上のパソコンを接続することができます。

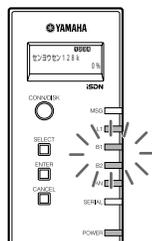
NAT関連

NAT	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない	
IP Masquerade	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	NAT使用時の本有値
NATグローバルアドレス範囲始点	10.40.33.126	IPアドレス半角入力
NATグローバルアドレス範囲終点	10.40.33.126	IPアドレス半角入力

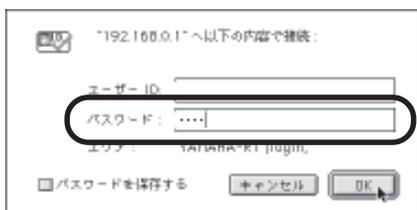
上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

MEMO ● IP マスカレードでは、複数のプライベート IP アドレスを 1 つのグローバル IP アドレスに変換します。2 つ以上のグローバル IP アドレスを使い分けて変換することはできません。

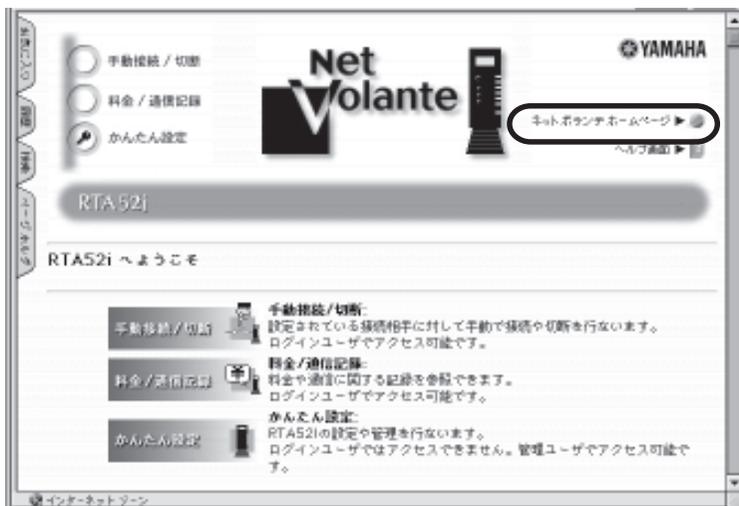
- 16** 本機の再起動が終わったら、ランプの表示を確認します。
64k 回線の場合は B1 ランプ、128k 回線の場合は B1 と B2 ランプが点灯します。
正しく表示点灯しないときは、「かんたん設定ページ」を開いて手順 15 の登録をやり直してください。



- 17** パソコンを再起動します。
- 18** ブラウザを開き、アドレス入力欄に “ http://(ルータの IP アドレス)/ ” を入力し、[enter] キーを押します。
- 19** [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。
「RTA52i へようこそ」ページが表示されることを確認してください。



- 20** ページ右上の [ネットボランチホームページ] を押します。
NetVolante のホームページが表示されることを確認してください。



- 21** インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動します。
LANケーブルを付け替えたときは、元にもどしてから他のパソコンを起動してください。
これで、専用線接続の設定は完了です。

3

パソコンを
設定して
ください

Mac

3 - 4 擬似 LAN 接続で設定する

擬似 LAN 接続は、本機へダイヤルアップすることによって擬似的に LAN に接続する機能です。LAN ボードを取り付けられないパソコンでも、LAN に接続されている他のパソコンにアクセスできるようになり、ダイヤルアップルータの自動接続機能によるインターネット接続も利用できます。

注意 設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- 本機の擬似 LAN 機能へ接続するための電話番号は「 * * * * 」となります。

■ Windows95/98 の設定

Windows95/98 の設定は、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」を使って行います。ここでは Windows98 と Internet Explorer 5.0J の画面を例に説明しています。Windows95 の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

注意 プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

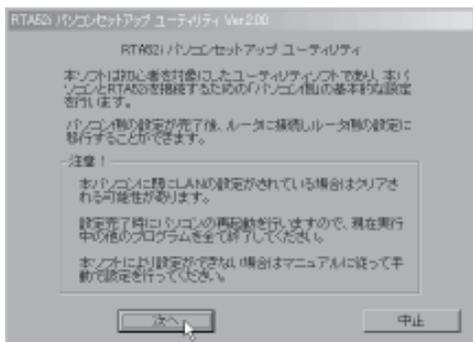
MEMO

- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。
- その場合は、ネットワークの設定を手動で設定してください。(P.108)
- その後ブラウザで " http://192.168.0.1/ " にアクセスし、手順 13 (P.79) に進んでください。

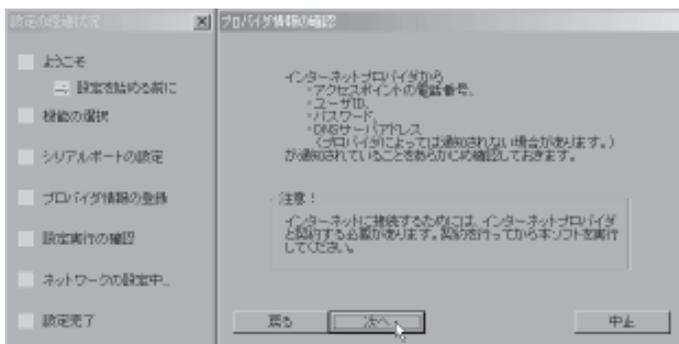
- 1 POWER スwitch の「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。
- 2 [スタート] ボタンを押し、[プログラム] - [RTA52i ユーティリティ] - [RTA52i パソコンセットアップ] を開きます。



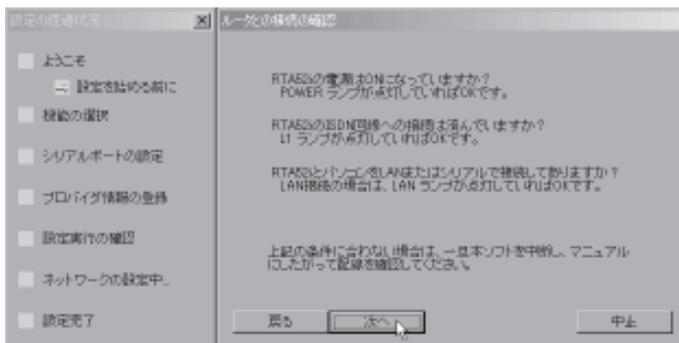
- 3** メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



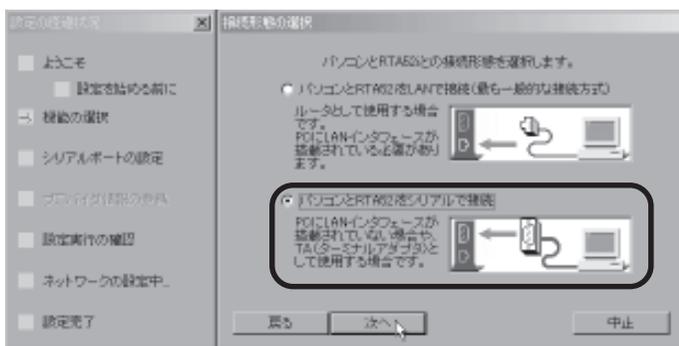
- 4** プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



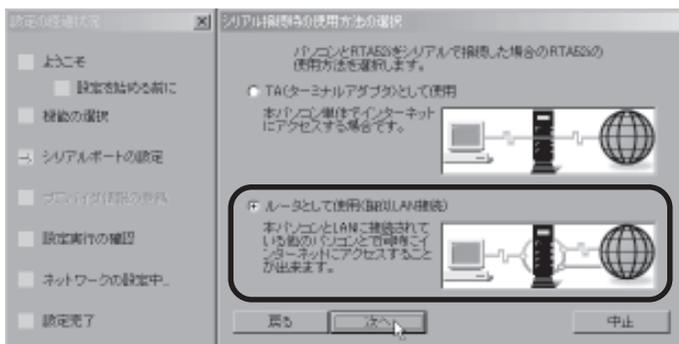
- 5** 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



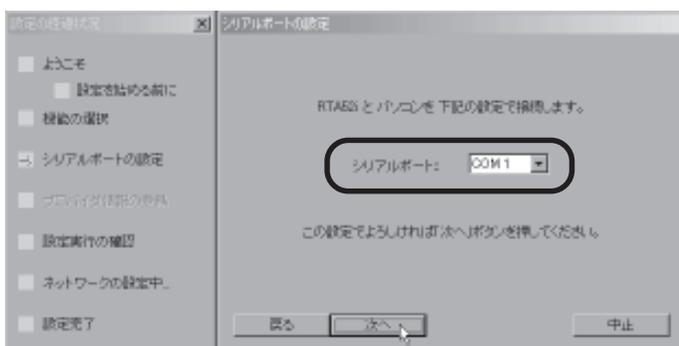
6 [パソコンとRTA52iをシリアルで接続]を選択し、[次へ]ボタンを押します。



7 [ルータとして使用]を選択し、[次へ]ボタンを押します。
本機を接続したシリアルポートが検出されます。



8 シリアルポートを確認し、[次へ]ボタンを押します。



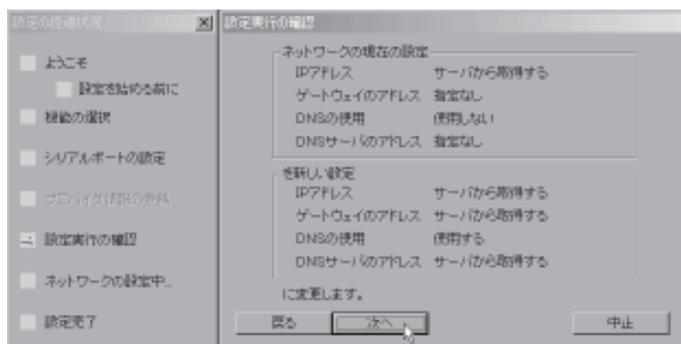
- MEMO
- 正しいシリアルポートが表示されないときやエラーメッセージが表示されるときは、本機の電源やシリアルケーブルの接続状態を確認してください。

3

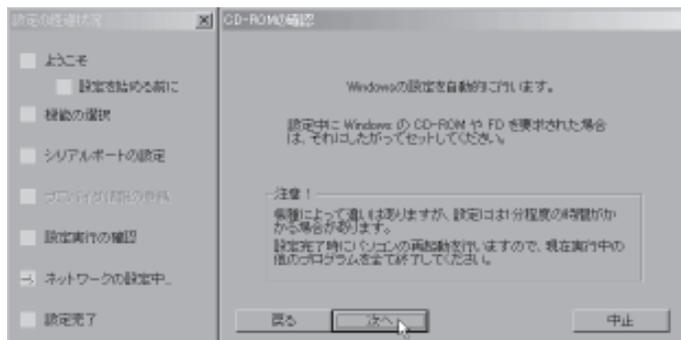
パソコンを設定して

Win

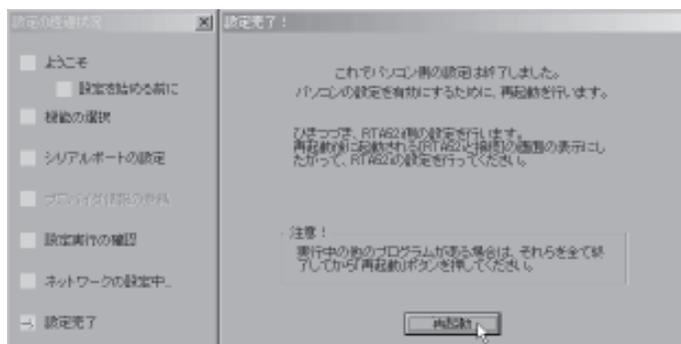
9 設定内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。



10 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。Windows95の場合はWindowsのインストールCD-ROMをご用意ください。



11 パソコンの設定が終わったら、[再起動] ボタンを押します。パソコンが再起動されます。



- 12 パソコンが再起動して「RTA52iと接続」が表示されたら、[接続]ボタンを押します。ブラウザが開き、「かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。

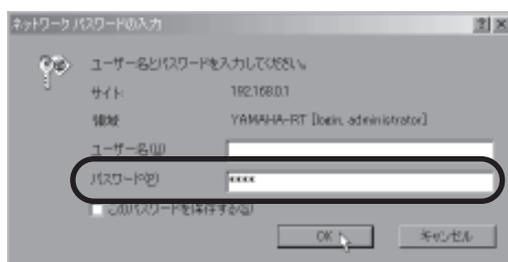


- 13 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。

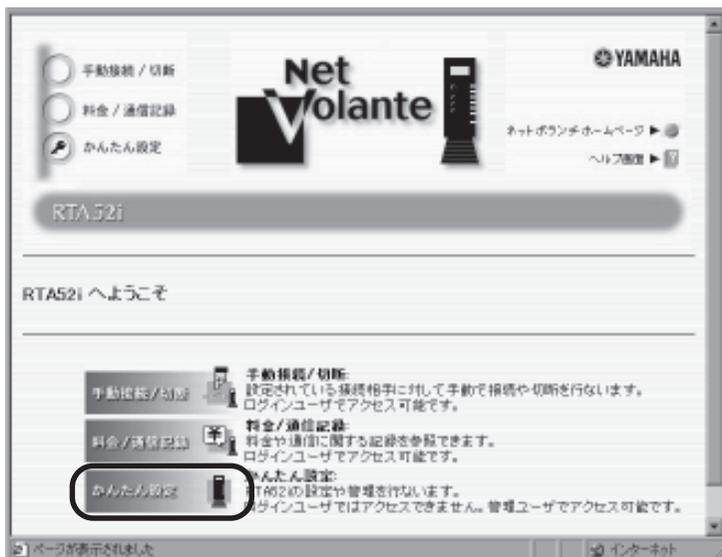


- MEMO ● ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

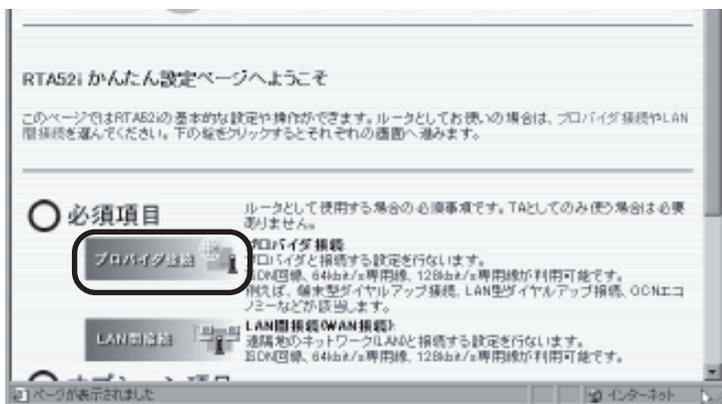
- 14 [パスワード] 入力欄に管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



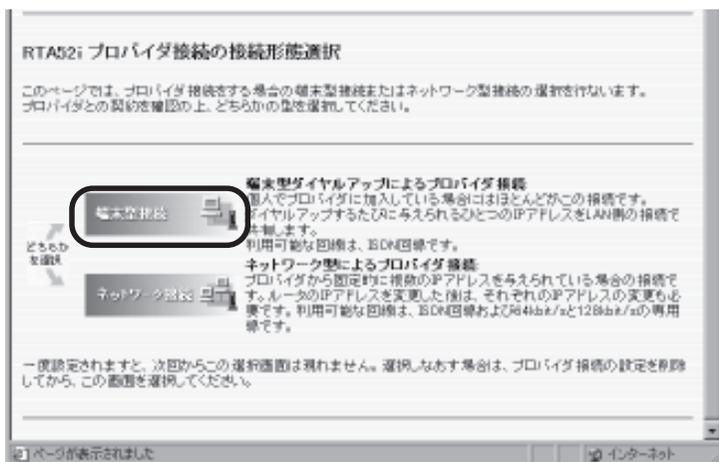
- 15 [かんたん設定] を押します。
「RTA52i かんたん設定ページ」が表示されます。



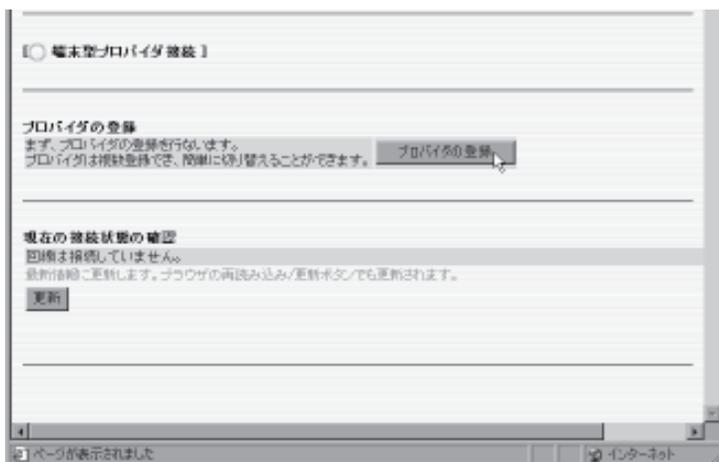
- 16 [プロバイダ接続] を押します。
「RTA52i プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。



- 17 [端末型接続] を押します。
「端末型プロバイダ接続」ページが表示されます。



- 18 [プロバイダの登録] ボタンを押します。
「新規登録」ページが表示されます。



- 19 プロバイダ名、ISDN 対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバの IP アドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。
 アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバの IP アドレスは、プロバイダから通知されたものを入力してください。
 メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「端末型プロバイダ接続」ページへ戻ります。

- MEMO
- DNS サーバのアドレス情報がない場合は、空欄のままでもかまいません。
 - 自動的に [接続時に自動取得する] が選択されます。

- 20 [自動接続設定] が [する] になっていることを確認します。
 これでルータのダイヤルアップ設定は完了です。

- ⚠ 注意 自動接続を設定すると、パソコンやソフトウェアの設定により、意図しない接続や課金が発生することがあります。自動接続したくないときは、[し] を押して [自動接続設定] ボタンを押して、設定を解除してください。

21 ページ右上の [ネットボランチホームページ] を押します。

自動的にインターネットへ接続されて、NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。インターネットへ接続中は、ISDN B1 または B2 ランプが点灯します。



一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

- MEMO ● プロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。(P.129)

インターネットにつながらないときは

「端末型プロバイダ接続」ページに戻り、ブラウザの [更新 (再読み込み)] ボタンを押すと、[最後の通信] のメッセージ欄に原因が表示されます。メッセージの内容を確認し、[登録の修正] ボタンを押して設定内容を確認してください。

- MEMO ● プロバイダによっては、ダイヤルアップ用とメール用でユーザIDとパスワードが異なる場合があります。プロバイダの接続情報書類をよくお読みください。
● DNS サーバのアドレス情報が [接続時に自動取得する] に設定されていてプロバイダから自動取得できなかった場合には、最後の通信欄に赤字で [DNS サーバアドレスが取得できませんでした] と表示されます。

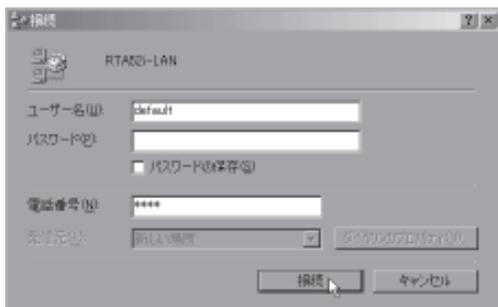
LAN への接続

次回以降、LANへ接続するときは、[ダイヤルアップ ネットワーク]フォルダの[RTA52i-LAN]アイコンを開き、本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続します。

- 1 [ダイヤルアップ ネットワーク]フォルダの[RTA52i-LAN]アイコンを開きます。



- 2 [接続] ボタンを押します。
本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。



- MEMO
- 作成した [RTA52i-LAN] アイコンのショートカットをスタートメニューの [スタートアップ] に追加すると、Windows 起動後 [RTA52i-LAN] ウィンドウが開くようになります。[接続] ボタンを押せば、簡単にLANへアクセスできます。

Macintosh の設定

Macintosh の設定は、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」を使って行います。ここでは MacOS 8.6 と Internet Explorer 4.5J の画面を例に説明しています。

注意 プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

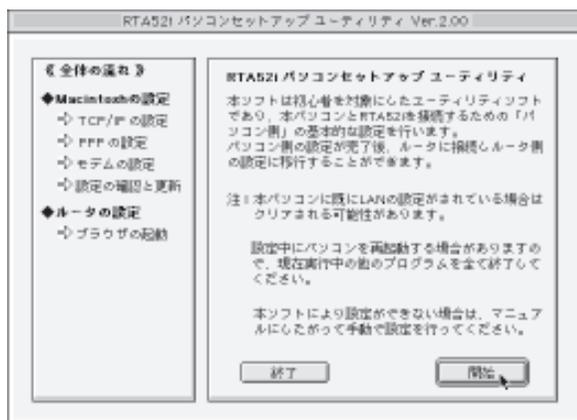
MEMO

- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA52i パソコンセットアップ ユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定を行ってください。(P.114)
- その後ブラウザで " http://192.168.0.1/ " にアクセスし、手順 12 (P.89) に進んでください。

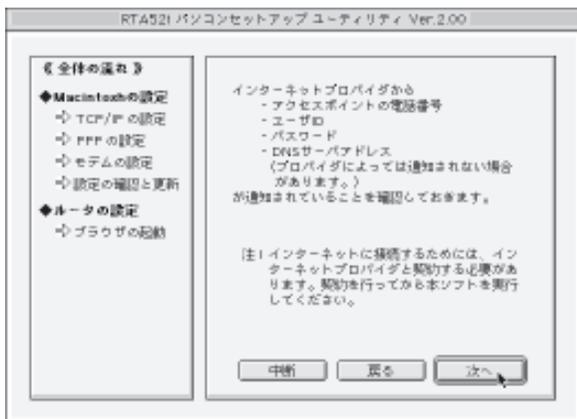
- 1 POWER スwitch の「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。
- 2 付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[RTA52i パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。



- 3 メッセージの内容を確認し、[開始] ボタンを押します。
問題がある場合は、[終了] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



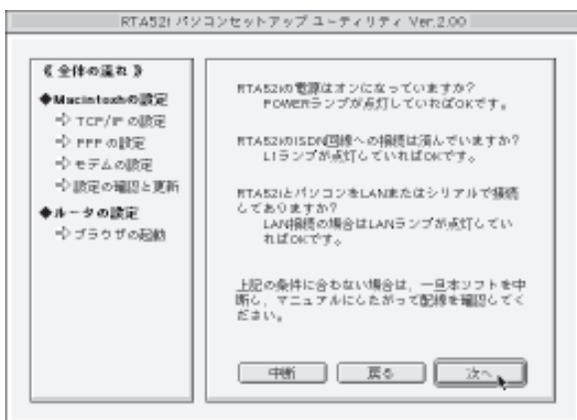
4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ]ボタンを押します。



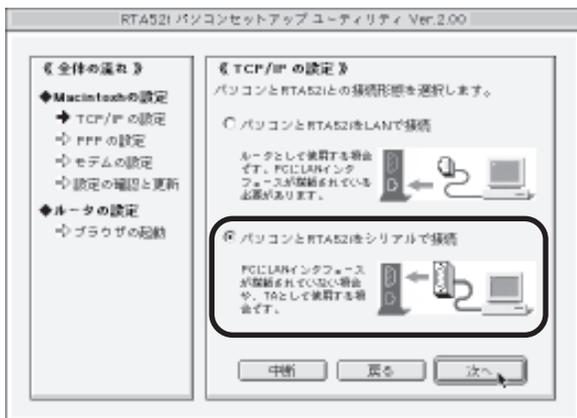
3

パソコンを設定して

5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ]ボタンを押します。 問題がある場合は、[中断]ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。

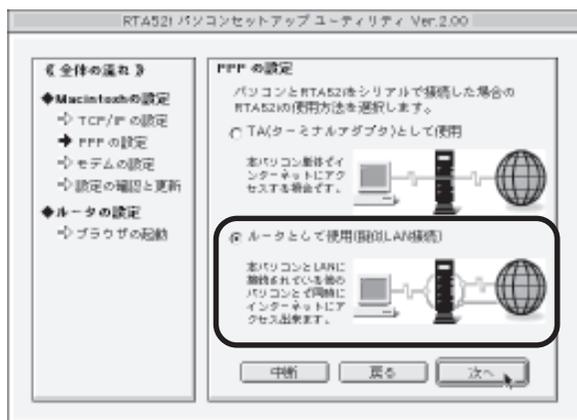


6 [パソコンとRTA52iをシリアルで接続]を選択し、[次へ]ボタンを押します。

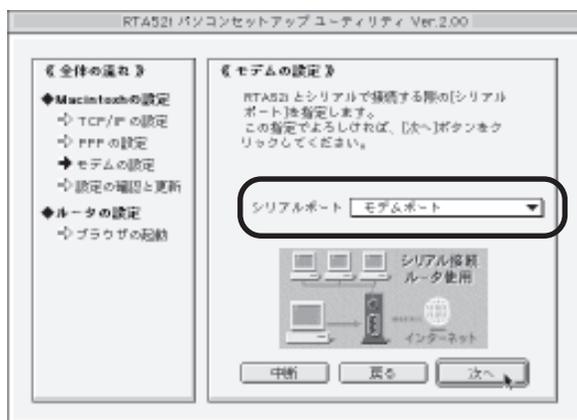


Mac

- 7 [ルータとして使用] を選択し、[次へ] ボタンを押します。
本機を接続したシリアルポートが検出されます。

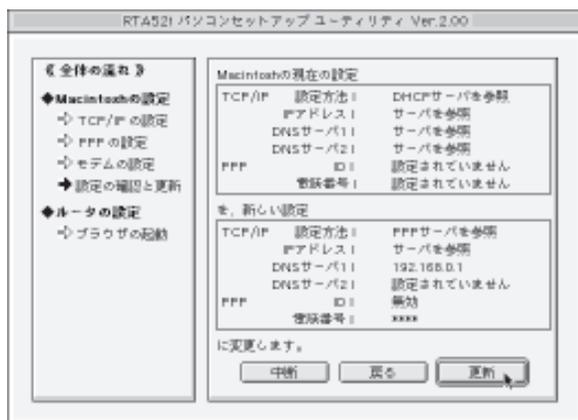


- 8 シリアルポートを確認し、[次へ] ボタンを押します。

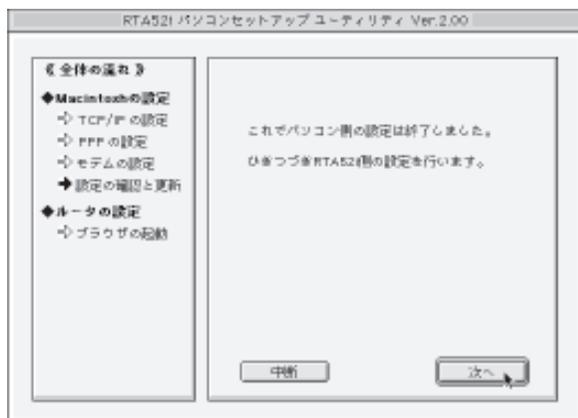


- MEMO ● 正しいシリアルポートが表示されないときやエラーメッセージが表示されるときは、本機の電源やシリアルケーブルの接続状態を確認してください。

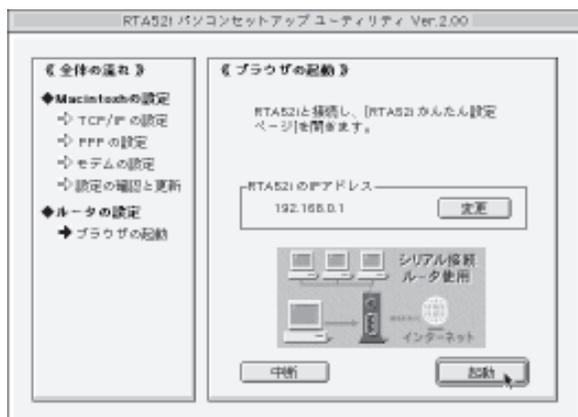
- 9 設定内容を確認し、[更新] ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。



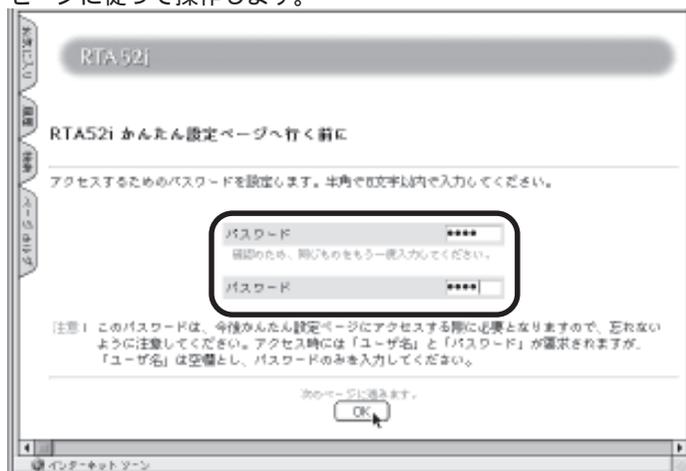
- 10 パソコンの設定が終わったら、[次へ] ボタンを押します。
パソコンの状態によっては再起動する場合があります。



- 11 [起動] ボタンを押します。
ブラウザが開き、「かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。

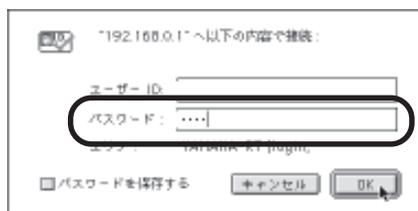


- 12 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。

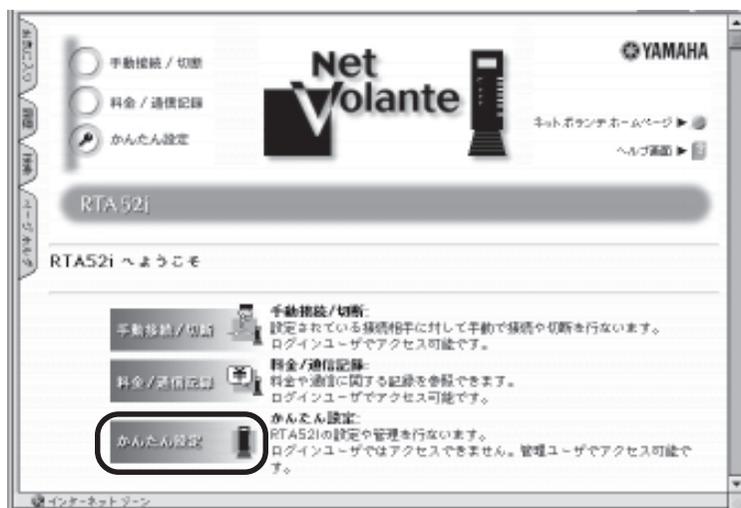


- MEMO ● ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

- 13 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。「RTA52i へようこそ」ページが表示されます。



- 14 [かんたん設定] を押します。「RTA52i かんたん設定ページ」が表示されます。



3

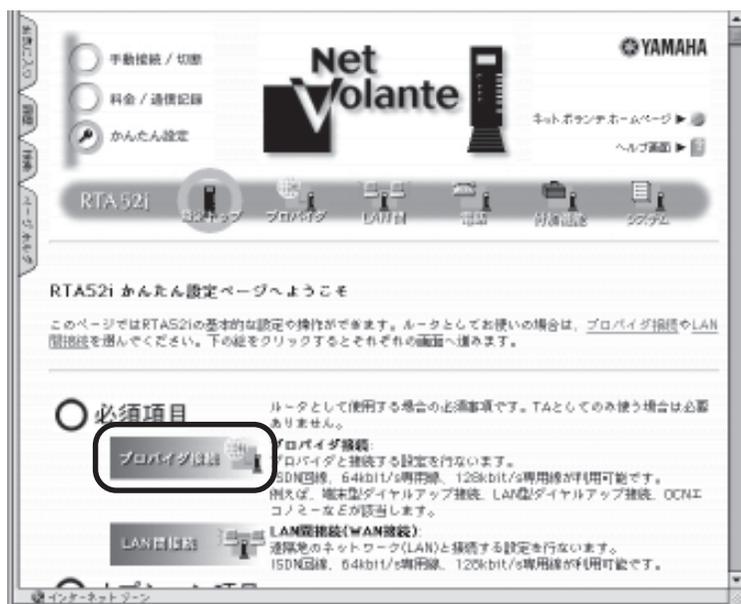
パソコンを設定しよう



Mac

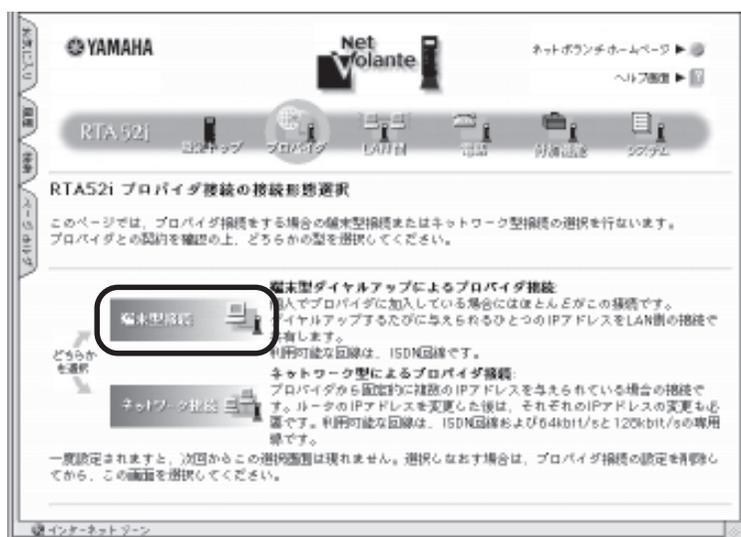
15 [プロバイダ接続] を押します。

「RTA52i プロバイダ接続の接続形態選択」ページが表示されます。

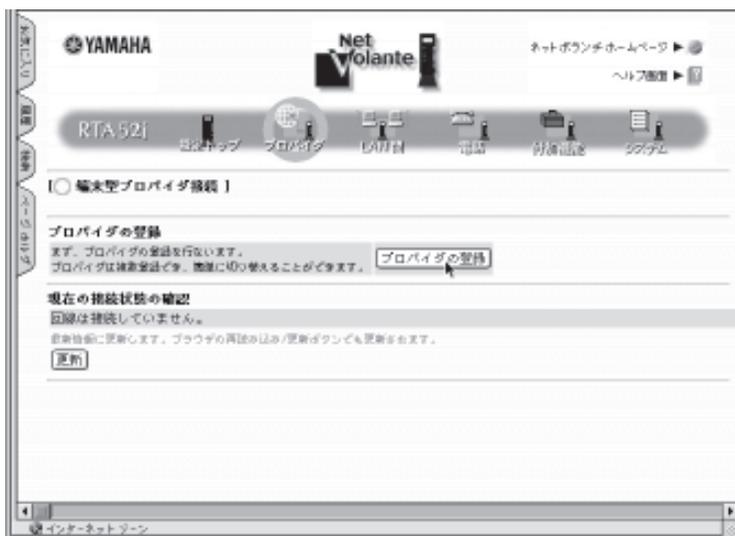


16 [端末型接続] を押します。

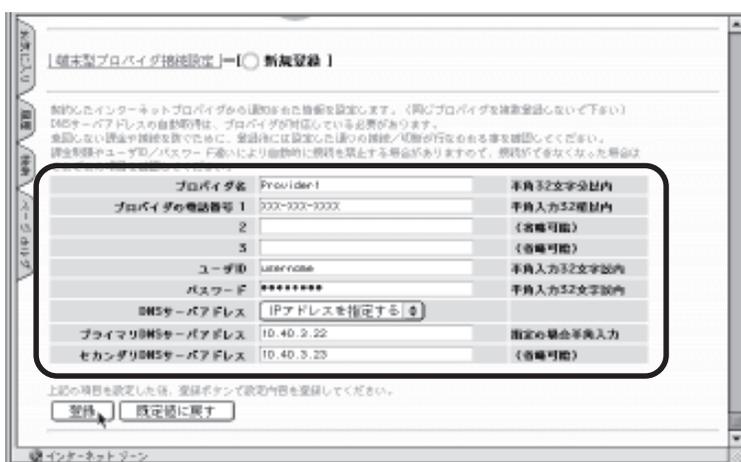
「端末型プロバイダ接続」ページが表示されます。



- 17 [プロバイダの登録] ボタンを押します。
「新規登録」ページが表示されます。



- 18 プロバイダ名、ISDN 対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバの IP アドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。
アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバの IP アドレスは、プロバイダから通知されたものを入力してください。
メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「端末型プロバイダ接続」ページへ戻ります。



- MEMO
- DNS サーバのアドレス情報がない場合は、空欄のままでもかまいません。
 - 自動的に [接続時に自動取得する] が選択されます。

- 19 [自動接続設定]が[する]になっていることを確認します。
これでルータのダイヤルアップ設定は完了です。



注意 自動接続を設定すると、パソコンやソフトウェアの設定により、意図しない接続や課金が発生することがあります。自動接続したくないときは、[しない]を押して[自動接続設定]ボタンを押し、設定を解除してください。

- 20 ページ右上の[ネットボランチホームページ]を押します。
自動的にインターネットへ接続されて、NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。インターネットへ接続中は、ISDN B1またはB2ランプが点灯します。



一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

- MEMO
- プロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。(P.129)

インターネットにつながらないときは

「端末型プロバイダ接続」ページに戻り、ブラウザの[更新(再読み込み)]ボタンを押すと、[最後の通信]のメッセージ欄に原因が表示されます。メッセージの内容を確認し、[登録の修正]ボタンを押して設定内容を確認してください。

- MEMO
- プロバイダによっては、ダイヤルアップ用とメール用でユーザIDとパスワードが異なる場合があります。プロバイダの接続情報書類をよくお読みください。
 - DNSサーバのアドレス情報が[接続時に自動取得する]に設定されていてプロバイダから自動取得できなかった場合には、最後の通信欄に赤字で[DNSサーバアドレスが取得できませんでした]と表示されます。

LANへの接続

LANへ接続するときは、リモートアクセスを開いて本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続します。

1 コントロールパネルの[リモートアクセス]を開きます。

2 [接続]を押します。



本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続し、LANにアクセスできるようになります。



- MEMO
- [リモートアクセス]のエイリアスを作り、[システムフォルダ]内の[起動項目]フォルダに入れておくと、Macintosh 起動後、「リモートアクセス」のウィンドウが開くようになります。[接続]ボタンを押せば、簡単にLANへアクセスできます。

3-5 TA 接続で設定する

本機は、TAとして使うことができます。インターネットに接続するには、ネットワークの設定とダイヤルアップの設定を行います。

- MEMO
- ネットワークゲームがうまくつながらないときやARA リモートアクセス
 - サーバにしたいときなど、ダイヤルアップルータで接続できない場合には、
 - TAとしてお使いください。ダイヤルアップルータ接続とTA接続を併用
 - することもできます。



注意

設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

3

パソコンを設定して

■ Windows 95/98 の設定

Windows95/98の設定は、「RTA52i パソコンセットアップユーティリティ」を使って行います。ここではWindows98とInternet Explorer 5.0Jの画面を例に説明しています。Windows95の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。



注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

- MEMO
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの環境によっては、「RTA52i パソコンセットアップユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。
 - その場合は、ネットワークの設定とダイヤルアップネットワークの設定を手動で設定してください。(P.108)
 - 「RTA52i パソコンセットアップユーティリティ」でTA接続の設定を場合、擬似LAN接続用の[RTA52i-LAN]アイコンも自動的に作成されま
 - す。擬似LANで本機に接続することにより、電話機能などの設定がブラウザで行えるようになります。(P.84)

ネットワークとダイヤルアップ接続を設定する

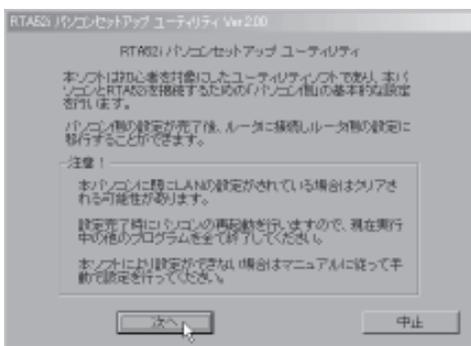
- 1 POWER スイッチの「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。

Win

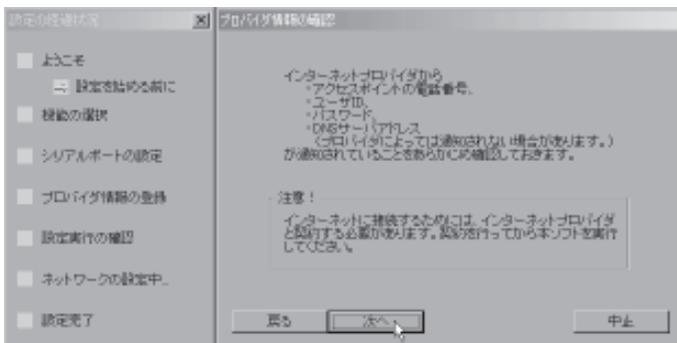
- 2 [スタート] ボタンを押し、[プログラム]-[RTA52i ユーティリティ]-[RTA52i パソコンセットアップ]を開きます。



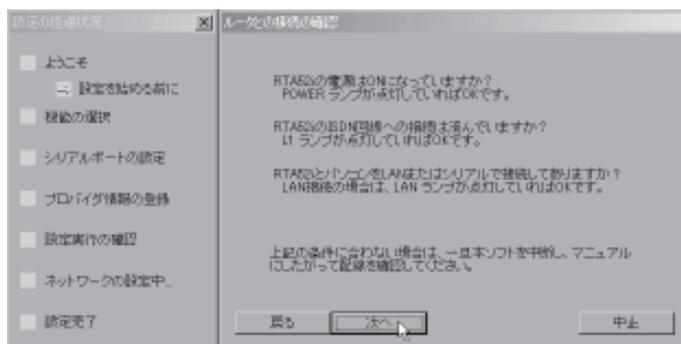
- 3 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



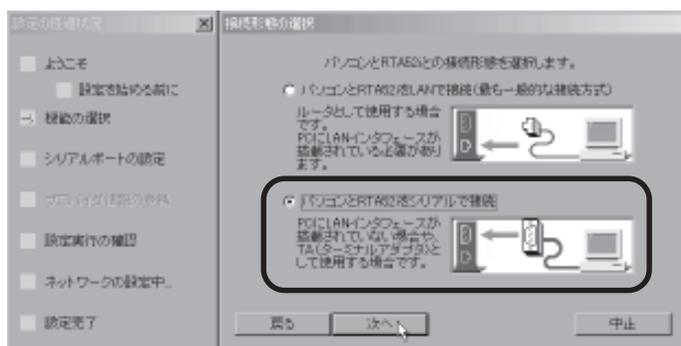
- 4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



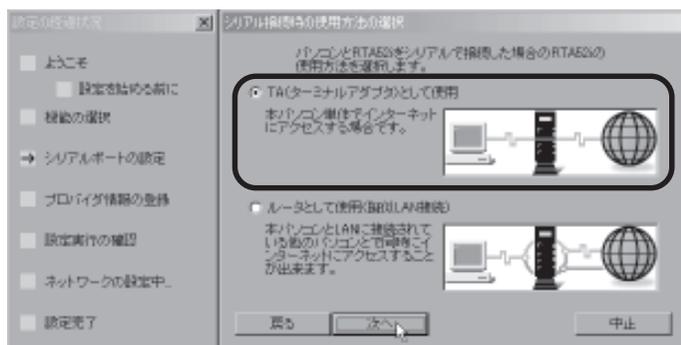
- 5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中止] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



- 6 [パソコンとRTA52i をシリアルで接続] を選択し、[次へ] ボタンを押します。

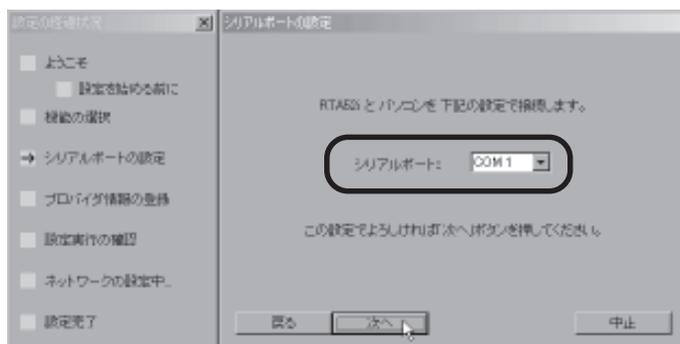


- 7 [TA(ターミナルアダプタ)として使用] を選択し、[次へ] ボタンを押します。
本機を接続したシリアルポートが検出されます。



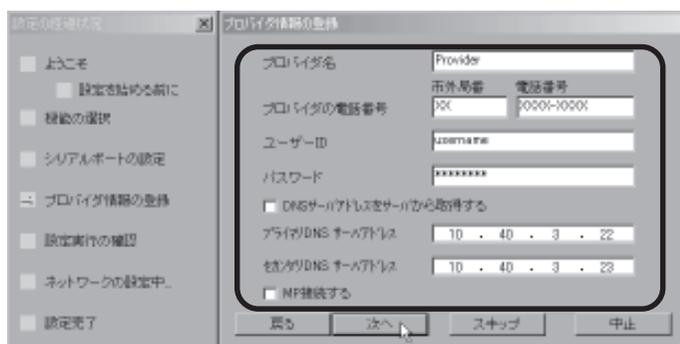
MEMO ● シリアルポートの検出には、時間がかかる場合があります。

8 シリアルポートを確認し、[次へ] ボタンを押します。



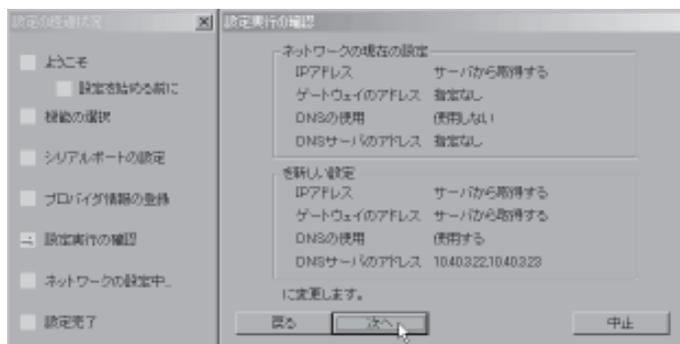
- MEMO
- 正しいシリアルポートが表示されないときやエラーメッセージが表示されたときは、本機の電源やシリアルケーブルの接続状態、他のソフトウェアがシリアルポートを使用していないかなどを確認してください。

9 プロバイダ名、ISDN 対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバの IP アドレスを入力し、[次へ] ボタンを押します。

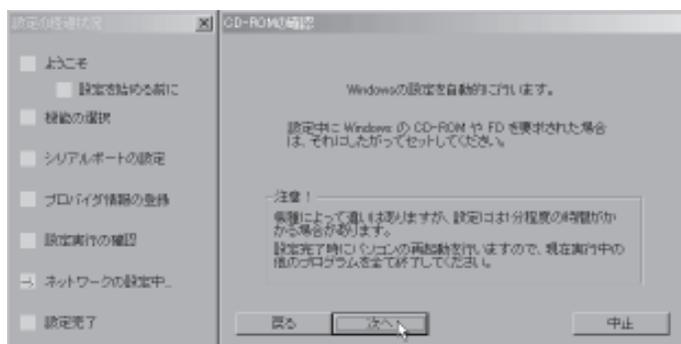


- MEMO
- プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、[MP 接続する] をチェックしてください。また、アクセスポイントは必ずMP対応の電話番号を入力してください。

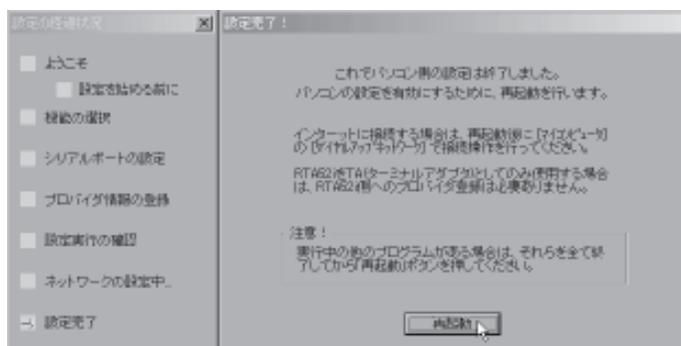
10 設定内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。



- 11** メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。
パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。Windows95 の場合は Windows のインストールCD-ROM をご用意ください。



- 12** パソコンの設定が終わったら、[再起動] ボタンを押します。
パソコンが再起動されます。
これで TA 接続の設定は完了です。



- 13** Windows 再起動時に「ネットワークパスワードの入力」ダイアログが表示されたときは、使用中のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

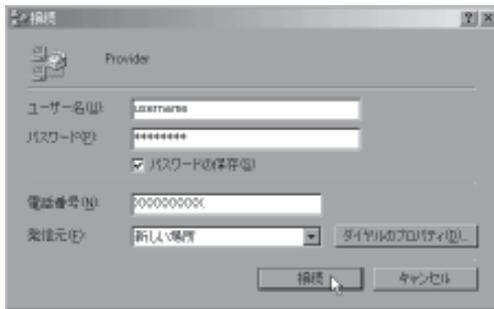
- MEMO ● 必ず [OK] ボタンを押してください。[キャンセル] ボタンを押して Windows を起動すると、ここで設定されたプロバイダのユーザー ID とパスワードを接続時に再入力する必要があります。

インターネットへ接続する

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]を開き、プロバイダ名のアイコンを開きます。



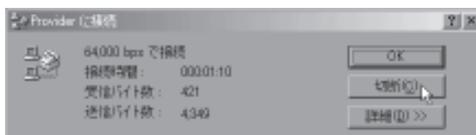
- 2 [接続] ボタンを押します。
インターネットへ接続すると、「ダイヤルアップネットワーク(プロバイダ名)」ウィンドウが表示され、接続速度と接続時間が表示されます。接続速度はプロバイダやアクセスポイントによって変わります。



- MEMO ● [パスワードの保存] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 ブラウザのアドレス入力欄に “http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/” と入力し、[enter] キーを押します。
NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。インターネットへ接続中は、ISDN B1 または B2 ランプが点灯します。

- 4 接続を解除するときは、[切断] ボタンを押します。
プロバイダとの接続が切れます



■ Macintosh の設定

Macintosh の設定は、「RTA52i パソコンセットアップユーティリティ」を使って行います。ここでは MacOS 8.6 と Internet Explorer 4.5J の画面を例に説明しています。MacOS 8.0 および 8.1 の場合は、先に MacOS の CD-ROM から「Apple Remote Access」のインストールを行ってください。



注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA 接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使用していると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

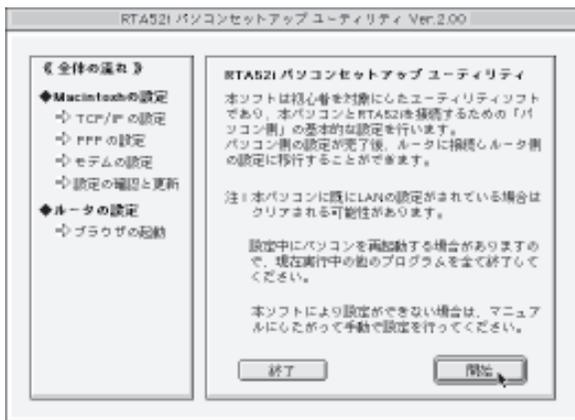
MEMO

- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA52i パソコンセットアップユーティリティ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、ネットワークの設定を手動で設定を行ってください。(P.114)
-
- ブラウザで電話機能などの設定を行いたいときは、「RTA52i パソコンセットアップ」で擬似 LAN 接続設定の手順 1 ~ 10 を行い、[中断] ボタンを押してください。(P.85 ~ 88) 手順 11 以降の本機にプロバイダ情報を設定する操作は必要ありません。また TA 接続と擬似 LAN 接続は、リモートアクセスの [ファイル] メニューの [設定] で切り替えることができます。

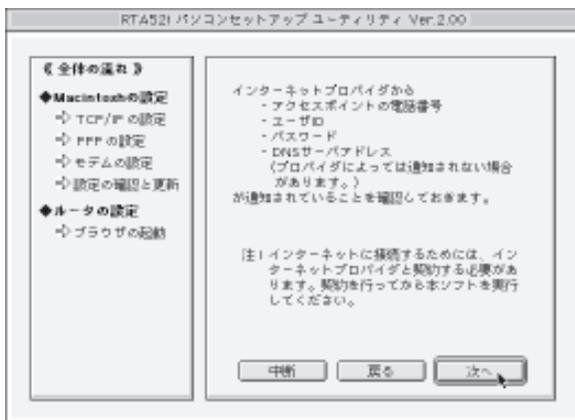
- 1 POWER スイッチの「 | 」側を押して、本機の電源をオンにします。
- 2 付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[RTA52i パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。



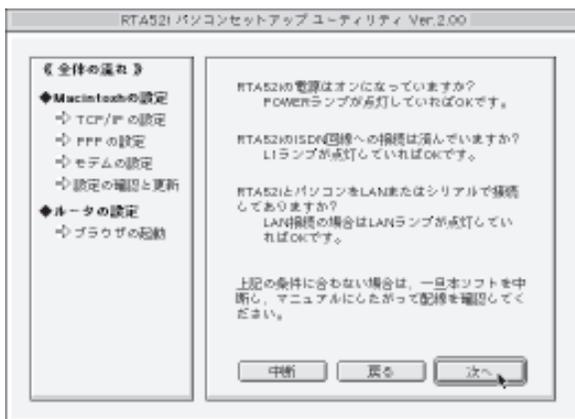
- 3 メッセージの内容を確認し、[開始] ボタンを押します。
問題がある場合は、[終了] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。



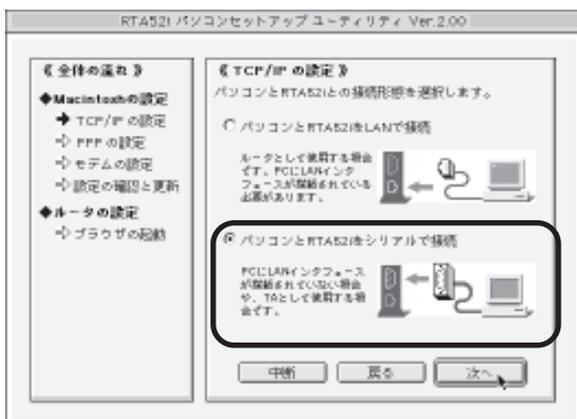
- 4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



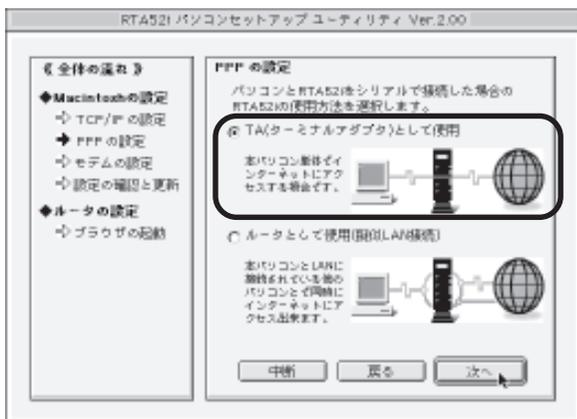
- 5 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[中断] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。



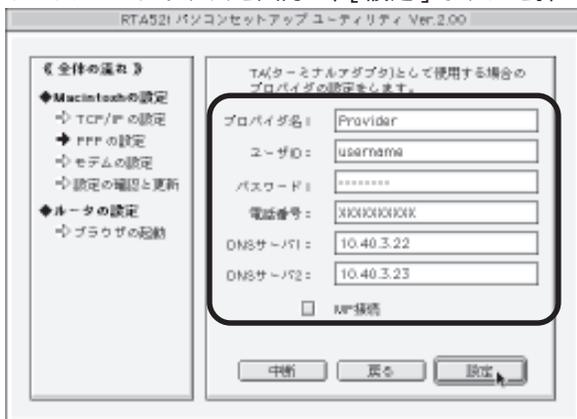
6 [パソコンとRTA52iをシリアルで接続]を選択し、[次へ]ボタンを押します。



7 [TA(ターミナルアダプタ)として使用]を選択し、[次へ]ボタンを押します。本機を接続したシリアルポートが検出されます。

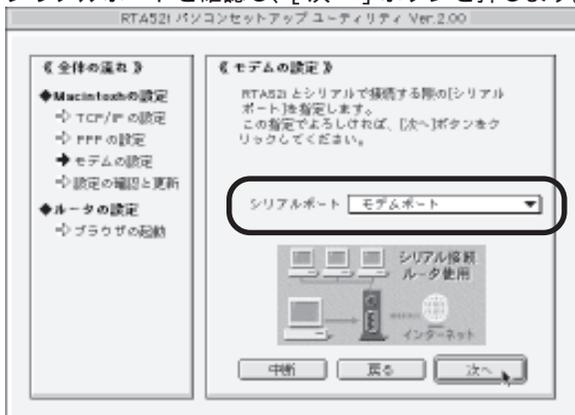


8 プロバイダ名、ISDN対応アクセスポイント電話番号、ユーザ名、パスワード、ネームサーバのIPアドレスを入力し、[設定]ボタンを押します。



MEMO ● プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、[MP接続する]をチェックしてください。また、アクセスポイントは必ずMP対応の電話番号を入力してください。

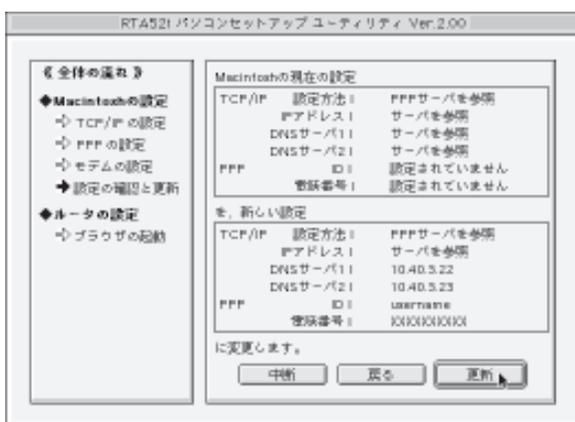
9 シリアルポートを確認し、[次へ] ボタンを押します。



- MEMO
- 正しいシリアルポートが表示されないときやエラーメッセージが表示されるときは、本機の電源やシリアルケーブルの接続状態、他のソフトウェアがシリアルポートを使用していないかなどを確認してください。

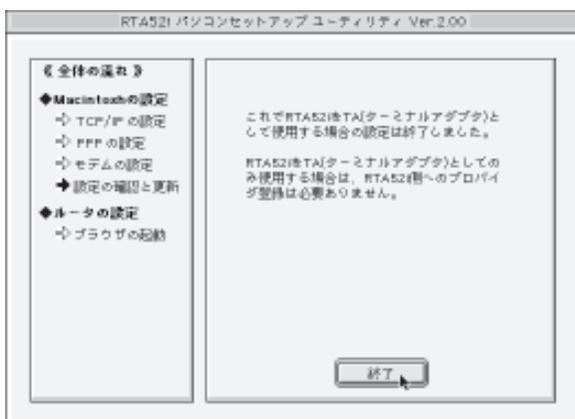
10 設定内容を確認し、[更新] ボタンを押します。

パソコンの設定が行われます。パソコンの状態によっては再起動する場合があります。



11 パソコンの設定が終了したら、[終了] ボタンを押します。

これで、TA 接続の設定は完了です。



インターネットへ接続する

- 1 コントロールパネルの [リモートアクセス] を開きます。
「リモートアクセス」ウィンドウが表示されます。
- 2 [接続] ボタンを押します。
パスワードを保存していないときは、パスワードを入力します。プロバイダへダイヤルし始めます。インターネットへ接続すると、接続時間や転送状況を示すバーが表示されます。



- MEMO ● [パスワードを保存] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 ブラウザのアドレス入力欄に “ <http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/> ” と入力し、[return] キーを押します。
NetVolanteのホームページが表示されることを確認してください。インターネットへ接続中は、ISDN B1 または B2 ランプが点灯します。
- 4 接続を切るときは、「リモートアクセス」ウィンドウの [接続を切る] ボタンを押します。
プロバイダとの接続が切れます。



3-6 手動でネットワーク機能を設定する

2台目以降のパソコンを設定する場合や、ユーティリティソフトが正しく動作しない場合は、手動でネットワーク機能を設定します。ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

■ Windows 95/98 のネットワーク設定

Windows 95/98の場合は、ネットワーク機能の設定を行います。ネットワークボードが装着されていないときは、先にネットワークボードのインストールを行ってください。

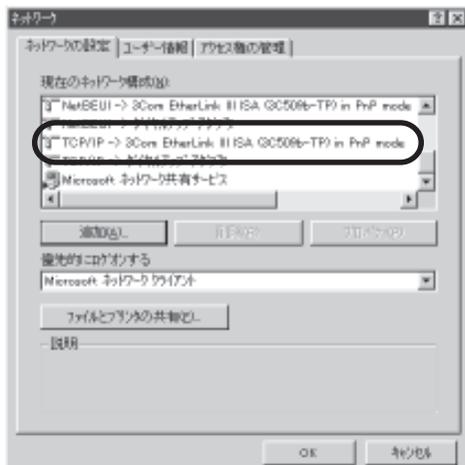


注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

設定を始める前にLANボードまたはLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にLANボードまたはLANカードの問題を解決してから設定を行ってください。

- 1 [コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、リストに" TCP/IP--> (ネットワークボード名)"があるかを確認します。

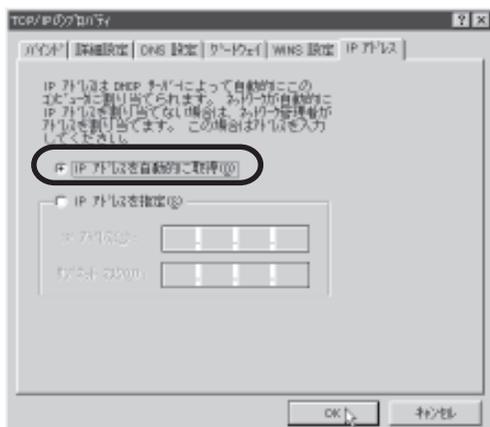


ない場合は[追加]ボタンを押して、[プロトコル]の追加で[Microsoft]の[TCP/IP]を追加します。

- 2 リストの [TCP/IP --> (ネットワークボード名)] を選択し、[プロパティ] ボタンを押します。



- 3 [IP アドレス] タブの [IP アドレスを自動的に取得] を選択し、[OK] ボタンを押します。



- 4 [OK] ボタンを押して「ネットワーク」ウィンドウを閉じ、設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

3

パソコンを設定してあげよう

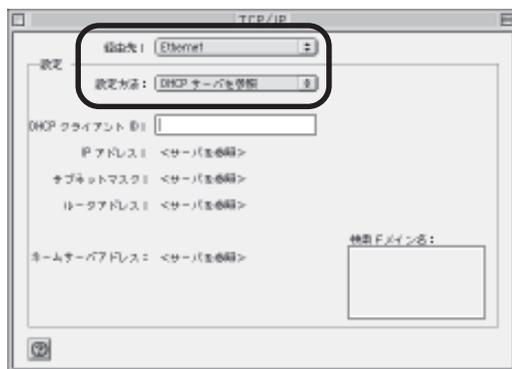
Win

■ Macintosh (TCP/IP) のネットワーク設定

Macintoshでは、ネットワーク機能を行います。ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。ここでは、「TCP/IP」コントロールパネルを例に説明しています。

注意 プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使用していると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経由先] を "Ethernet"、[設定方法] を "DHCP サーバを参照" に設定します。



- MEMO
- MacOS9 (MacOS8.6 の iMac や G4 の一部や iBook を含む) の場合、
 - DHCP サーバ機能が正常に動作しないことがあります (ユーザーズマニュアル 7-1)

- 2 設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じて設定を保存します。

3-7 手動でTA接続を設定する

ユーティリティソフトが正しく動作しない場合やソフトウェアの使用環境が違う場合は、手動でネットワークとダイヤルアップを設定します。

■ Windows95/98 の TA 接続設定

Windows 95/98の場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。



注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

ネットワーク機能の設定

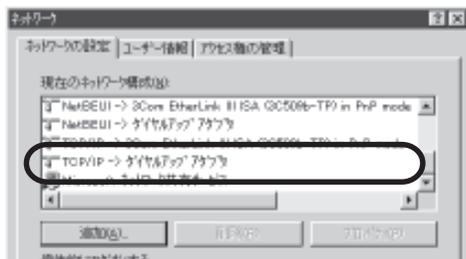
Windows95の場合は、ネットワーク機能のインストールと設定を行います。

- 1 [マイコンピュータ]を開き、[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがあるかを確認します。



[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがない場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブの[通信]-[ダイヤルアップネットワーク]をチェックして、WindowsのインストールCD-ROMから追加インストールしてください。

- 2 [コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、リストに" TCP/IP -> ダイヤルアップアダプタ"があるかを確認します。



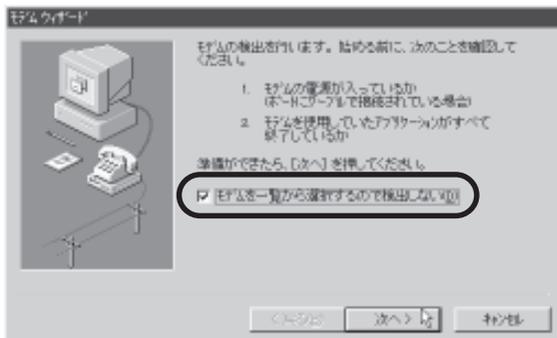
ない場合は[追加]ボタンを押して、[プロトコル]の追加で[Microsoft]の[TCP/IP]を追加します。リストに" TCP/IP"が表示されたら、「ネットワーク」ウィンドウを閉じます。

モデムの設定

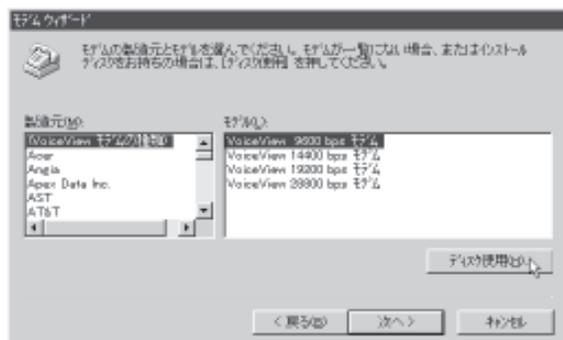
- 1 [コントロールパネル]の[モデム]を開きます。
「モデム ウィザード」ウィンドウが表示されます。
「モデムのプロパティ」ウィンドウが表示されたときは、[追加] ボタンを押します。
ノートパソコンでモデムの種類を選択する画面が表示されたときは、[その他]を選択して[次へ] ボタンを押します。



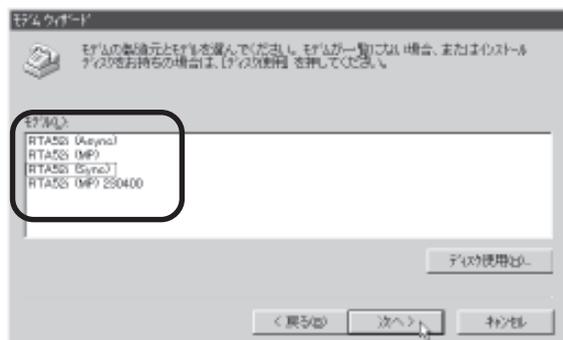
- 2 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、[次へ]を押します。



- 3 付属の CD-ROM をセットしてから [ディスク使用] ボタンを押し、[参照] ボタンを押し CD-ROM ドライブを選択します。



- 4 プロバイダの回線速度に合わせて [RTA52i x x x x] を選択して [次へ] を押します。擬似 LAN 接続の場合は [RTA52i (Sync)] を選択してください。



プロバイダの回線速度	選択項目名
非同期 2400, 4800, 9600, 19.2k, 38.4k, 57.6k	RTA52i (Async)
同期 64k, 擬似 LAN	RTA52i (Sync)
同期 128k (シリアル速度 115.2kbit/s 以下)	RTA52i (MP)
同期 128k (シリアル速度 230.4kbit/s)	RTA52i (MP) 230400

- MEMO
- プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、お使いのパソコンのシリアルポート速度に合わせて、[RTA52i (MP)] または [RTA52i (MP) 230400] を選択してください。(パソコンの取扱説明書)
 - また、アクセスポイントは必ず MP 対応の電話番号を入力してください。
 -
 - MP 接続を選択した場合には、別途「TA 接続による MP」の設定も必要となります。(ユーザーズマニュアル第 6 章「6-3 128Kbit/s で接続する」)

- 5 シリアルケーブルを接続したシリアルポート名を選択して[次へ]ボタンを押し、[完了]ボタンを押します。
リストにRTA52i が追加されたことを確認したら、「モデム ウィザード」ウィンドウを閉じます。



ダイヤルアップ接続の設定

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、[新しい接続]アイコンを開きます。
[新しい接続]アイコンがない場合には、「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が現れますので、[次へ]ボタンを押します。



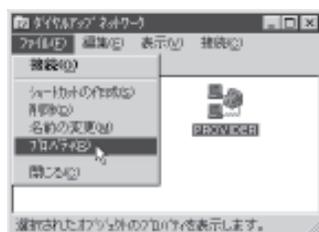
- 2 プロバイダ名とモデム名を入力し、[次へ]ボタンを押します。



- 3 ISDN 対応アクセスポイントの電話番号を入力して [次へ] ボタンを押し、[完了] ボタンを押します。
「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。



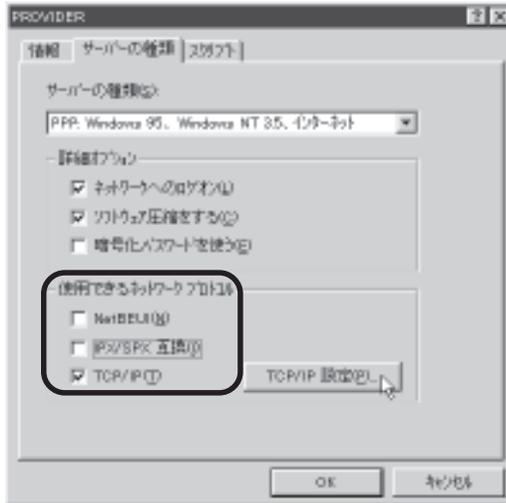
- 4 プロバイダのアイコンを選択し、ファイルメニューの [プロパティ] を選択します。



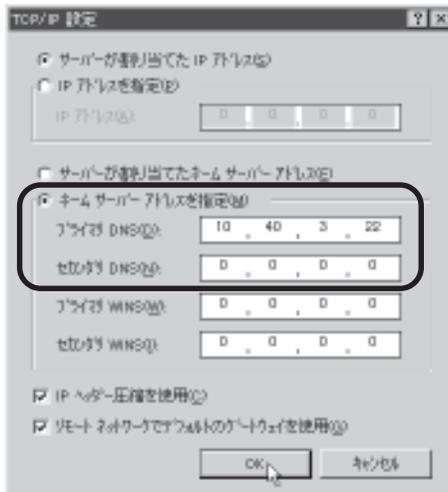
- 5 [サーバーの種類] タブを押します。



- 6 [使用できるネットワーク プロトコル]の[TCP/IP]にチェックを付けて[NetBEUI]と[IPX/SPX 互換]のチェックを外し、[TCP/IP 設定] ボタンを押します。



- 7 「名前サーバーアドレスを指定」を選択してプロバイダから指定された名前サーバのIPアドレスを入力し、各ウィンドウの[OK]ボタンを押してウィンドウを閉じます。これで、インターネット接続の設定が完了しました。



- MEMO ● プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場合は、[サーバーが割り当てた名前サーバアドレス]を選択します。

Macintosh の TA 接続設定

Macintoshでは、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス(PPP)の設定を行います。作業を始める前に、RTA52i用CCLファイルを付属のCD-ROMの[CCLファイル]フォルダから[システムフォルダ]-[機能拡張]-[Modem Scripts]フォルダ内へコピーしてください。

ここではMacOS 8.6の画面を例に説明しています。



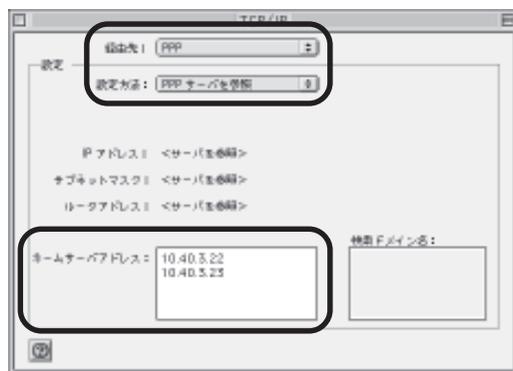
注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

ネットワーク機能の設定

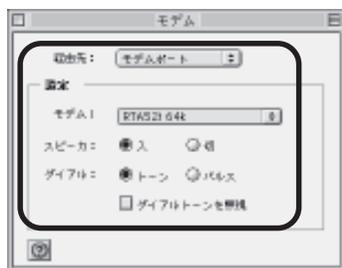
コントロールパネルの[TCP/IP]と[モデム]を設定します。

- 1 コントロールパネルの[TCP/IP]を開き、[経由先]を"PPP"、[設定方法]を"PPPサーバを参照"に設定して、[名前サーバアドレス]欄にプロバイダから入手した名前サーバのIPアドレスを設定します。
設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じます。



2 コントロールパネルの[モデム]を開き、[経由先]を接続したポート、[モデム]の種類をプロバイダの通信速度に合った"RTA52i XXXX"、[ダイヤル]の種類を"トーン"に設定します。

設定が終わったら、「モデム」ウィンドウを閉じます。



プロバイダの回線速度	選択項目名
非同期 38.4k	RTA52i 38.4k
非同期 57.6k	RTA52i 57.6k
同期 64k (制御文字変換なし)	RTA52i 64k
同期 64k (制御文字変換あり)	RTA52i 64k(v1.2)
同期 128k (制御文字変換なし)	RTA52i MP
同期 128k (制御文字変換あり)	RTA52i MP(v1.2)

- MEMO
- プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、[RTA52i (MP)] を選
 - 択してください。また、アクセスポイントは必ずMP対応の電話番号を入
 - 力してください。
 -
 - MP接続を選択した場合には、別途「TA接続によるMP」の設定も必要
 - となります。(ユーザーズマニュアル第6章「6-3 128Kbit/sで接続
 - する」)
 -
 - 同期接続では通常は制御文字変換なし([RTA52i 64k]または[RTA52i
 - MP])を使用してください。

3

パソコンを設定しよう

Mac

ダイヤルアップ接続の設定

- MEMO
- MacOS8.1 以前でアップルリモートアクセスをインストールしていない場合は、コントロールパネルの「PPP」を開いてください。設定操作は「リモートアクセス」と同じです。

- 1 コントロールパネルの [リモートアクセス] を開き、プロバイダから入手したユーザー ID とパスワード、ISDN 対応アクセスポイントの電話番号を設定します。設定が終わったら、「リモートアクセス」ウィンドウを閉じます。



- MEMO
- [パスワードを保存] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

第4章

ルータを使ってみよう

この章では、ダイヤルアップルータでインターネットに接続する時の基本的な操作や知っておいてほしい知識について説明しています。使い始める前に、ご一読ください。

4-1	インターネット接続を開始する	1 1 8
	自動で接続する	1 1 8
	ボタンで接続する	1 1 9
4-2	インターネット接続を終了する	1 2 0
	自動で切断する	1 2 0
	ボタンで切断する	1 2 0
4-3	ルータの動作状態を確認する	1 2 1
	ランプで確認する	1 2 1
	ディスプレイで確認する	1 2 2
	かんたん設定ページで確認する	1 2 3
4-4	料金情報をリセットする	1 2 6
4-5	プロバイダ接続を制限する	1 2 9
4-6	不審な自動接続が見つかったときは	1 3 4
	通信記録の見かた	1 3 5
	原因になりやすい設定項目	1 3 7

4-1 インターネット接続を開始する

ダイヤルアップルータは、LAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると自動的に接続します。通常は、ホームページやメールを見る操作をするだけで、インターネットの接続・切断が自動的に行われます。また、本機のボタンを押して手動でルータ接続を行うこともできます。

自動接続をするかしないかは、「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続」ページで変更することができます。手動接続をする場合は、あらかじめ「CONN/DISC ボタンによる手動接続/切断設定」で変更する必要があります。初期設定では、手動接続は「しない」、手動切断は「する」に設定されています。



注意

お使いのソフトウェアの設定により、定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続ログを見て、意図しない接続がないか、確認してください。(P.134)

ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコン使用中に自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分注意してください。(P.134)

MEMO ● CONN/DISC ボタンでアナログポートや TA の接続はできません。



■ 自動で接続する

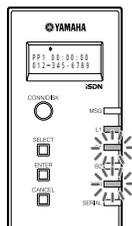
自動接続の場合は、接続のための操作はありません。ブラウザでURLを入力したり、メールソフトで送信や受信の操作を行うだけで、自動的に接続されます。

1 ブラウザのアドレス入力欄にURLを入力し、[enter] キーを押します。

自動的にインターネットへ接続され、ホームページが表示されます。

インターネットへ接続されているときは、ISDN B1またはB2ランプが点灯し、ディスプレイに「PPxx : 00:00:00 (接続時間)」が表示されます。

一定時間アクセスがないと、自動的に切断されます。



4

ルータを使ってみよう

Win

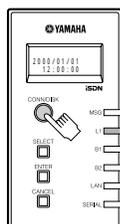
Mac

■ ボタンで接続する

「かんたん設定ページ」で [CONN/DISC ボタンによる手動接続] の設定を [する] にしてある場合は、本機のボタンを押して手動で接続を行うことができます。この機能を使うときは、先に「かんたん設定ページ」で設定を行ってください。

- MEMO
- 本機の初期設定は、[CONN/DISC ボタンによる手動接続] が [しない] になっています。また、接続先は「かんたん設定ページ」で指定したプロバイダになります。

- 1 [CONN/DISC] ボタンを2秒以上押し続けます。
ISDN B1またはB2ランプが点灯し、ディスプレイに「PPxx : 00:00:00 (接続時間)」が表示されて、インターネットへ接続されます。



4-2 インターネット接続を終了する

ダイヤルアップルータは、LAN内から一定時間インターネットへのアクセスがないと、次の課金単位時間（初期設定では3分毎）で自動切断します。切断条件の設定は、「かんたん設定ページ」で変更することができます。また、本機のボタンを押して手動で切断することもできます。



注意

お使いのソフトウェアの設定により、定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続ログを見て、意図しない接続がないか、確認してください。（ P.134 ）

ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコン使用中に自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分注意してください。（ P.134 ）

MEMO ● CONN/DISC ボタンでアナログポートやTAの切断はできません。

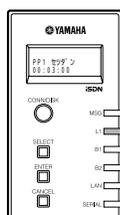
■ 自動で切断する

自動接続の場合は、切断のための操作はありません。ブラウザによるアクセスや、メールソフトでの送受信操作を行わなくなると、自動的に切断されます。

1 インターネットへのアクセスをやめます。

次の課金単位時間（初期設定では3分毎）で自動切断されます。

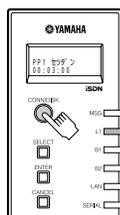
切断されると、ISDN B1またはB2ランプが消灯し、ディスプレイに「PPxx: セツダン」および電話料金が表示されます。



■ ボタンで切断する

1 [CONN/DISC] ボタンを1秒以上押し続けます。

インターネット接続が切断され、点灯していた ISDN B1 または B2 ランプが消灯し、ディスプレイに「PPxx: セツダン」および電話料金が表示されます。



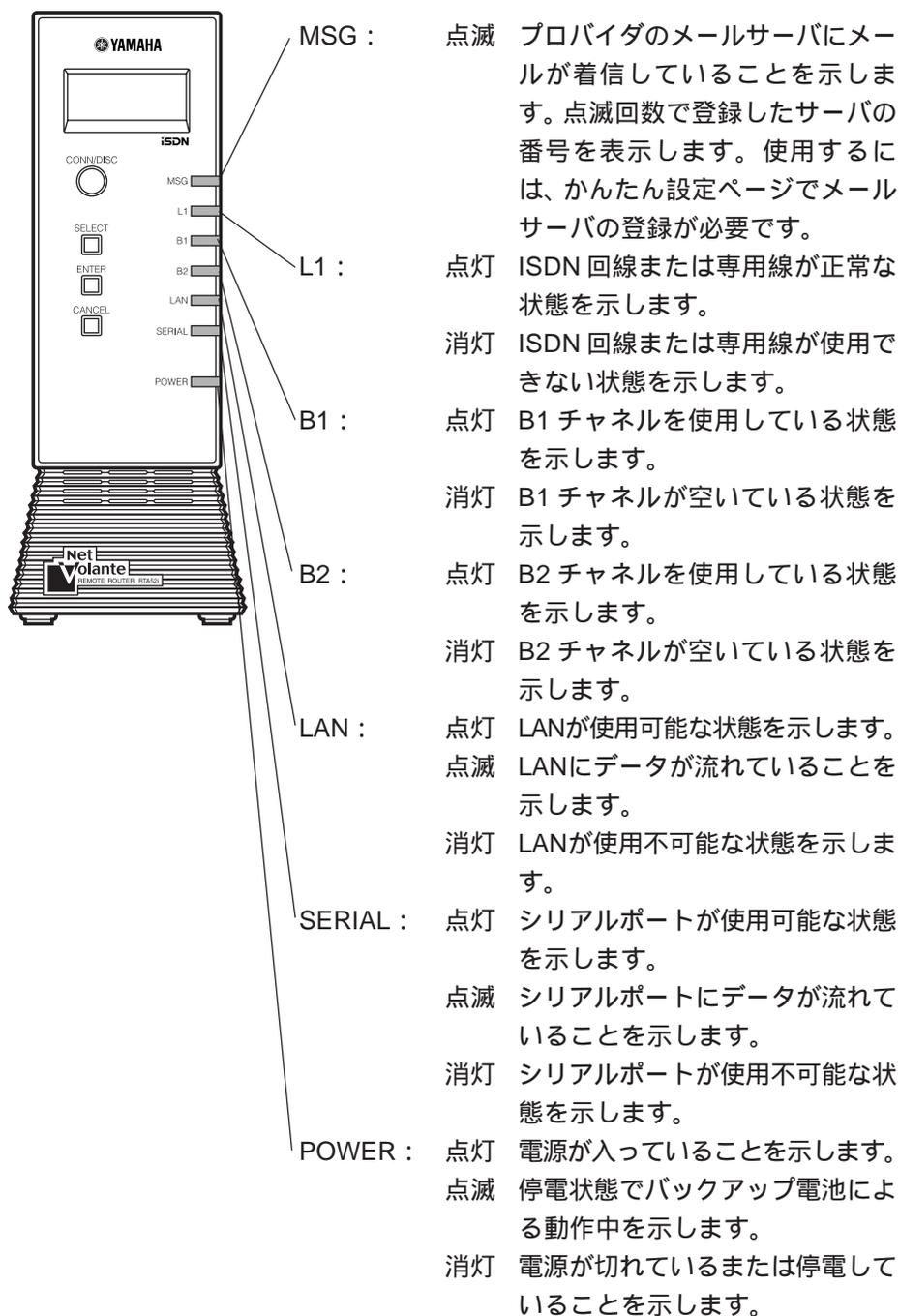
MEMO ● 本機の初期設定は、[CONN/DISC ボタンによる切断] が [する] になっています。ボタン切断の設定は「かんたん設定ページ」で変更できます。

4 - 3 ルータの動作状態を確認する

ルータの動作状態は、ランプやディスプレイ、簡単設定ページで確認することができます。

■ ランプで確認する

前面のランプは、次の状態を示します。



■ ディスプレイで確認する

前面のディスプレイには、さまざまな情報が表示されます。ただし、停電状態でバックアップ電池による動作をしているときは表示されません。

ISDN 回線の場合

通常状態

2000年01月01日	現在の日付
00:00:00	現在の時間

インターネット自動接続状態

PP01: 00:00:00	プロバイダ番号、接続時間
0123456789	接続先の電話番号

インターネット切断時

PP01: セツダン	プロバイダ番号
16 20円	切断コード、通話料金

TA 接続状態

TA: 00:00:00	シリアルポート、接続時間
0123456789	接続先の電話番号

電話機発信状態

TEL1: ハッシン	TEL ポート番号
0123456789	接続先の電話番号

電話機使用状態

TEL1: 00:00:00	TEL ポート番号、接続時間
0123456789	接続先の電話番号

電話機切断時

TEL1: セツダン	TEL ポート番号
16 60円	切断コード、通話料金

専用線の場合

インターネット接続状態

センヨウセン64k	回線の種類
60%	データ送受信のグラフ表示

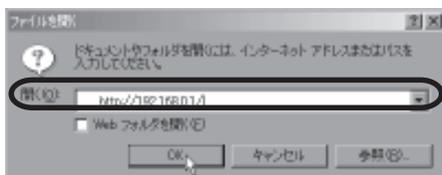
■ かんたん設定ページで確認する

「かんたん設定ページ」では、より詳しい状態や通信記録を見ることができます。ここでは、Windows 98 で Internet Explorer 5.0J を使った例に説明します。

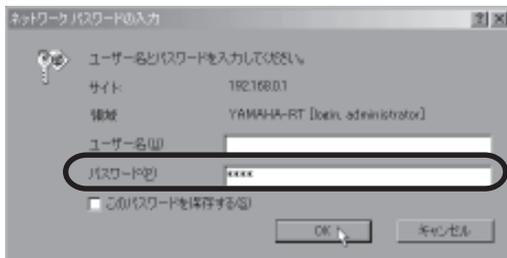
かんたん設定ページを開く

- MEMO
- Windows 95/98 の場合は、[スタート] ボタン - [プログラム] - [RTA52i ユーティリティ] - [RTA52i かんたん設定ページ] でも開くことができます。
 - ます。

- 1 ブラウザを開き、ファイルメニューの [開く] を選択します。
- 2 "http://192.168.0.1/" と入力して [OK] ボタンを押します。
「ユーザ名とパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
ルータの IP アドレスを変更している場合は、"http://(ルータの IP アドレス)/" を入力してください。



- 3 ルータの管理パスワードまたはログインパスワードを入力して [OK] ボタンを押します。
本機に内蔵の「RTA52i へようこそ」が表示されます。



4

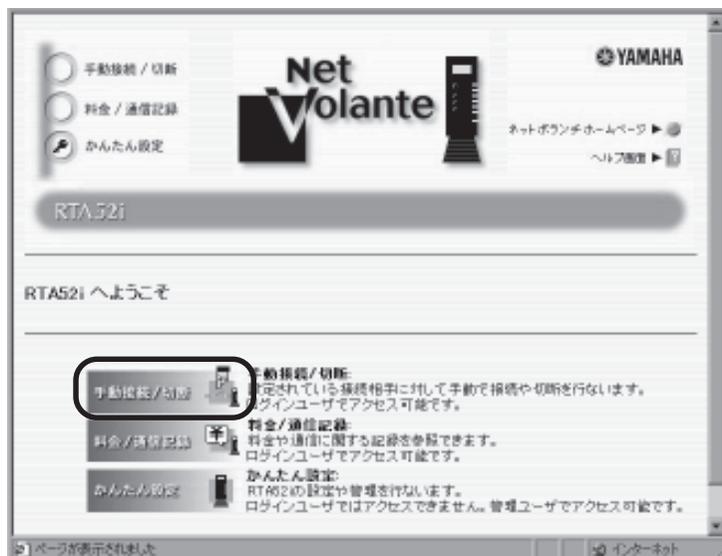
ルータを使ってみよう

Win

Mac

インターネット接続状態を見る

- 1 [手動接続 / 切断] を押します。
「手動接続 / 切断」ページが表示されます。

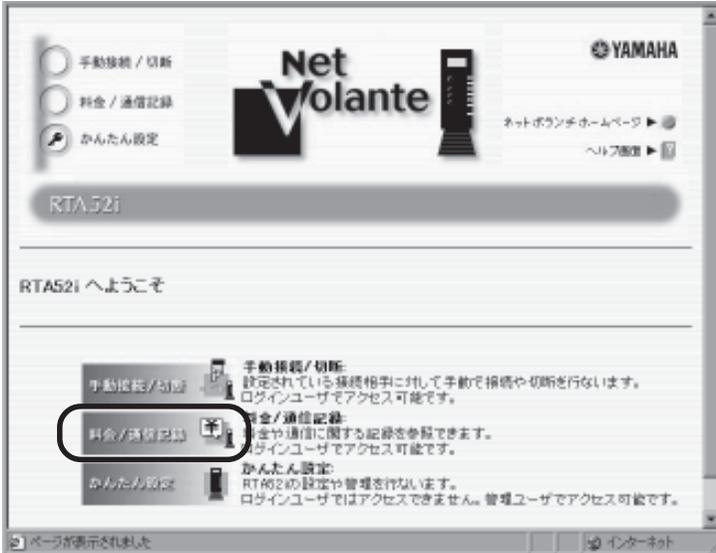


「手動接続 / 切断」ページには、現在の接続状態が表示されています。登録済みのプロバイダ毎に手動接続または切断が行えます。



通信記録を見る

- 1 「料金 / 通信記録」を押します。
「料金 / 通信記録」ページが表示されます。



「料金 / 通信記録」ページには、各ポート毎の料金や通話時間、通話毎の記録、着信転送件数、メールの着信件数、転送件数が表示されます。

料金情報【料金設定】

通信種別	最後の通信料金	累積料金	累積通話時間	累積着信回数	累積転送回数
プロバイダ 1	10円	20円	00:02:54	2回	0回
Provider1:選択中					
TEL1ポート	0円	150円	00:18:21	11回	1回
TEL2ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
SERIALポート	0円	120円	00:20:23	10回	0回
ISDN-DSP	0円	0円	00:00:00	0回	0回
	合計	270円	00:42:38	23回	1回

着信転送履歴【電話設定】

TEL1 着信転送しません
TEL2 着信転送しません
TEL3 着信転送しません

メール着信数【メール設定】

メール着信通知は設定されていません

メール転送履歴【メール設定】

メール転送は設定されていません

通信履歴

日付	時刻	通信種別	通信時間	料金	コード	相手
1	2008/01/11 10:58:38	PPH1:発信	00:01:51	10円	16	0323456789
2	2008/01/11 10:59:54	PPH1:発信	00:01:00	10円	16	0323456789
3	2008/01/11 10:11:58	TEL1:発信	00:00:43	10円	16	117

- MEMO
- 通信料金はNTTから通知される料金を累積して表示しています。NTTの割引サービスやNTT以外の回線業者の料金は反映されていません。
 - プロバイダ接続やLAN間接続の累積情報が発信制限に達している場合は、赤字で表示されます。その場合は、発信制限の値の見直しや料金のクリアにより発信できるようになります。

4 - 4 料金情報をリセットする

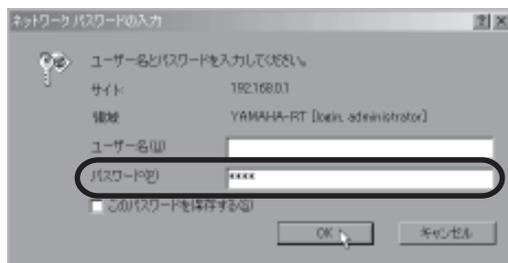
課金制限に達してプロバイダ接続できなくなった場合や定期的に累積制限を管理したい場合など、累積料金をリセットしたいときは、「かんたん設定ページ」の「料金設定」ページで行います。

- MEMO
- Windows 95/98 の場合は、[スタート] ボタン - [プログラム] - [RTA52i ユーティリティ] - [RTA52i かんたん設定ページ] でも開くことができます。

- 1 ブラウザを開き、ファイルメニューの [開く] を選択します。
- 2 "http://192.168.0.1/" と入力して [OK] ボタンを押します。
「ユーザ名とパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
ルータの IP アドレスを変更している場合は、"http://(ルータの IP アドレス)/" を入力してください。



- 3 ルータの管理パスワードを入力して [OK] ボタンを押します。
本機に内蔵の「RTA52i へようこそ」が表示されます。



4

ルータを使ってみよう

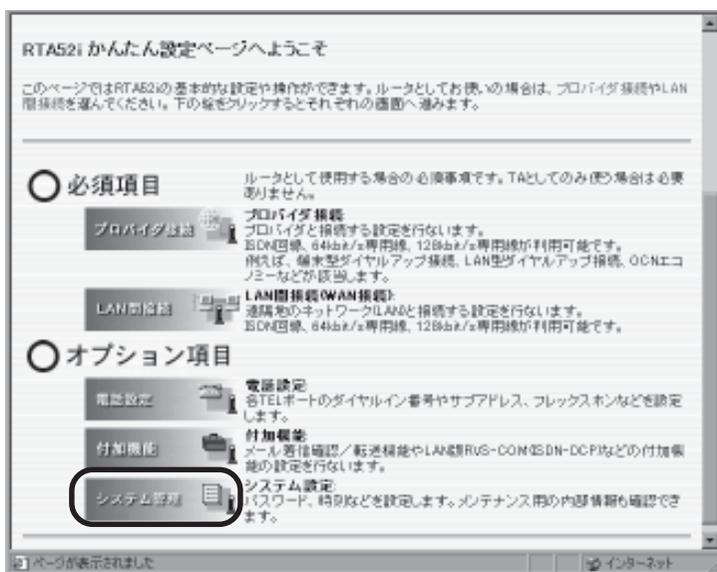
Win

Mac

- 4 [かんたん設定] を押します。
「かんたん設定」ページが表示されます。



- 5 [システム管理] を押します。



4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

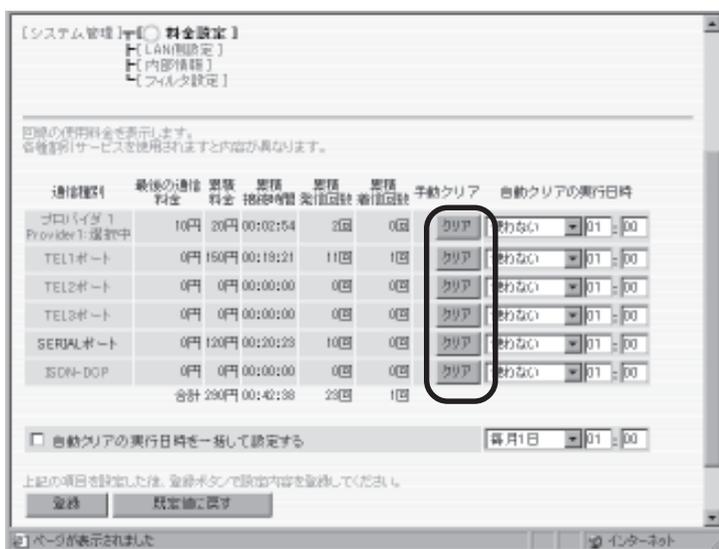
6 [料金設定]を押します。

「料金情報」ページには、各プロバイダ毎や各ポート毎の通話料金合計が表示されます。また、料金合計をリセットすることもできます。



7 リセットするときは、項目の[クリア]ボタンを押します。

料金合計がリセットされます。



- MEMO
- 各ポート毎に定期的に自動リセットすることができます。定期的のリセットしたいときは、各ポート毎にリセットする日付と時刻を設定します。
 - また、[自動クリアの実行日時を一括して設定する]をチェックし、日付と時刻を入力すると、すべての項目を一度にまとめて設定することができます。
 - ます。

4-5 プロバイダ接続を制限する

本機は切断タイマと発信制限に条件を設定することができます。これにより、通信料金の使いすぎや回線がつながりっぱなしになったまま気づかずにいたというトラブルを軽減することができます。

注意 本機の料金表示は、NTTの料金通知情報を累積したものです。NTTの割引サービスや他の回線業者の料金は反映されていません。実際の料金については、回線業者およびプロバイダの請求書を確認してください。

MEMO

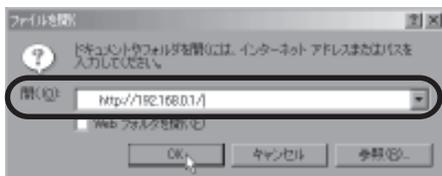
- Windows 95/98の場合は、[スタート]ボタン-[プログラム]-[RTA52iユーティリティ]-[RTA52iかんたん設定ページ]でも開くことができます。

1 ブラウザを開き、ファイルメニューの[開く]を選択します。

2 "http://192.168.0.1/" と入力して [OK] ボタンを押します。

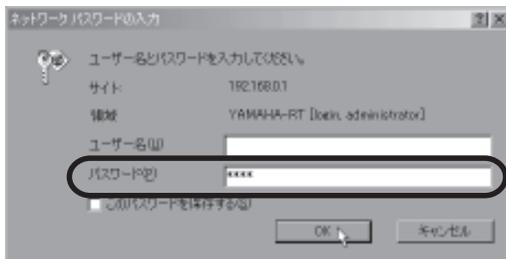
「ユーザ名とパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

ルータのIPアドレスを変更している場合は、"http://(ルータのIPアドレス)/" を入力してください。



3 ルータの管理パスワードを入力して [OK] ボタンを押します。

本機に内蔵の「RTA52iへようこそ」が表示されます。



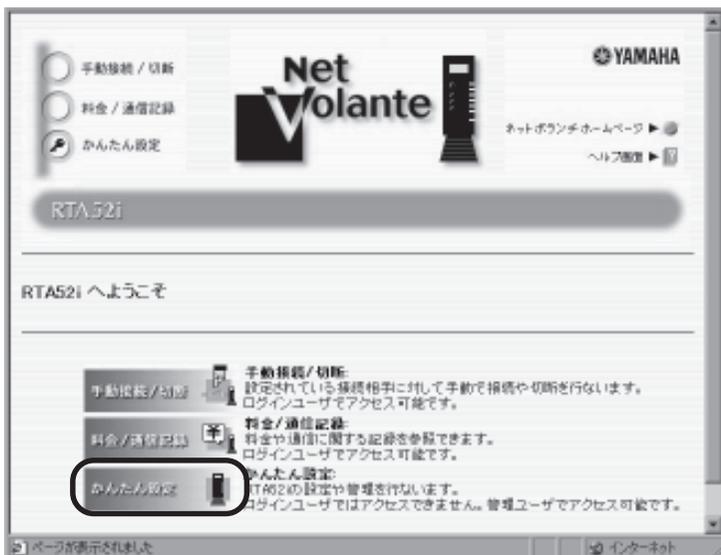
4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

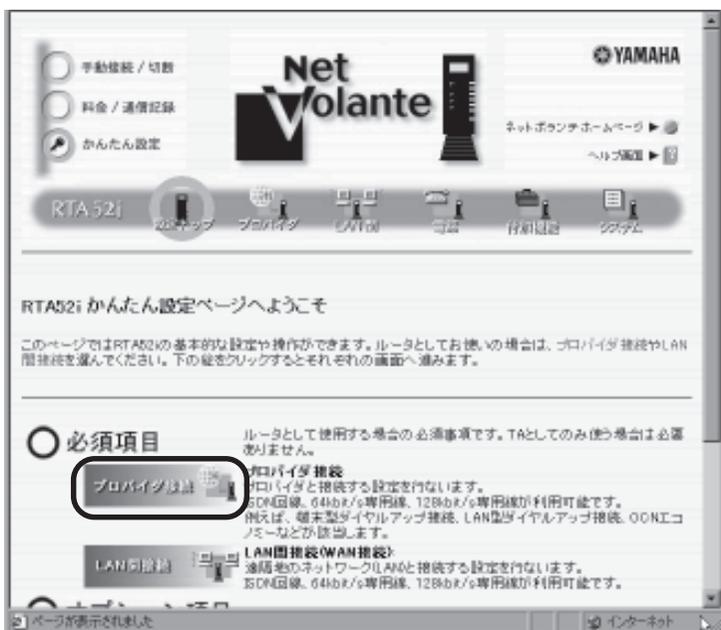
- 4 [かんたん設定]を押します。
「かんたん設定」ページが表示されます。



4

ルータを使ってみよう

- 5 [プロバイダ接続]を押します。
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第2章を参照して設定してください。



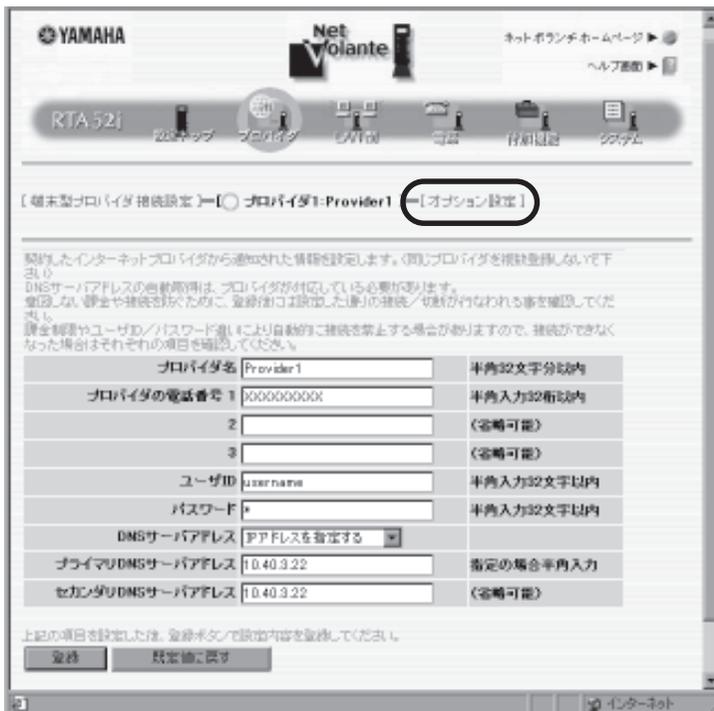
Win

Mac

6 プロバイダ名の右の[登録の修正]ボタンを押します。



7 [オプション設定]を押します。



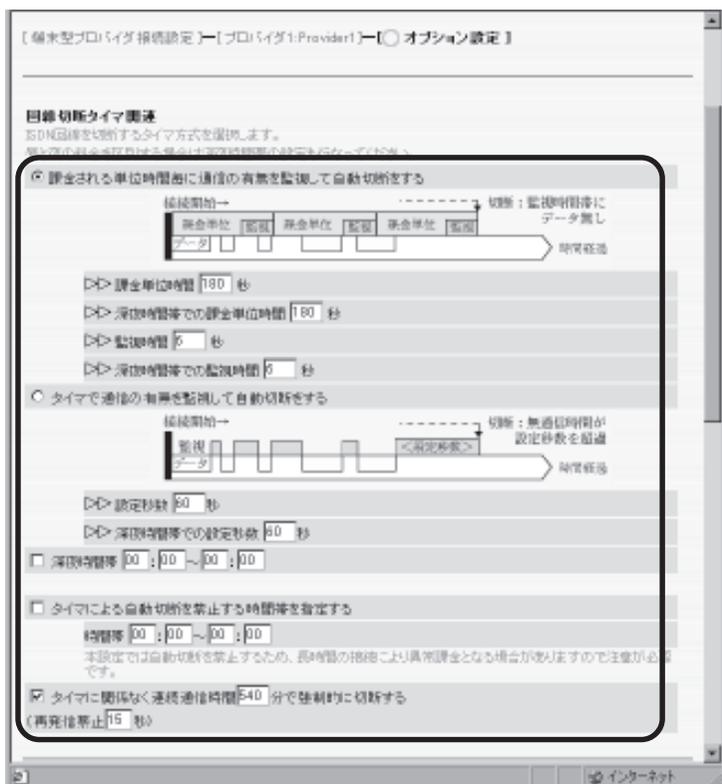
4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

8 切断タイマの制限条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力します。



課金される単位時間毎に通信の有無を監視して自動切断する
3分10円などの課金単位で自動切断したいときは、この項目をチェックします。
契約内容に合わせて昼間や深夜の単位時間を変えることができます。

タイマで通信の有無を監視して自動切断する
アクセスしない時間によって自動切断したいときは、この項目をチェックします。

深夜時間帯
上記の2項目で深夜時間の設定を指定するときは、この項目をチェックし、深夜の時間帯を入力します。通常のNTT通話料金では、23:00～8:00が深夜料金扱いになります。

タイマによる自動切断を禁止する時間帯を指定する
テレホーダイを利用している場合、利用時間帯に自動切断しないよう設定したいときは、この項目をチェックし、時間帯を入力します。

タイマに関係なく連続通信時間XXX分で強制的に切断する
連続通信時間を監視して切断したいときは、この項目をチェックします。初期値は、540分(9時間)に設定されています。

9 発信制限の条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力します。

発信制限 [料金設定]
料金情報/料金情報はNTTの交換機から提供される情報です。各種サービスを使用されますと内容が異なります。
[?] ヘルプ

累積料金が [10000] 円以上になったら接続を行わない
 累積接続時間が [50] 時間以上になったら接続を行わない
 累積発信回数が [1000] 回以上になったら接続を行わない

MF関連
プロバイダがMFに付いている場合のみ設定して下さい。
設定した時間のみ使用する場合は時間等を指定して下さい。

MFを使用する
 時間等を指定 [00] : [00] ~ [00] : [00]
通信の負荷に応じてチャネル数を増減させる

NTPサーバ関連
毎月1回時刻を修正します。
 時刻をインターネット上のサーバに定期的に同期させる
NTPサーバIPアドレス

静的IPマスカレード関連
指定ポートへの外部からのアクセスを許可します。

プロトコル	ポート	使用ホストIPアドレス
<input type="checkbox"/> TCP		

上記の項目を設定した後は、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

ページが表示されました インターネット

累積料金が XXXXX 円以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積料金で制限したいときは、この項目をチェックし、金額を設定します。初期値は1万円に設定されています。

累積接続時間が XXXXX 時間以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積接続時間で制限したいときは、この項目をチェックし、時間を設定します。初期値は50時間に設定されています。

累積発信回数が XXXXX 回以上になったら接続を行わない
プロバイダ接続の累積発信回数で制限したいときは、この項目をチェックし、回数を設定します。初期値は1000回に設定されています。

10 画面下にある[登録]ボタンを押します。

4 - 6 不審な自動接続が見つかったときは

自動接続機能でインターネットへ接続している場合で、料金情報や通信記録を見て使った覚えのない通話料金があった場合は、パソコンのソフトウェアや機器が自動的にインターネットへアクセスしている疑いがあります。ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコン使用中に自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があります。放置すると、多額の通話料金になる場合がありますので、こまめに料金や通話記録を確認してください。

次のような場合は、特にご注意ください。

本機を使い始めた時

本機のプロバイダ接続設定を変更した時

パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時

MP 接続を設定した時

LAN 接続と TA 接続を併用または切り替えた時

パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時

ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時

本機のファームウェアをリビジョンアップした時

その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など



注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定(TA 接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

MP 接続に対応していないプロバイダに対して、MP 接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。

■ 通信記録の見かた

料金 / 通信記録ページ

「料金 / 通信記録」ページでは、各ポート毎の累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数、通信毎の履歴を調べることができます。

料金情報【料金設定】

通信種別	最後の通信料金	累積料金	累積接続時間	累積発信回数	累積着信回数
プロバイダ 1 Provider 1: 使用中	10円	20円	00:02:54	2回	0回
TEL1ポート	0円	150円	00:19:21	11回	1回
TEL2ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
SERIALポート	0円	120円	00:20:29	10回	0回
ISDN-DIP	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計	290円	00:42:38	29回	1回	

着信転送履歴【電話設定】

TEL1 着信転送しません
TEL2 着信転送しません
TEL3 着信転送しません

メール着信数【メール設定】

メール着信確認は設定されていません

メール転送履歴【メール設定】

メール転送は設定されていません

通信履歴

日付	時刻	通信種別	通信時間	料金	コード	相手
1	2000/01/11 10:56:00	PPH1:発信	00:01:51	10円	16	0323456789
2	2000/01/11 10:52:54	PPH1:発信	00:01:00	10円	16	0323456789
3	2000/01/11 10:11:50	TEL1:発信	00:00:40	10円	16	117

料金情報

プロバイダごとの累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数が表示されています。

通信履歴

発信日付、発信時刻、通信種別、通話時間、通話料金、切断コード、相手先の番号が新しい順に100件まで記録されています。通信種別がPPxxとなっている通話が、プロバイダ（またはLAN間接続相手）へ接続した通話です。

ログ情報の見かた

「システム管理」の「内部情報」ページでは、自動接続のきっかけになったアクセスの情報を Syslog 表示で調べることができます。

意図しないアクセスが多いときは、アクセス先ホストの IP アドレスやアクセス時間（もしくは間隔）などを手がかりに、どのアプリケーションソフトもしくは機器がアクセス要求を出しているかを調べて原因を探してください。

アクセス例 1



PP[01] IP Comencing : TCP 192.168.0.2 : 1273 > 133.176.220.31 : 80
プロバイダ番号 パソコンの IP アドレス アクセス先の IP アドレス

上記のアクセス例では、LAN 内のパソコン (192.168.0.2) からインターネットのホスト (133.176.220.31) へのアクセス要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

アクセス例 2

PP[01] IP Commencing: UDP 192.168.0.2:1024 > DNS サーバ:53
(DNS Query [windowsupdate.microsoft.com])

上記のアクセス例では、LAN 内のパソコン (192.168.0.2) から DNS サーバへインターネットのホスト (windowsupdate.microsoft.com) の IP アドレスを調べる問い合わせ要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

■原因になりやすい設定項目

不審なインターネットアクセスの原因になる設定項目には、次のようなものがあります。OSを使い始めるときや、新しいソフトウェアをインストールしたときは、例を参考に設定を見直してください。

頻繁に発信している場合

パソコンのネットワーク設定のDNS設定値を確認してください。インターネット上のDNSサーバのIPアドレスが指定されていると、頻繁にアクセスする場合があります。

パソコンを起動するたびに発信している場合

アクティブデスクトップを表示している場合、表示の設定内容により、起動する度にインターネットへアクセスしている場合があります。また、パソコン起動時に自動的に開くソフトウェアが有る場合は、[スタート]ボタンの[スタートアップ]項目を確認してください。スタートアップに登録されているソフトウェアの設定を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

コントロールパネルの [画面] 設定

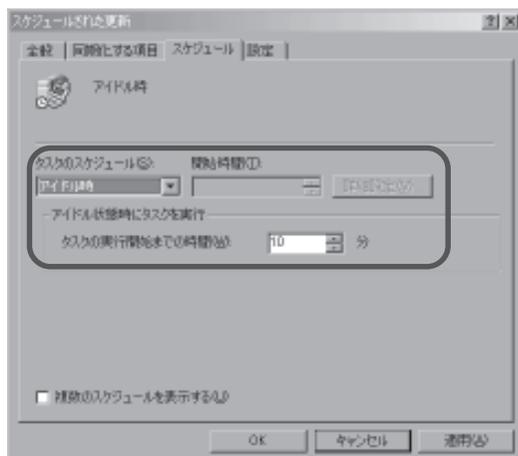
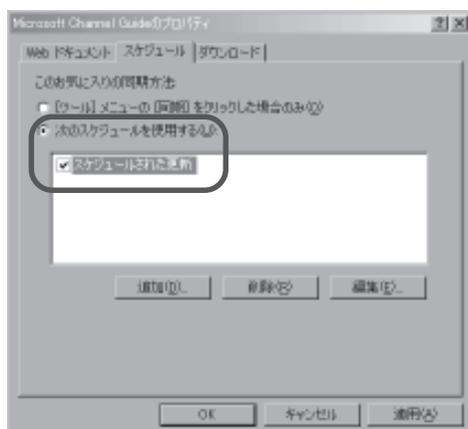


定期的に発信している場合

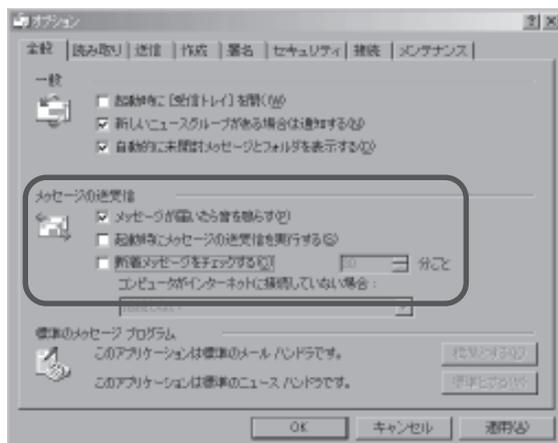
1日に何回も発信している場合は、Internet Explorerのチャンネルを購読している場合やWindows updateを利用している場合、メールの自動送受信が設定されている場合などが考えられます。各パソコンの該当するソフトウェア設定を確認してください。

1日に数回の場合は、ハードウェアのメンテナンスプログラムやNTPサーバ(インターネット自動時刻サーバ)の設定を確認してください。

購読チャンネルのプロパティ



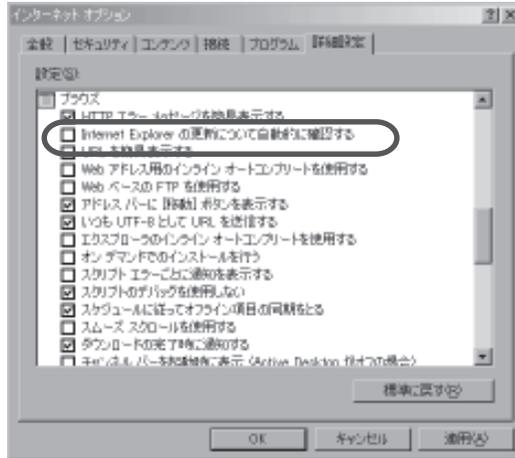
Outlook Express の [オプション] 設定



ソフトウェアを開くたびに発信している場合

インストールしたソフトウェアの環境設定（初期設定）を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

Internet Explorer の [インターネットオプション] 設定



4

ルータを使ってみよう

Win

Mac

付録

付録では、スタートマニュアルの索引を収録しています。

索引	1 4 2
----------	-------

索引

英数字

10BASE-T ポート	11
B1 ランプ	121
B2 ランプ	121
[CONN/DISC] ボタン	119, 120
DSU	17, 31
DSU スイッチ	17, 18, 31, 32
FAX 機器の接続	19
HUB	25, 33
IP アドレス設定	66
ISDN S/T ポート	18, 32
ISDN U ポート	17, 31
ISDN 回線	8
ISDN 回線の接続	16
ISDN ケーブル	18, 32
ISDN 付加サービス	9
i・ナンバー	9
L1 ランプ	21, 121
LAN カード	12
LAN ケーブル	25, 33
LAN ボード	11
LAN ポート	11
LAN ポートの接続	24
LAN ランプ	27, 121
Macintosh 変換ケーブル	28
MSG ランプ	121
POWER ランプ	121
SERIAL ランプ	29, 121
TA 接続のインターネット接続操作	
Macintosh	104
Windows	99
TA 接続の設定	
Macintosh	100
Windows	94
UPLINK ポート	25, 33

ア行

アースコード	20, 35
アース端子	20, 35
インストール	
Macintosh	41
Windows	40

カ行

かんたん設定ページ	123
擬似 LAN 接続の設定	
Macintosh	85
Windows	75
擬似 LAN の LAN 接続操作	
Macintosh	93
Windows	84
コールウェイティング	9

サ行

サブアドレス通知	9
三者通話	9
自動アップデート	137
自動接続	118
自動切断	120
手動接続	119
手動切断	120
手動接続	124
シリアルケーブル	28
シリアルポートの接続	28
接続情報	10
専用線	8
専用線接続契約	10
専用線接続の設定	
Macintosh	67

タ行

ターミネータスイッチ	22, 37
ダイヤルアップ接続の設定	
Macintosh	50
ダイヤルイン	9
端末型ダイヤルアップ接続契約	10
着信転送	9
チャンネル	138
通信記録	135, 136
通信中着信サービス	9
通信中転送	9
ディスプレイ	122
電源コード	20, 35
電源の接続	20, 35
電池カバー	14
電話機の接続	19

ナ行

ネットワークアドレス	66
ネットワーク機能の設定	
Windows	108
ネットワーク設定	
Macintosh	107
Windows	105

ハ行

パソコンセットアップ ユーティリティ ...	40
バックアップ電池	14
発信者番号通知	9
発信制限	129
不審な自動接続	134
フレックスホン	9
ブロードキャストアドレス	66
プロバイダとの契約	10

マ行

モジュラーケーブル	17, 19, 31
-----------------	------------

ヤ行

ユーザ間情報通知	9
ユーティリティソフト	40

ラ行

料金情報通知	9
ルータの動作確認	21

ヤマハ株式会社